







さ二三丈。全身に錦の斑文あり。羊牛などを害す。騰は薬用とせらる。すべてうつくしき模様ある蛇の稱。

にしきめがね(錦眼鏡)名、小兒の玩具。筒の一端に種々に染めたる硝子片を入れ之を廻轉しながら他端より望めば美はしき模様をなす

にしき糸(錦繪)名、美麗なる彩色繪。多くは浮世繪なり。江戸の名物として知らる。えどゑ。にしちん(お)り(西陣織)名、京都西陣地方より織り出す精巧なる織物の總稱。

にしどち(復蛸)名、地蟲の土地の中にて蛹となれるもの。形體の蛹に異ならず。小兒捕へて「西どち東どち」と云へば尾を左右に動かす。

にし(西)のうち(西内)名、西の内紙の略。

しがみ(一)紙(名)縦一尺五分横一尺五寸にして美濃紙より稍や厚く強き紙。もと常陸國西内より産出せしが故に此名あり。

ニシバ(Nisiba)代(アイ)メ語對稱の代名詞にじはうていしき(二次方程式)名、二次式にじはうていしきの最高程が第二程なるもの。程式中にあるXの最高程が第二程なるもの。

にしひ(西日)名、西天に傾きたる日。入日。にしひ(西)の(二十)一(倍)の(倍)数。はたち。にしひ(西)の(二十)一(倍)の(倍)数。はたち。にしひ(西)の(二十)一(倍)の(倍)数。はたち。

にしひ(西)の(二十)一(倍)の(倍)数。はたち。にしひ(西)の(二十)一(倍)の(倍)数。はたち。にしひ(西)の(二十)一(倍)の(倍)数。はたち。

書陳書北魏書北齊書周書南史北史隋書唐書五代史宋史遼史金史元史の稱。にしごう(二十)五(有)名、佛、迷界を總括したる名目。即ち四洲、四惡趣、六欲、大梵天、無想天、那含天、四禪天、四無色天、是れなり。二十五有界。

にしご(ボサツ)名、二十五菩薩(五佛)阿彌陀佛が念佛信者を守護せしむといふ。二十五の菩薩。即ち觀世音、大勢至、藥王、藥上、普賢、法自在、王陀羅尼、白象王、虛空藏、寶藏、德藏、金藏、光明王、金剛藏、山海慧、華嚴王、日照王、月光王、衆寶王、三昧王、獅子吼、定自在、王大威德、大自在、王光邊身の稱。

にしふしかう(二十四)名、支那歴代中の孝子二十四人。即ち大舜、漢文帝曾子、閔損、仲由、董永、刻子、江革、陸績、唐夫人、吳猛、王祥、郭巨、楊香、朱壽昌、庾黔婁、老萊子、蔡順、黃香、姜詩、王褒、丁蘭、孟宗、黃山谷の稱。

にしふしき(二十四)名、五日を一候とし、三候を一氣とし、二十四氣を一年とす。即ち立春、雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨、立夏、小滿、芒種、夏至、小暑、大暑、立秋、處暑、白露、秋分、寒露、霜降、立冬、小雪、大雪、冬至、小寒、大寒の稱。二十四節。

にしふし(二十四)名、二十二史に舊唐書舊五代史を加へての稱。

にし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまで

にし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまで

にし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまで

にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。

にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。

にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。

にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。

にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。

にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。

にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。

にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。にしふし(二十四)名、二十四節。

雀王増長天、毗沙門天、廣目天、摩和羅天、滿善車王、神母天、五部淨、難陀龍王、迦樓羅王、緊那羅王、摩睺羅、阿修羅王、金大王、乾闥婆王、沙迦羅王、金毗羅王、滿仙王、散脂大將、畢迦羅王の二十八神にて、共に觀音菩薩に侍寓す。故に觀音の廿八衆と稱す。

にし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまで

にし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまで

にし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまで

にし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまで

にし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまで

にし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまで

にし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまで

にし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまでにし(煮)染(他)動(下)二、煮汁の浸み入るまで











たる人。武士。●二本の串にさすより、焼豆腐又は豆腐田樂等の稱。

にほんばう(二本棒)名●はなをたらしたる子供を嘲りていふ語。●古、二本差即ち武士をあざけりて云ひし語。●馬鹿なる人。●女房にあまき亭主をあざけりていふ語。

にほやか(に句)●句たかく。かんばしく。●つやつやと。美しく。●艶に。

にまい(二枚舌)名●うそをつくこと。虚言をいふこと。●一をつかふ●中間に立ちて彼此に矛盾したる言を吐くこと。

にまめ(煮豆)名大豆黒豆などを砂糖醬油にて煮しめたるもの。

にん(任)名●つとめ。役務。せめ。責任。やくめ。官職。●職務を行ふ所。

にん(仁)名●果實の核中にある種子。たね。●忍(忍)名●たへしのぶこと。●佛(佛)恨を報せすしてしのぶこと。

にん(人)名ひと。人がら。人となり。●一にん(人)接尾人を数ふるにいふ語。

にん(一任意)名、ころまかせ。随意。勝手。●さいむ(一債務)名●債務者が其の債務の目的外の物を給付して辨済することを得る債務。

にん(一しゆ)●一出頭名●役所等へ任意ににんか(認可)名●承認して許可すること。●(法)其事の實行を許可する行政處分。

き記したる書付。●をトする人、易者。●一み(一見)名●人相によりて人の運命吉兆一めがね(一眼鏡)名●人相を見るに用ゐる眼鏡。天眼鏡。

にん(一しき)●認識名●心が外界及内界の對象を感知又は認識し若くは断定すること。●ろん(一論)名●認識の起原。本質及範圍等につきて研究する哲學。

にん(一しん)●妊娠名●はらみたること。みもち懷の頃、白色小形の花を開き、根は肥大にして黄色を呈す。葉根共に食用に供せらる。

にん(一じん)●人参名●葉は掌状複葉にして、花は小形白色なり。根は薬用に供せられ、朝鮮産のもの最著名なり。●扱ひたるころ。●ざ(一座)名●徳川時代、薬用の人参を取

にん(一ぼく)●一木(五種)葉は人參に似、夏穂状の花を開く。實は胡麻の大きにて黒し。いぬほ。●にんじやう(可珍)●刃傷名●やいばを以て争ひ

にん(一じやう)●人情名●人類の自然に有する愛情。なきげ。いつくしみ。●人心自然の情狀。苦をさげ樂につくは一なり。●にんじゆ(忍愛)名●たへしのびて受くること。

にん(一じゆ)●人壽名●人間のいのち。壽命。●にんじゆつ(忍術)名●身をかくして敵陣などに

にん(一えいげ)●一營業名●認可を得るにあらざればなす能はざる營業。●明書、認可證。

にん(一じやう)●一狀名●認可したることの證。●にんが(一人我)名●他人と自己と。●(佛)五蘊假に和合して成れる人身の上に常一主宰の我なるもの、實在せるが如く思ひ自他を區別するをいふ。

にん(一かい)●一人界(名佛)人間界の略。この世。(にんかう)てんわう(仁孝天皇)第百二十代の天皇。御名は惠仁。在位三十年。壽四十七。

にん(一から)●一人柄(名)人の品格。ひとがら。●にん(一き)●一人氣(名)世上の人の思入。多くの人の氣受け。聲望。●一が悪い。

にん(一き)●一任期(名)役目に服する一定の年限。●にんぎやう(可珍)●一人形(名)人の形に擬して作りたる玩弄物。木土等にて造る。

にん(一じたて)●一仕立(名)腋下をあけて袖をつけたる仕立方。●す芝居。●しはる(一芝居)名●あやつり人形にてな

にん(一つかひ)●一遣(名)人形をあやつり踊らしむる人。●更紗又は陶器の稱。●一て(一手)名●唐人形の模様を染め出せる

にん(一まはし)●一廻(名)にんぎやうつかひにんぎよ(認可)名●みとめて許可すること。●にんぎよ(一人魚)名●動(動)さんせう(う)をの一名●胴以上人に似、胴以下魚體をなせり

忍び入る術。●にん(一じよ)●一任所(名)赴任する地方。任務を行にん(一しよう)●一人證(名)法の人の申立を以て證據となす方法。

にん(一しよう)●一人稱(名)文法。人代名詞のとなへ置によりて別ちたるもの。●にん(一しよう)●一人證(名)法の人の申立を以て證據となす方法。

にん(一ず)●一人數(名)ひとかず。●多勢。●一だて(一立)名●古、御神樂などの行幸の時殿上人紙燭を持ち、主殿寮の官人二人たちあかしを持って供奉せしこと。●人數の配列をなすこと。

にん(一ず)●一自動サ變つとめとす。せめとす。引受く。●其の責に。●他動サ變●役目につかしむ。●擔當せしむ。まかす。

にん(一ず)●一自動サ變●はらむ。懷妊す。●す。●にん(一せん)●一人選(名)人を多くの中より選び出にん(一そく)●一人足(名)物の運送などに雇はるる労働者。人夫。●人をあざけりていふ語。

にん(一たい)●一忍耐(名)しのび堪ふること。こらふること。辛抱すること。●にん(一たい)●一妊帯(名)いはたおび。

にん(一たい)●一人體(名)にんていに同じ。●にん(一たい)●一形二體(名)ひとがらし。人品のやさからず

といふ想像の動物。入この魚を食へば長命不老なりと云ふ。

にん(一くわい)●一任槐(名)●國務大臣に任ぜらるること。●司法官に任ぜらるること。●にん(一ぐわい)●一人外(名)●人倫の道にはづれたること。非道。●普通人間並の取扱を受くる能はざる下賤のもの。

にん(一くわん)●一任官(名)●官職に任ぜらるること。●拜命。●官吏に任ぜらるること。●にん(一けふ)●一任候(名)弱きを扶け強きをくじく氣性に富むこと。をとこだて。

にん(一けん)●一人間(名)●支那にては、世間。よのなか。●我邦にては、人類。●かい(一界)●名佛。六界の一。人類の生活するこの世界。

にん(一なみ)●一立(名)人間一般のさま。一通り。●萬事塞翁馬(可珍)●可塞翁が馬を見よ。●にん(一けん)●一任限(名)にんきに同じ。

にん(一けん)●一任限(名)にんきに同じ。●にん(一けん)●一任限(名)にんきに同じ。●四代の天皇。御名は億計。在位十一年。壽五十。(二に五十一)

にん(一こく)●一任國(名)任命を受けて赴く國。●にん(一さう)●一人相(名)●人の容貌。●人の容貌を視て、その人の吉凶、禍福、心術等を占ふ一種の技術。

にん(一がき)●一書(名)人を捜し出さんが爲めに其の者の身長、相貌、年齢、衣服の地合などを書

にん(一だう)●一入道(名)●人間と生れて、苦を免れ得ざる世界。現世。●にん(一だく)●一認諾(名)●よしと認めて承諾すること。●(法)口頭辯論にて當事者の一人が相手方の主張を承認すること。

にん(一ち)●一任地(名)●役目にあたるためにおもむくにん(一ち)●一認知(名)●みさだむること。わきまふること。●(法)規定の法式により、私生子の父又は母たることを任意に自白すること。

にん(一ちやう)●一人長(名)●神樂の舞人の長。●にん(一ちやう)●一人定(名)●人の寐しづまる時刻。午後十時頃。

にん(一ちゆう)●一人中(名)●鼻みぞ。●多人數の中にん(一ちゆう)●一人中(名)●一人の小便の中のをり。薬品にする時の稱。

にん(一ちゆう)●一人中(名)●一人の大便の中の黄色なるしる。薬品にする時の稱。●にん(一てい)●一認定(名)●認め定むること。

にん(一てい)●一人體(名)ひとがら。人品。●にん(一し)●一人形(名)にんたいらに同じ。●にん(一とう)●一人頭(名)ひとかず。人數。

にん(一せい)●一稅(名)●人の頭數に賦課する稅。●にん(一とう)●一忍冬(名)●山野に生ずる蔓草にして葉は橢圓狀をなして對生す。夏の初め淡黄色の香氣ある花を開く。葉は薬用に供せらる。金銀花。

にん(一とく)●一人德(名)●其の人に自然にそなはれる























競馬相撲などにて競技者に味方する人。ひいきする人。

ねんじゆ(年首)名年初。新年。「のろ」と。

ねんじゆ(念呪)名呪文を念ずると。心中にい

ねんじゆ(念珠)名すず(新珠)に同じ。

ねんじゆ(念誦)名佛名をとらへ經文を誦す

ること。「一堂」

ねんじゆつ(拈出)名ひねり出すこと。つまみ

出すこと。詩文の句などを考へ出すこと。「か

かげあぐる」こと。捻出。

ねんじよ(年初)名としのはじめ。年頭。年

ねんじよ(年所)名としの年に同じ。

ねんじよ(念慮)名おもひ考ふる當面の境遇。

ねんじよ(念書)名書物をよく讀むこと。

ねんず(念誦)名ねんじゆに同じ。

ねんず(念)他動サ變。心中に祈る。心中に唱

ふ。「觀世音をうべ奉りて」堪ふ。こらふ。た

へ忍ぶ。「苦しきをうじて」

ねんすう(年數)名年の數。としかず。

ねんせい(粘性)名ねばる性質。

ねんせい(耕土)名百分之五割以上

の粘土の存在する耕土。「税」

ねんせい(年稅)名毎年納むる税。一箇年の

ねんせい(年少)名としわか。としした。

わがもの。少年。

ねんせい(燃燒)名化物體と空氣中の酸

素と化合して熱と光を發すること。もゆると。

ねんせい(年抄)名としのくれ。年のを

はり。歳暮。

ねんそ(年租)名一年間の租稅。

ねんたい(粘體)名理。固體と液體との中間

の状態をなす物質。例へば餡の如く。一見固體

の如くして久しく放置すれば漸次扁平となる

もの。「よ。時代」

ねんだい(年代)名過ぎ經たる年。「とき

一き」一記)名古より年毎に起りたる事件を

年を追ひて記録したるもの。

ねんちやう(年長)名年たけたること。又其

ねんちやう(粘着)名ねばりつくこと。

ねんちやく(粘着)名ねばりつくこと。

ねんちやく(粘着)名ねばりつくこと。

ねんちやく(粘着)名ねばりつくこと。

ねんちやく(粘着)名ねばりつくこと。

ねんちやく(粘着)名ねばりつくこと。

ねんちやく(粘着)名ねばりつくこと。

ねんちやく(粘着)名ねばりつくこと。

ねんちやく(粘着)名ねばりつくこと。

ねんちやく(粘着)名ねばりつくこと。

ねんちやく(粘着)名ねばりつくこと。

適せざるもの。ねばつち。

ねんじゆ(年實)名粘土を多量に含む性質。

ねんじゆ(年度)名事務又は會計の計算其他

の便宜によりて某月より翌年の某月まで十

二箇月間を一くきりとしたる期間。

ねんじゆ(替)名替名年度のかはり改まる時

ねんじゆ(年頭)名一年始に同じ。「年賀に

同じ。「ばす

ねんじゆ(念頭)名心。心頭。おもひ。「に浮

ねんじゆ(年内)名其の年のうち。「立春」

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

ねんじゆ(念無)名意外に案外に思の

一さうぞく(相續)名佛前念と後念

との間に餘念をまじへず一心專念すること。

ねんのため(念爲)副注意のため。こころづ

けて。

ねんばい(年配)名としころ。としのほど

◎其事にふさはしきとしげえ。年輩。年紀。

ねんばう(念望)名のぞみ。ねがひ。

ねんばう(年報)名一箇年間に起りたる事

柄の報告。「るこ」

ねんばん(年番)名一年毎に交代して番をす

ねんばん(粘板岩)名鐵泥板岩の一層

一サンマイ(三昧)名一心專念に念佛す

ること。

一しゆう(一宗)名佛敎の一派。崇徳天

皇の頃、天台より出でたる僧良忍の始めて唱

へ出せるもの。融通念佛。

一だう(一堂)名寺院にて信者の念佛

を修するために設けたる堂。

一わろじやう(往生)名念佛三

昧によりて往生の素懷を遂ぐるこ

ねんぶん(年分)名一年のたか、又はわりあ

ねんべう(年表)名歴史上の事件を年月

に始まるが故に、新しき層と舊き層との間に境

界を生ず。此境界線は毎年一輪づゝ生ずるが

故に年輪といふ。

ねんりよ(念慮)名おもんばかり。おもひ

より。ぞんじより。「年始の回禮」

ねんれい(年禮)名年のはじめの祝賀の禮。

ねんれい(年禮)名よばひ。としのほど。

ねんれう(燃料)名もやして熱を生ぜしむる

もの。薪炭の類。

ねんれき(年歴)名數年の來歴。

ねめかく(暇掛)他動カ下二回次に同じ。

ねめつく(暇付)他動カ下二回強くにらむ。に

らみつ。疾視。

ねめつける(暇付)他動カ下二回ねめつくの

ねめる(暇)他動カ下二回ねむの轉。

ねもころ(懸)名ねんころに同じ。

ねものがたり(寐物語)名寐ながら話し合ふ

こと。「どこ」

ねや(闇)名寐屋の義。夜間寐る室。ねま。ね

ねやごと(闇事)名ばうじ(房事)に同じ。

ねやしぎぬ(粘絹)名ねりてやはらかにしたる

絹。「廉價」

ねやす(直安)名直段のやすきこと。やすね。

ねやす(粘粘)他動サ四回ねりてねばらす。

ねりてやはらかにす。

ねやど(寐屋處)名闇。ねど。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。

ねやま(根山)名近き山。











のつばらばう(滑) 滑かなること。又其物の模様なきこと。又其物。變化なきこと。又其物のつべり名。副詞。ひらくたくして長きさまにいふ語。容貌の小綺麗なるさまにいふ語。つば名。たけの高きに過ぐること。又其人。のつば(野面)名。野原のおもて。石の自然の肌。石工の語。恥を知らぬ顔。あつかは。鐵面皮。靦顏。

のてつばう(野鐵砲) 野鐵砲名。うそ。ほら。虚言のてん(野天)名。家の外。屋根なき所。露天のと(祝詞)名。のりと約。

のど喉咽(喉) 名。口腔の奥の飲食・呼吸を通ずる所。うたふ音聲。「うたふ」がなる。句。美食などを見ていたく食欲のあること。

のどか(長閑) 名。ゆるやかなるさま。おちつきでしづかなるさま。おだやかなるさま。悠然。空晴れて天氣うららかなること。日和のおだやかなること。

のどくび(喉頭) 名。喉と頸との邊。

のどけ(喉氣) 名。喉の内部の腫れ痛む病。喉痺のどけし(和形)のどかなるさまにてあり。のどかなり。

のどこびと(野床人) 名。獵師の異稱。

のどちんこ 名。のどひこに同じ。

のどつづみ(喉鼓) 名。のどなること。即ち食

慾の盛んに起ること。「まよとの意。のとなれやまとなれ句。如何あらんともまのどに。副詞。のどかに。靜かに。

のどど(名) 名。副詞。いとどかなるさまにいふ語。

のどひこ(懸垂) 名。口腔の奥に垂下せる軟口蓋の尖端。のどちんこ。

のどぶえ(喉吭) 名。喉の氣管の通ずる所。のんぶぶえ。ふえ。

のどボトケ(喉佛) 名。喉の中間の凸出でたる所。即ち甲状軟骨の俗稱。

のどまる(和) 自動ラ四。しづるま。おちつく。ゆったりとなる。やはちぐ。

のどむ(和) 自動マ下二。のどまらしむ。

のどやか(名) 名。のどかに同じ。

のどよぶ(長閑呼) 自動ハ四。長閑に呼ぶ。聲ゆるやかに悲しく呼ぶ。喉聲にて呼ぶ。喉呼。

のどらか(名) 名。のどかに同じ。

のどら(一則) 自動ラ四。のどらに同じ。

のどろ(名) 名。のどろひとどめなきこと。

のどろか(名) 名。のどかに同じ。

のどろに(副) 延びて止る所なく。はうづもな。すてきに。「一廣し」「一深入り」

のどわ(喉輪) 名。鏡の附屬具。牛輪の状をなし別に喉の邊にとり添ふるもの。

のなか(野中) 名。野原のなか。野のなか。

ののしみづ(清水) 名。野中に湧ける清



水。もと「己」が妻としたる女。古今集にある「古のぬるけれどもの心を知る人ぞ汲む」の歌より出づ。

のねこ(野猫) 名。飼主なく野原にすむね。

のねずみ(野鼠) 名。動。はつかねすみに同じ。の名。神佛又は月などすべて貴ぶべきもの。「一さま」名。前と同じ。「稱(小兒の語)ののくれやまのくれ」副詞。のくれやま。くれに同じ。

ののしる(喧呼) 自動ラ四。聲高にいひ騒ぐ。やののしる。罵。他動ラ四。聲高に叱す。怒りて叱りふ。どなる。しかる。のる。あしさまに。や。やしみて。

ののみや(野宮) 名。皇女の齋宮。齋院に立ち給ふべきとき先づ齋戒の爲めに座します宮の稱。齋宮のは山城國嵯峨の有栖川に、齋院のは同紫野に在り。

ののめく(喧呼) 自動カ四。ののしるに同じ。

ののばか(野袴) 名。裾に廣き縁を附けたるもの。古。遠行するに用ゐたり。

ののばす(延伸) 他動サ四。延べて引き張る。長くひろく。盛大に。富有に。「一身分を」。「溶かす」とく。「糊を」。「長引くやうにす。くらす。目を」。

ののはと(野鳩) 名。やまばとに同じ。

ののはは(延) 自動ラ四。延び引く。「しづみたる愛にかはりて今までもりて」。

のぼ(延) 他動ハ下二。延べ引く。數知らず君が齡を「へつ」。

のぼら(野原) 名。人家などのなき廣き平地。のび(延伸) 二名。延ぶること。長き。たけ。倦み又は勞れたるときなどに自ら手足を伸ぶること。「うて枯草をやくこと。野焼」。

のび(野火) 名。春の初めに野山に火を放のびあがり(伸上) 名。のびあがること。

のびあがる(伸上) 自動ラ四。足をたまためて脊をのべて高くす。又曲りたる身體をのほし立つ。のびたつ(伸立) 自動タ四。おひ立つ。成長す。暢のびちぢみ(延縮) 名。のぶとちぢむと。長くならんと短くなると。「つるぐさまにいふ語」。

のびのび(伸伸) 名。心ゆるやかにして體のうつくふ語。伸長。「一」名。物事の次第に延引するさまにいふ語。「一」になる。

のびやか(延) 名。障りなくのびくしてあること。のびる(野蒜) 名。種。臭氣多く、葉は細長くして葱に似、根莖は白色にして球状をなす。

のぶ(禰) 名。佛。のぶえの略。

のぶ(延) 名。袈裟(名) さままのの不用の切地をあつめて縫ひ綴りたる袈裟。

のぶ(延伸) 自動ハ上二。長くなる。ひろがる。久しくなる。遅くなる。長引く。延引す。「日限」。「高くなる。成長す。草」。「溶けて多量になる。ゆるやかになる。糊」。「大く盛に

なる。身分」。「おちゆく。げゆく。時間立ちて脆くなる。そばきりなどにいふ」。

のぼ(延) 自動ハ下二。長くす。ひろく。ひきはる。久しくなす。延引せさす。遅くなす。平にひろげ敷く。蒲團を「一」溶解す。とかす。のぶ(宣申、陳述) 他動ハ下二。長く説く。精しく語る。

のぶえ(禰) 名。佛。のぶのケサに同じ。

のぶうぞく(野風俗) 名。いやしき風俗。げびたるならひ。

のぶく(野服) 名。昔。遠行旅行などの時に着る衣服。即ち野袴。脊割羽織の類。

のぶし(野伏) 名。山伏に同じく、山野を宿として旅するもの。「のぶせり」。

のぶし(野武士) 名。主將なく山野にさまよふもの。ぶすま(野伏間) 名。動。むささびに同じ。

のぶせり(野臥) 名。野武士の稱。山野にひそめる盜賊。やまだち。山城。

のぶたう(野葡萄) 名。種。えびづるの一種。山野に生ず。葉は掌狀に分裂す。果實は大形にして秋熟し紫・紅・白など雜りて美しけれども食ふべからず。枯るときは黒色となる。

のぶと(野太) 名。形。づぶとに同じ。

のぶろ(野風呂) 名。野遊びなどに携へゆく茶湯の風呂。

のべ(野邊) 名。野のあたり。のぼら。のら。葬に出づること。葬送。火葬。茶毘。「一

の煙」。

のぼくり(送) 名。はうむりに出づること。

のぼくり(送) 名。前に同じ。

のべ(延) 名。のぶること。又のべたること。

のべがね(延金) 名。鍛ひてのべひるけたる金屬。刀劍。

のべがみ(延紙) 名。杉原紙の小さきもの。鼻紙に用ゐる。

のべさを(延棹) 名。つき棹にあらざる三味線のべしじめ(延縮) 名。のぶるとちぢむと。のぶるとしじまると。のべちぢめ。

のべばらひ(延拂) 名。期日をのべて支拂のべたら名。副詞。たえ間なくつづきさまにいふ語のべつ名。副詞。のべたらに同じ。

のべく(延) 名。たえまなくつづくこと。

のべる(延) 名。のぶの轉。

のべざり(鋸) 名。のぶざりの古稱。

のぼす(上登) 他動サ下二。上へす。む。高きへあぐ。記載す。さきのす。歴史に「一」京へ送り道る。上流へ送る。さかのぼらす。

のぼす(逆上) 自動サ下二。身氣常にたがひて頭部熱す。上氣す。こり傾く。ふけりすさむ。夢中になる。血迷ふ。

のぼせ(逆上) 名。のぼること。

のひきさげ(引下) 名。のぼせをなほすこと。のぼせひきさげぐすりの略。

のぐすり(薬) 名。のぼせを療治する下

病劑。

のぼせる自動サ下二のぼすの轉。

のぼり「幟」名旗の類。布の横に多くのち乳を

つけ竿に通して立つるもの。「るくひ」。

「くひ」(一)杖)名のぼりざを結びつく

「ざ」と「邑」名其形の幟を立てたるさまに

似たればいふ。漢字の旁の名。鄭郵等の右方

にある「の」の字の稱。

「ざを」(一)竿)名のぼりをつけて立つる竿。

のぼり「上」名のぼること。あがること。登る

路。「阪の」三里。田舎より京へ行くこと。

上京。砲のおくみ。

「ざか」(一)阪)名のぼる阪路。のぼりみち。

「つむ」(一)詰)自動マ下二極度までのぼる。上

りて極度まで達す。

「つめる」自動マ下二前の轉。

「ぼ」(一)羽)名鳥の空へのぼるとき羽ばたき

「ぼし」(一)階)名梯子。「すること」。

「ぶね」(一)船)名上流にさかのぼる船。又京

地へ向ふ船。「を畫きたるもの」。

「りよう」(一)龍)名畫に龍の空へのぼるさま

のぼる「上」自動マ四。高くへゆく。上。進む。

「上流へゆく。さかのぼる。逆上す。のぼ

す。京へ向ふ。京へ行く。賤貴す。

のま(野馬)名野飼の馬。牧馬。

のまめ(野豆)名種。野生の草。葉はふぢまめ

に似て小さく莖と共に茶褐色なり。夏、葉の

間に穂状花序をなして花を開く。形草に似て

淡紫色なり。莖の長さ五分許。子圓く長く、

生にて食ひて腥氣なし。やぶまめ。鹿齋。

のま(野眞麻)名野生のからむしの稱。

のみ(蚤)名動。體驅小さく側扁にして胸部の

三節相分離し三對の脚ありてよく跳躍する

蟲。夏濕地に生じ人畜に着きて血を吸ふ。雄

は瘦せて雌は肥ゆ。「なるもの」。

「のめをと」(一)夫婦)名夫より婦の肥大

のみ(鑿)名工匠の具。孔を穿つに用ゐる具。柄

ありて槌にて其頭を打ちて孔を穿つ。種類多

のみ(船茹)名のめに同じ。

のみ(飲)名のみに同じ。

のみ助(而已)一ありて二なき意を示す語。は

かり。「我」知る。「耳」決定の意を示す語。

「如斯」一

のみあかす(飲明)他動サ四夜どほし酒をのみ

て曉に及ぶ。酒をのみて徹夜す。

のみかけ(飲掛)名飲みて中途にてやめたる殘

りのみのこし。「薬。内服薬」。

のみぐすり(飲薬)名飲み用ゐる薬。内服の

のみくち(飲口)名飲みたる風味。よく酒

をのみこと。のみて。大酒家。

のみぐち(呑口)名樽に穴を穿ちて其穴には

ぬ中の液體を注ぎ出す口とする管。栓にて抜

き差しす。「しよく」。

のみくひ(飲食)名のむとくふと。いん

のみくひ(蚤食)名蚤に刺されて肌につき

たる痕。

のみくらふ(飲食)他動ハ四酒をのみ有

を食ふ。いんしよくす。十分酒をのみ

のみこみ(呑込)名のみに喉に下すこと。會

得すること。なつとく。合點。「一が早い」

のみこむ(呑込)他動マ四呑みて喉へ入る。

呑みて腹中へ下す。嚥下。心に理解す。會

得す。合點す。了解す。「るもの」。

のみさし(飯殘)名のみさすこと。又のみさした

のみさす(飲止)他動サ四飲む中途にて止む。

のみし(飲師)名のみに。上戸。

のみしろ(飲代)名酒などをむ代金。

のみち(野路)名野中の路。野徑。

のみつくら(飲競)名何れが多く飲むかをく

らへあふこと。

のみつぶし(飲潰)名のみつぶすこと。

のみつぶす(飲潰)他動サ四飲酒にふけ

りて財産を倒す。酒をのみて日を暮らす。

のみて(飲手)名よく酒をのみ人。「あり」

のみて(飲出)名酒などの飲むに足る量。一

のみとり(蚤取)名のみにとること。又其薬。

「ぐさ」(一)草)名種ありのたふに同じ。

「まなこ」(一)眼)名鏡として視力の強き眼

又大小もらす注意して視ること。

のみぬけ(飲抜)名サ四杯の酒などを残さず

のみほす(飲乾)他動サ四杯の酒などを残さず

に飲む。

のみまはし(飲廻)名一つの器に盛りたる

ものを順々にのみてまはすこと。

のみみづ(飲水)名のみに用ゐる水。飲用

水。飲料水。

のみむし(蚤蟲)名動はれむしに同じ。

のみもの(飲物)名のむべき料のもの。飲料。

のみれう(飲料)名前に同じ。のみの

しろ。自分の飲むにあつるもの。

のみ(呑)他動マ四口より喉へ下し胃へ送る

「酒を」一。吸ひ込む。煙草を「あはせ

とる。遺恨失。吳。輕蔑す。輕んず。敵

を「懐に」かくしもつ。「七首を」一

のむ(祈)他動マ四請ひ願ふ。祈る。乞ふ。

のむし(蠶)名動。きくひむしの古名。

のんき名。氣の煩ひなくのびくしたるこ

と。心配苦勞なきこと。氣の長きこと。無

頓着。平氣。「こと。厚顔」。

のんこ名。恥辱の感じにふきこと。鐵面皮なる

「のしや」名前に同じ。「大酒家」。

のんだくれ名。おほざけのみ。そこぬけ。

のんたらう(呑太郎)名前に同じ。

のんど(喉咽)名(呑門の義)のどに同じ。

「ぶえ」(一)吭)名のどぶえに同じ。

のんびり名。副。心ゆるやかにして體のくつろぐ

さまに。ふ語。

のんべんだらり名。副。空しく時間を費や

さまに。ふ語。



は

は



は 上圖の如く舌の後部を少しく高め軟口蓋の後部との間に一の狹窄門をつくりて急に氣息を通過せしむるによりて生ずる舌根の摩擦音と母韻「あ」との緩音。五十音圖中「は」は「行」の第一に位す。下に「は」は「フ」を受くる時は「ホ」の如く轉呼することあり、ばうち(報知)は「は」の如し。

は(葉)名種 草木の莖幹枝條の側邊に互生し又は對生し、若くは輪生するもの。形色種々なれども多くは綠色にして扁平なり。木質より成れる線狀あり、これを葉脈といふ。一箇の片より成るものを單葉といひ二箇以上の片より成るものを複葉といふ。呼吸作用及同化作用を營む機關なり。又變形をなして特別の用をなすものあり。

は(齒)名 動物の上下の齶に生ずる骨の如きもの。主部は象牙質より成り其冠部の外面は珐瑯質にて蔽はれ其根部の外面は白堊質にて蔽はる。内部に小腔ありて、神經及血管通ず。門齒犬齒臼齒等の別あり。食物を噛み砕く用をなし、人にありては兼て言語を明白ならしむる用をなす。③すべて器具器械等に細かき

は

は

刻のならびいでたるもの。③車の輪の縁。④下駄足駄の下なる板の脚。履齒。⑤一が浮く。句齒の根浮き上がる。又未熟にして開きて不快の感あるにいふ。⑥一がたつ。句齒みて齒が通る。⑦一をあらはす。句齒ふこと。

は(刃)名 齒の義「きれ」もの。のふちの、薄く鏡き柄をつけたるもの。貴人の儀衛に用ゐる。頭に戴す。さしは「一とりの命婦」。「んば」。

は(端)名 一はた。ばし。山の「一」ばした。は(派)名 水の分流。えたがは。③流義宗旨のわかれ。④くみ。なま。

は(鬪)名 一はたがしら。諸侯の長。④武力を以て國を治め恩恵を施して民を安んずること。⑤其社會に傑出して主要の地位にあるもの。と區別するに用ゐる語。人「去り、我「止まる」(斯くまで「無」花「咲く」)。

は(把)名 接尾。束ねたるものを數ふるにいふ語。は(羽)名 接尾。鳥を數ふるにいふ語。

はあ

はあ

は「は」の濁音。「ば」音を發せんとするとき聲帯を振動せしむるによりて生ずる音。下に「り」或は「は」を受くる時は「ほ」の如く轉呼することあり。ばうけん(冒険)びんば(貧乏)の如し。

ば(場)名 名どころ。ところ。席。場所。ば(助)名 差別する天爾波のはの音便にて濁れるもの。爲すん「あるべからず」。

ば(助)名 助動詞。助動詞の第一第五の兩變化につきて、接續を示す語。「撃て」響く「撃た」響かむ。

ば(密)名 密閉せる上下兩唇を吹き破る瞬間に生ずる破裂音と母韻「あ」との緩音。一種の清音にして「は」の半濁音にあらず。

ば(あ)名 笑ふ聲。③ゆるき應答の聲。ば(あ)名 一場合。名 芝居などに、脚色の巧拙に關係なく、氣轉によりて當座の喝采を博すること。③すべて、まのあたりの事實に對して當座の人氣を博すること。「をり。しほ。時機。ば(あ)名 一場合。名 其場に行き合はる時。ば(あ)名 一羽蟻。名 蟻の一種。形蟻に似て、四羽ありて身より長く身は淡赤黒色にして光る。はり。飛蟻。白蟻。

ば(一)名 一拜。名 頭をあげて禮をなすこと。をがむこと。③書牘文にて自己の名の下にしろして敬意を表する語。

はい(盃)名 さかづき。

はい(胚)名 ①みごもり。はらごもり。②もと。おこり。③卵のきみの上面にありて、俗に眼と稱せらるるもの。即ち孵化して雛となる部分。④植物の種子の中に存し、二枚の厚き子葉を具ふるもの。即ち植物の起源となるべき部分。

はい(牌)名 標示の勝。しるしふだ。かけはい(配)名 ①あふと。たぐふと。ならふと。匹。②つりあひ。めをと。夫婦。③流刑。しまながし。④流刑の囚徒。つみびと。⑤「こもの」。

はい(輩)名 ①たぐひ。ともがら。類。等。②ならび。班。③軍發の車。百輛を一輩となす。④車の列をなすこと。

はい(背)名 うしろ。せ。せな。

はい(杯)名 接尾。流動體を器に盛れるを數ふる語。はい(唯)名 應ふる聲。「酒」。

はい(貝)名 動螺の類。海に産す。形たにしに似て、長くして厚く、黒褐にして旋文あり。肉は食用に供せらる。黄螺。小甲香。小兒。此殼の頭尖を碎き去りて獨樂とす。はい(一枚)名 一枚。名 夜討の時、軍勢の聲を立てざらんがために口に含む具。横に口に啣みて紐にてくびに結びたり。

はい(馬醫)名 馬の疾を療治する醫者。獸醫。はい(一師)名 前に同じ。「量」の稱。はい(倍)名 或數に對して、其數を二つ合したる

はい(倍)名 接尾。或數に對し、其數を重ねたる度數を數ふるにいふ語。ふたつまし。ばいまし。一倍といひ、二倍といふも同義なり。「二」「三」「四」。

はい(あん)名 廢案。名 廢止となりたる議案。又は「敗衣」名 やぶれたる衣。

はい(い)名 俳友。名 俳諧の連中。俳諧の友。はい(い)名 實淫。名 金錢をとりて色を賣ること。はい(い)名 婦。名 ひそかに淫をひさぐ女。ぢぢく。

はい(う)名 沛雨。名 沛然として降る雨。おほあめはい(う)名 梅雨。名 つゆ。毎年梅の實熟する頃、即ち陰曆五月頃に降りつく霖雨。轉じては梅雨の降る時節をいふ。芒種の後、壬の日に逢ふを入梅つゆいりとし、夏至の後、庚に逢ふを出梅つゆあけとすといふ。大抵、芒種の後降り初めて凡そ三十日間にして雷鳴ありて絶ゆ。

はい(え)名 一拜。名 會ふことの敬語。まみゆると。はい(え)名 一貝。名 貝。名 べい。いたらえふに同じ。はい(えん)名 肺炎。名 細菌より發する肺の病氣。初めは惡寒を感じ漸次發熱して胸部に劇しき疼痛を覺え咳嗽を發す。往々傳染することあり。

はい(えん)名 煤煙。名 すすけぶり。③石炭はい(おん)名 倍音。名 原音に對して其整數倍の振動數を有する音。

一九三二

は

はい(か)名 配下。名 しいした。手下。部下。はい(か)名 廢家。名 戸主の死亡せる後、相續人なくして、その名跡を立てざること。又其家。③法。新に一家をたてたる戸主が他家に入籍して自らたてたる家を廢すること。

はい(か)名 敗家。名 家産をたふすこと。家をたふすこと。③やぶれたる家。やぶれや。はい(か)名 子。名 家産を倒したる道樂むすこと。喜ひ申しの拜禮。

はい(か)名 倍加。名 まし加はること。ばいまし。はい(か)名 買價。名 うりねだん。はい(か)名 買價。名 かひねだん。はい(か)名 一併。名 たはむれ。おどげ。③和歌の一種にて戯れたる體に詠むもの。④後世、もつばら連歌の發句なる五七五の三句にて一首に詠みなすもの稱とす。之を發句ともいふ。俳句。

一九三三







はいま(驛)名ゆまの轉。  
 はいまし(倍増)名二倍に増すこと。  
 はいみやう(俳名)名俳諧を詠む時に稱する號。  
 はいむ(廢務)名事務をなさざることを。國葬などのとき、天皇の廢朝し給ふのみならず諸司も政務をなさざることを。  
 パインアップル(鳳梨 Pine-apple)名(種)アナスに同じ。「をうけたまはること」  
 はいめい(拜命)名仰をうけたまはること。任官  
 はいめい(背盟)名盟にそむくこと。  
 はいめい(併名)名はいみやうに同じ。  
 はいめつ(敗滅)名やぶれほろぶること。  
 はいめん(拜面)名會ふことの敬語。拜顔。  
 はいめん(背面)名うしろむき。うしろすがた。うしろ。せな。兵敵に對せざる面。正面の對。  
 はいも(貝母)名種あみがさゆりに同じ。  
 はいもん(排悶)名煩悶を除くこと。うさをはらすこと。  
 はいやう(培養)名つちかひやしなふこと。  
 はいやく(背約)名約にそむくこと。約束を守らざること。  
 はいやく(賣藥)名調合して賣る藥。うりぐ  
 ーしやう(商)名賣藥をなさふ商人  
 ーほ(舗)名賣藥を賣るみせ。くすりや。  
 はいやく(賣約)名賣る約束。

ーずみ(濟)名賣約の成立してあること。  
 はいよ(敗餘)名敗けたるあと。  
 はいよう(佩用)名おぶること。とりはくこと。身につくこと。  
 はいよう(胚孕)名子をはらむこと。  
 はいらい(蓀薺)名花のつぼみ。  
 はいらい(拜禮)名はいれいに同じ。  
 はいらう(肺勞)名病はいけつかく(肺結核)に同じ。  
 はいらん(拜覽)名見ることの敬語。  
 はいらん(悖亂)名道理にさかひ行をみだすこと。謀叛すること。國をみだすこと。  
 はいり(悖理)名道理にもとること。背理。  
 はいり(賣利)名賣り上げの利益。  
 はいりう(配流)名はいるに同じ。  
 はいりつ(排律)名詩の律體の一。七言又は五言の對句を六句以上偶數に連ねたるもの。帝王を立つること。はいりふ。  
 はいりつ(廢立)名今の帝王を廢してその次の帝王を立つること。はいりふ。  
 はいりやう(拜領)名貰ふことの敬語。つしみて頂戴すること。頂戴。恩賜。「含む量」  
 はいりやう(倍量)名數一つの量を若干はいりよ(配應)名心をくばること。こころづかひ。しんぱい。  
 はいる(配流)名流罪にすること。島流の刑に  
 はいる(道入)自動ラ四けひるの轉。  
 はいれ(商入)名古下駄の商を入替ふること。

又其業の人。  
 はいれい(拜禮)名頭を低れて禮すること。をが  
 はいれい(悖禮)名禮儀にもとること。  
 はいれい(背戻)名道にそむきもとること。  
 はいれい(陪隸)名ともびと。しもへ。とも。  
 はいれつ(排列)名ならべつらぬること。ならぶこと。ならび。配列。  
 はいろく(貝勒)名支那清朝にて親王の稱。  
 はいをく(敗屋)名やぶれや。  
 はい(方)名かた。むき。方角。正方形の面積。一四里。四角形。物をつくりなごする仕方。てだて。  
 はう(袍)名古、束帶の時用ぬし上衣。まるふりにして長さ膝まであり。綾にて種々の織文あり。官位によりて別を生ず。製に縫腋腋の二種あり。縫腋は兩腋の下を縫ひつけたるものにて天子并に文官の用とし、開腋は腋下を縫はざるものにて武官の用とす。  
 はう(報)名むくい。業果。しらせ。通知。報知。返禮。報酬。  
 はう(胞)名えな。生物體を組織する原形質の微粒。細胞。  
 はう(苞)名おほづつ。たいほう。毬。莖を包む皮。花梗の下部にある葉狀の片。  
 はう(寶)名たから。貴きこと。  
 はう(芳)接頭他人の物事に冠してほむる意

をあらはす語。「一書一韻」  
 ばう(房)名へや。つばね。住宅。すまひ。いへ。まないた。やぶつ。やいれ。  
 ばう(花)名花の一つの莖にむらがるもの。稱。一一の花。二十八宿の一。天駟。  
 ばう(帽)名かぶりもの。帽子。  
 ばう(暴)名残酷なること。そこなふこと。亂暴なること。あらまきこと。  
 ーを以て暴に代ふ。句相手の亂暴に對して應ずるに亂暴をもつては善惡是非の差別なしと云ふこと。  
 ばう(妄)名眞實ならざること。虚偽なること。いつはり。思慮なきこと。  
 ばう(望)名陰曆にて十五日の稱。ちづき。満月。  
 ばう(亡)名死にたること。又その人。故。  
 ばう(坊)名まち。市中。春宮坊の略。轉じて東宮を申す。僧侶の居間を云ひ直に又僧のことをいふ。平安京の市の區劃の一。五百十二月を一一とせり。子供を親みて云ふ語。  
 ばう(芒)名種禾本科に屬する果實などの外殼の先端にある毛のき。  
 ばう(舄)名二十八宿の一。すばる。  
 ばう(世鞋)名わらぢ。わらぐつ。  
 ばう(暴惡)名手あらきこと。極めて非道なること。惡逆。

ばう(防過)名ふせぎとむむること。  
 ばう(方案)名方法の考案。しくみ。考へ。  
 ばう(保安)名社會の安寧秩序をたもつこと。  
 ばう(警察)名ちあんけいさつ  
 ばう(條例)名明治二十年  
 在野の志士都下に集まり時の政府を攻撃せし際發布せられたる條例。「制限ある森林。ーりん」林。公益のために特別の保護  
 ばう(胞衣)名えな。  
 ばう(芳意)名他人の好意。御こころさし  
 ばう(包有)名つみもつと。つみむと。  
 ばう(保有)名たもつこと。もつこと。  
 ばう(亡友)名なき友。死したる友。  
 ばう(忘憂)名うさを忘るること。  
 ばう(卵西園)名天頂を通過して且つ子午線に直角なる大園。  
 ばう(保育)名小兒を保護し養育す  
 ばう(場)名小兒を保育する所。  
 ばう(放逸)名己の意を檢束することなく意馬に乗じなみ外れの行爲をなし遣り放ちの動作を敢てするをいふ。氣儘なること。ほし  
 ばう(暴溢)名洪水などの俄にあふる  
 ばう(暴飲)名あらのみ。度を過して

酒を飲むこと。  
 ばう(萌芽)名めざし。めばえ。草木の芽を出だす如く事物のきざすを云ふ。  
 ばう(寶蓋)名天子ののりもの。じ。  
 ばう(妨害)名さまたげ。邪魔。



はろかいせき(一)方解石(名)はろげしやくに同じ。

はろかう(一)咆哮(名)ほえたけること。

はろかう(一)放校(名)不良行為ありたる學生を學校より放逐すること。

はろかう(一)芳香(名)かほはしきかをりよきにほひ。

はろかう(一)方向(名)むき。方角。

はろかう(一)濁浩(名)水面のひろきこと。

はろかう(一)咆哮(名)咆哮に同じ。

はろかう(一)暴行(名)亂暴なるしわざ。手あらし所業。暴害を他人の身體に加ふること。

はろかう(一)澆沈(名)水面廣くしてはるかなはろがき(一)方書(名)方法を記したるもの。

はろかう(一)方角(名)方位に同じ。

はろかう(一)放學(名)學校の課業の終りて其處を退出すること。

はろかう(一)妄覺(名)まうかくに同じ。

はろかう(一)暴暴(名)亂暴もの。又外寇。

はろかう(一)防鴨河使(名)古、霖雨などにて鴨河の出水せし時、臨時に補せられし官。

はろかう(一)保甲(名)支那宋代の自治保安の組織にして十家を甲とし、十甲を保とし、甲に長あり保に正あり、互に警戒して不良の徒

の出入を監し盜賊を防がしむ。清代警察の事務にて隋唐の遺制とす。雍正十一年以後施行せらる。これを保甲の制と云ふ。

はろがふ(一)抱合(名)化合に同じ。

はろかん(一)寶鑑(名)たふときてほん。よきかみ。

はろかん(一)芳翰(名)他人の手紙の尊稱。

はろかん(一)砲艦(名)艦體輕小にして喫水淺く比較的多くの大砲を備へて海岸河上及び港灣の砲撃又は防禦の任務に當る軍艦。

はろかん(一)芳顔(名)美しき顔。

はろかん(一)砲眼(名)砲丸を打る出す城壁などの孔。

はろかん(一)包含(名)なかにふくみもつこと。

はろかん(一)坊間(名)まちなか。市中。

はろかん(一)防寒(名)さむさをふせぐこと。

はろかん(一)暴悍(名)あらくしくたげきこと。

はろかん(一)暴漢(名)亂暴なる者。

はろかん(一)掃帚(名)塵などを掃除するに用ゐる具。

はろかん(一)拋棄(名)なげすつこと。放棄。權天子直轄の地。

はろき(一)寶器(名)寶の器。貴き器物。

はろき(一)放氣(名)きまにすること。きまはろき(一)方技(名)醫術をいふ。

はろき(一)耄期(名)九十を耄と爲し百歳を期と爲す。老いばるし時。

はろき(一)耄耋(名)としより。老人。年寄り老いばるし時。

はろき(一)謗議(名)そしり。惡評。

はろき(一)妄議(名)みだりなる議論。非道なる議論。

はろき(一)葶草(名)葶藶科に屬する草。葉は細長にして食せられ、花は苞を有せず白色小形なり。莖枝は乾して葶に製す。ははきぐさ。

はろき(一)帶鞘(名)帯の形の如く毛皮にて作りたる刀の鞘。

はろき(一)忙急(名)いそがしきこと。

はろき(一)帶星(名)すべし(彗星)に同じ。

はろき(一)帚目(名)地面を拂きたる帚のあと。

はろき(一)芳吟(名)他人の詩歌を尊敬し、はろき(一)包莖(名)龜頭が皮を被り包まれたる陰莖。かはかぶり。形の弊。

はろき(一)方警(名)一種の樂器。方はろき(一)邦境(名)くにのさかひ。

はろぎやう(一)方析(名)屋根の組方。棟の兩端より下棟を落の四隅まで下げたるもの。寶桁。寶形。

はろぎやく(一)忘却(名)もうて其ままになし。

はろぎやく(一)忘却(名)わすれること。失念。

はろぎやく(一)暴虐(名)非理非道に人を扱ふこと。

はろぎよ(一)暴舉(名)亂暴のふるまひ。無謀の企。暴動。一揆。

はろぎよ(一)安舉(名)みだりなる振舞。無分別なる行。安んず。

はろぎよ(一)防禦(名)敵の攻撃をふせぎ守ること。防ぐための設備。守勢的作戰の行爲をいふ。

はろかん(一)甲板(名)軍艦の機關部。彈藥庫等の主要部を保護するために張りたる厚き鋼甲板。

はろじ(一)工事(名)敵の攻撃を防ぐ工事。すゐらい(一)水雷(名)來襲する敵艦を防禦するため、港灣などの海中に敷設し置く水雷。

はろせん(一)線(名)敵を此處に防止せんとし、ちんち(一)陣地(名)陣地の一。守者が、攻者を待つために占領する陣地。

はろきよく(一)寶玉(名)たふときたま。

はろくわう(一)方隅(名)すみ。一方のすみ。方はろ

はろくわん(一)暴君(名)暴虐なる君。

はろくわん(一)傍訓(名)漢字の傍に附せる訓。ふりがな。

はろくわ(一)砲火(名)大砲の火。

はろくわ(一)放火(名)火をつけてやくこと。

はろくわ(一)放火(名)火を放つこと。

はろくわ(一)賊(名)火をつけて家などをやくもの稱。

はろくわ(一)半靴(名)古、使用したる頭の短はろくわ(一)放課(名)一定の時間の課業をはるること。

はろくわ(一)時間(名)放課後の休憩時間。

はろくわ(一)旁臥(名)ねころぶこと。

はろくわ(一)方外(名)方は道といふが如し。故に方外は道によらざることをいふ。おきての外。度外。孔子曰、彼遊三方之外者也、而丘遊三方之内者也。浮世の外。

はろくわ(一)方外(名)佛世の外。佛世の外。孔子の教の外といふ意。方外の地。度外の土地。

はろくわ(一)望外(名)おもひのほか。願望せる以上の好ましきこと。一の榮。

はろくわ(一)彷徨(名)さまよふこと。うろつくこと。徘徊。

はろくわ(一)放曠(名)しまりなきこと。やりはろ

はろくわ(一)膀胱(名)排泄器の一。腎臓より輸送する尿を一時集積する膜質囊にして更に一の管によりて尿道に連る。小便袋。

はろくわ(一)包括(名)ひきこめること。合すること。かた入ること。

はろくわ(一)財產(名)法、すべてをひきこめて指示したる財産。特定財産の對。

はろくわ(一)防火布(名)くわくわんぶ(火浣布)に同じ。

はろくわ(一)寶冠(名)たふときかんむり。一しやう(一)章(名)我國の勳章の一。一。等より八等まであり。婦人の有功者に賜ふ。

はろくわ(一)保管(名)はくわんに同じ。

はろくわ(一)判官(名)四部官の一。じやう。檢非違使の尉。

はろくわ(一)砲丸(名)大砲の彈丸。

はろくわ(一)傍觀(名)傍より見てゐること。

はろくわ(一)傍官(名)同じ役所に勤むる人。同僚。

はろくわ(一)望觀(名)形勢をながめ居ること。門跡家の家司の稱。

はろくわ(一)妨礙(名)さまたげ。邪魔。

はろくわ(一)方形(名)四角形。四角。

はろくわ(一)方計(名)はかりこと。てだてはろくわ(一)方珪(名)茶の異名。謀略。

はろくわ(一)傍系(名)親子の關係を以て同はろ

はう

一の方向に直通せざる系統。直系より分れたるすぢ。例へば兄弟、叔父、叔母等の如し。  
—いんぞく—「姻族」名法。或人と其人の配偶者の傍系血族との關係。  
—しんぞく—「親族」名。或人と傍系親あるもの、稱。特に六親等内の傍系血族及三親等内の傍系姻族の稱。  
—そんぞく—「尊屬」名法。伯叔父母の類の如き傍系に屬する尊屬。  
—ひぞく—「卑屬」名法。姪甥等の如き傍系に屬する卑屬。

はうげつ(望月)名もちづき、満月。  
はうげつ(二月)名うづき。  
はうげん(寶劍)名貴重なる劍。  
はうけん(邦憲)名國のおきて。國家の憲法。  
はうけん(方言)名一地方のみに限りてはうけん(放言)名氣儘にものをいふこと。思ふままにいひ散らすこと。出放題の言。  
はうけん(冒險)名萬一を僥倖する爲めに、危険を冒して事業を企つること。

はうく(邦國)名くに。國土。  
はうく(亡國)名亡びたる國。亡ぶべき國。一の民。  
—のん—「音」名淫靡にして風教に害をなす音楽。亡ぶべき國の音楽又は調子。  
はうく(母子草)名種ははこぐさの音便。  
はうく(防殺令)名殺物の輸入を防止する法令。  
はうこん(方今)名副現時。現在。當今。たはうこん(芳魂)名美人の魂。花の精はうこん(亡魂)名亡き人の魂。轉じて其の魂の姿を現はし、目にみゆるもの。幽靈。  
はうさ(礫砂)名化はうしやに同じ。  
はうさ(砲座)名大砲をすま置く所。  
はうさ(病者)名びやうしやの約。  
はうさい(壘塞)名はうさいに同じ。  
はうさい(報賽)名願の成就したる御禮に神佛に参詣すること。還禮。  
はうさい(方劑)名藥を調合すること。調合したる藥。

はうさい(寶財)名たから。たからもの。財貨。  
はうさい(旁妻)名そばめ。妾。  
はうさい(防材)名鐵鎖にて巨大なる材木を繋ぎ合せ、海港の入口に沈めて他の船艦の侵入を防ぐべくしたるもの。  
はうさう(瘡瘡)名瘡。天然痘に同じ。  
はうさう(包裝)名物のうはづみ。みなすこと。荷造をなすこと。  
はうさう(包藏)名つみかくすこと。たくはふること。  
はうさう(寶藏)名寶物を入れ置く藏。寶はうさう(寶藏院)名寶藏院流名槍術の一派。南部寶藏院の僧胤榮の創始にして鎌槍を用ゐるもの。  
はうさく(方作)名はかりごと。てだて。方略。記録。文書。  
はうさつ(芳札)名他人の手紙の尊稱。  
はうさつ(傍札)名立札。又かけふだ。  
はうさつ(忙殺)名いそがしきこと。俗務にせらる。

はうさん(寶算)名天子の御年齢。聖算。  
はうさん(放散)名はなち散らすこと。  
はうさん(礫酸)名化。無味無臭にして光輝ある板狀の結晶をなす。醫藥に用ゐらる。  
はうし(芳志)名人の深切なる志。御志。芳情。

はうし(種子)名(種)花粉の如き細粉にして隱花植物の子囊内に含まれ、地に落ちて蕃殖す。(動)原生動物の箇體の分れてたりたる小體。  
—せいしよく—「生殖」名隱花植物及原生動物が胞子の作用によりて生殖すること。  
はうし(褒詞)名ほめたまふこと。褒。  
はうし(放肆)名ほしいまなること。放埒なること。やりはなしなること。我がままなること。放恣。  
はうし(方士)名支那周代の官名。神仙の術をなす者。道士。  
はうし(放資)名資本を出すこと。  
はうし(拍子)名ひやうしに同じ。  
はうし(焙)名はうすること。いること。  
はうじ(褒辭)名褒詞に同じ。  
はうじ(寶璽)名天子の御印。御璽。  
はうし(傍視)名せりあざけること。  
はうし(帽子)名布帛羅紗又は麥藁などに製したるかぶりもの。形種類多し。づきん。すべて物の頭にかぶらるもの。「筆の—」  
—かけ—「架」名帽子をかけ置くもの。  
—ばけ—「刷毛」名帽子の塵を拂ふ刷毛。  
—ばな—「花」名種。つゆくさの一名。  
はうし(髦士)名秀でたる人士。俊才又は

はう

はう

—じげふ—「事業」名成功の見込は確かならねど、萬一の僥倖を得んが爲めに企つる事業。一六勝負。  
—だん—「談」名種々なる艱難危険を冒して遂に成功したることを面白く書綴りたる話。一てき—「的」名危険にして成否たしかならざるに云ふ。  
はうけん(望見)名遠方よりのぞみ見ると。  
はうけん(妄言)名より處なき事をいふ言。いつはり。うそ。思慮なき言語。  
はうけん(暴言)名らんばうの言葉。悪口。  
はうけん(傍言)名傍より口を出す。横口。  
はうけん(妨言)名さままたげとなる言。  
はうこ(寶庫)名たからものくら。寶物を納め置く藏。  
はうこ(母子草)名種はうこぐさの略。  
はうこ(保護)名災害を防ぎ守ること。かはひたすること。ほい。  
—あづかり—「預」名金銀又は公債證書若しくは株券等を其所有者の請求によりて手数料を受取りて保管すること。  
—きん—「金」名産業の改良發達のために與ふる補助金。  
—こく—「國」名國力の薄弱なるにより一定の條約によりて他國の主權の下に保護せらるる國。然れども國家たる特性は失はず、保護をなす國が他國と交戦する時は局外中立を

保ち得べき關係にあり。「を有する者」  
—しや—「者」名或る人を保護すべき義務。  
—しよく—「色」名動。或種の動物がなす其の周圍の物色と同様なる體色。敵の目を免るためにして氷雪の中に棲息する熊の體色の白きが如し。  
—ぜい—「稅」名(經)自國の産業保護のため外國の輸入品に賦課する關稅。  
—てう—「鳥」名一定の時期間、捕獲又は賣買を禁ぜられたる鳥。鶴。燕。日雀。四十雀。杜鵑等の如し。  
—ぼうえき—「貿易」名(經)國家が其の國內の産業を保護するため、國際の貿易に關して干渉政策をとること。  
はうご(邦語)名其のくにのことば。日本語。  
はうご(放語)名遠慮なしに物言ふこと。放言。  
はうご(旁午)名縱横に入り違ふこと。多く往來の頻繁なるに云ふ。「使者」  
はうご(妄語)名妄言に同じ。  
はうご(傍語)名そばにて話すこと。ばうげんに同じ。  
はうご(砲壇)名たいばう。大砲。  
はうご(砲工)名砲兵と工兵と。銃砲を製する工人。  
—がくかう—「學校」名陸軍教育總監の管理に屬し砲兵及工兵の少尉中尉を

はうし(種子)名(種)花粉の如き細粉にして隱花植物の子囊内に含まれ、地に落ちて蕃殖す。(動)原生動物の箇體の分れてたりたる小體。  
—せいしよく—「生殖」名隱花植物及原生動物が胞子の作用によりて生殖すること。  
はうし(褒詞)名ほめたまふこと。褒。  
はうし(放肆)名ほしいまなること。放埒なること。やりはなしなること。我がままなること。放恣。  
はうし(方士)名支那周代の官名。神仙の術をなす者。道士。  
はうし(放資)名資本を出すこと。  
はうし(拍子)名ひやうしに同じ。  
はうし(焙)名はうすること。いること。  
はうじ(褒辭)名褒詞に同じ。  
はうじ(寶璽)名天子の御印。御璽。  
はうし(傍視)名せりあざけること。  
はうし(帽子)名布帛羅紗又は麥藁などに製したるかぶりもの。形種類多し。づきん。すべて物の頭にかぶらるもの。「筆の—」  
—かけ—「架」名帽子をかけ置くもの。  
—ばけ—「刷毛」名帽子の塵を拂ふ刷毛。  
—ばな—「花」名種。つゆくさの一名。  
はうし(髦士)名秀でたる人士。俊才又は

はうし(種子)名(種)花粉の如き細粉にして隱花植物の子囊内に含まれ、地に落ちて蕃殖す。(動)原生動物の箇體の分れてたりたる小體。  
—せいしよく—「生殖」名隱花植物及原生動物が胞子の作用によりて生殖すること。  
はうし(褒詞)名ほめたまふこと。褒。  
はうし(放肆)名ほしいまなること。放埒なること。やりはなしなること。我がままなること。放恣。  
はうし(方士)名支那周代の官名。神仙の術をなす者。道士。  
はうし(放資)名資本を出すこと。  
はうし(拍子)名ひやうしに同じ。  
はうし(焙)名はうすること。いること。  
はうじ(褒辭)名褒詞に同じ。  
はうじ(寶璽)名天子の御印。御璽。  
はうし(傍視)名せりあざけること。  
はうし(帽子)名布帛羅紗又は麥藁などに製したるかぶりもの。形種類多し。づきん。すべて物の頭にかぶらるもの。「筆の—」  
—かけ—「架」名帽子をかけ置くもの。  
—ばけ—「刷毛」名帽子の塵を拂ふ刷毛。  
—ばな—「花」名種。つゆくさの一名。  
はうし(髦士)名秀でたる人士。俊才又は

はうし(種子)名(種)花粉の如き細粉にして隱花植物の子囊内に含まれ、地に落ちて蕃殖す。(動)原生動物の箇體の分れてたりたる小體。  
—せいしよく—「生殖」名隱花植物及原生動物が胞子の作用によりて生殖すること。  
はうし(褒詞)名ほめたまふこと。褒。  
はうし(放肆)名ほしいまなること。放埒なること。やりはなしなること。我がままなること。放恣。  
はうし(方士)名支那周代の官名。神仙の術をなす者。道士。  
はうし(放資)名資本を出すこと。  
はうし(拍子)名ひやうしに同じ。  
はうし(焙)名はうすること。いること。  
はうじ(褒辭)名褒詞に同じ。  
はうじ(寶璽)名天子の御印。御璽。  
はうし(傍視)名せりあざけること。  
はうし(帽子)名布帛羅紗又は麥藁などに製したるかぶりもの。形種類多し。づきん。すべて物の頭にかぶらるもの。「筆の—」  
—かけ—「架」名帽子をかけ置くもの。  
—ばけ—「刷毛」名帽子の塵を拂ふ刷毛。  
—ばな—「花」名種。つゆくさの一名。  
はうし(髦士)名秀でたる人士。俊才又は

はうし(種子)名(種)花粉の如き細粉にして隱花植物の子囊内に含まれ、地に落ちて蕃殖す。(動)原生動物の箇體の分れてたりたる小體。  
—せいしよく—「生殖」名隱花植物及原生動物が胞子の作用によりて生殖すること。  
はうし(褒詞)名ほめたまふこと。褒。  
はうし(放肆)名ほしいまなること。放埒なること。やりはなしなること。我がままなること。放恣。  
はうし(方士)名支那周代の官名。神仙の術をなす者。道士。  
はうし(放資)名資本を出すこと。  
はうし(拍子)名ひやうしに同じ。  
はうし(焙)名はうすること。いること。  
はうじ(褒辭)名褒詞に同じ。  
はうじ(寶璽)名天子の御印。御璽。  
はうし(傍視)名せりあざけること。  
はうし(帽子)名布帛羅紗又は麥藁などに製したるかぶりもの。形種類多し。づきん。すべて物の頭にかぶらるもの。「筆の—」  
—かけ—「架」名帽子をかけ置くもの。  
—ばけ—「刷毛」名帽子の塵を拂ふ刷毛。  
—ばな—「花」名種。つゆくさの一名。  
はうし(髦士)名秀でたる人士。俊才又は

はう

はう

はう

學者。

はうしん(防止)名ふせきとむむる。  
 はうしん(紡絲)名糸をつむぐこと。  
 はうしん(芒刺)名いばら。とげ。  
 はうしん(暴死)名急に死ぬること。  
 はうじ(房事)名閨の中まじはり。いろご。交合。  
 はうじ(茅茨)名ちがやといばらと。ちがやにて屋根をふくこと。茅茨。  
 はうじ(榜示)名札に記して示すこと。又其の札。掲示札。札をたてて記すこと。又其の札。  
 はうじ(扈)名境界のしるしにたつる。扈。  
 はうじ(雇仕)名雇に使はるる男。雇方。  
 はうしん(報酬)名むくい。返禮。謝禮とせる金銭品物。  
 はうじ(遞減)名經しうえきていげん(收益遞減)に同じ。  
 はうしん(報讎)名うらみをむくゆること。仇をかへすこと。かたきうち。復讐。  
 はうしん(方舟)名二つならあはせたる舟もやひぶね。  
 はうしん(防臭)名臭氣を防ぐこと。臭氣。  
 はうしん(劑)名防臭のため使用する藥劑。  
 はうしん(安房)名安房國平群郡より産出する砂。みかき砂とす。  
 はうしん(方式)名一定の形式。かた。

はうじ(一定の手續)てつづき。  
 はうじ(寶子銀)名寶永三年六月に鑄たる銀貨。背に寶字の二字を印す。  
 はうじ(寶字小判)名寶永三年に鑄造せられたる小判。寶字の二字を印す。  
 はうしん(忘失)名わすること。忘却。  
 はうしん(亡失)名なくなる。なくすること。うしなふこと。  
 はうしん(傍室)名そばめ。妾。  
 はうじ(望日)名陰曆十五日。  
 はうしん(報身)名報身佛の略。佛三身の一。眞如實相の理を證悟したる行因の報として生れたる其の體の佛身をいふ。  
 はうしん(能化)名佛報身佛が教主となりて一切所化の衆生の爲に說法するをいふ。  
 はうしん(佛)名報身の佛。阿彌陀如來の類。  
 はうしん(方針)名めざす方。目的。主義。「一を定む」。  
 はうしん(羅針盤)名方位を指し示す針。磁針。  
 はうしん(放心)名心をはなつこと。體をはなれたる心。まきまなること。ゆりはなしたること。うっかりしたる心。氣のふるること。亂心すること。安心すること。放神。  
 はうしん(砲身)名鋼鐵にてつくりたる圓筒状のものにして彈丸をこめて發射す。大砲のつづ。

はうしん(芳信)名花の開きたるたより。花信。  
 はうしん(芳辰)名よき日。よき時。  
 はうしん(芳心)名なまきけ。親切。  
 はうしん(報信)名しらせ。報知。通知。  
 はうしん(庖人)名料理人。コック。  
 はうしん(放人)名世をのがれたる人。隠遁者。隱士。  
 はうしん(邦人)名くにのひと。國人。  
 はうしん(妄信)名わやみに信用すること。みだりに信すること。  
 はうしん(傍心)名傍接圓の中心。  
 はうしん(亡心)名きめけ。亡神。  
 はうしん(亡臣)名死せしけらい。自國を脱して他國にある臣。亡命の臣。  
 はうしん(傍人)名傍に居る人。もの。  
 はうしん(暴人)名亂暴なる行の人。亂暴。  
 はうしん(防人)名さきもり。  
 はうしん(放射)名鐵砲などをつつこと。一點より四方へ散じ出づること。  
 はうしん(相稱)名(動)棘皮動物などの諸器官が中心を圍みて配置せらるる状態の恰も車輪の輻が車軸を圍みて射出するが如きこと。  
 はうしん(一說)名理。光の諸種の現象をあらはすにつきてニエートンの主唱せる說。  
 はうしん(同形)名棘皮動物の口よ

り肛門に至る線を軸としてこれを切る場合に、一方向以上にきりても各箇の形状殆ど同じきもの。  
 はうしん(砲車)名大砲を載する車。  
 はうしん(報謝)名禮物を送ること。おれい。佛事に僧を請じて供養し其禮に布施を贈ること。轉じて順禮。行脚僧などに物を施すこと。もろ。米。  
 はうしん(托鉢僧)名巡禮などに報謝す。一やど。一宿。名神佛へ報恩のため旅人を無料にて宿泊せしむるやど。  
 はうしん(硼砂)名也。硼酸のナトリウム鹽。硼酸の水溶液を炭酸ナトリウムにて中和し、これを熱して放冷するとき生ずる八面形の結晶と斜方形の結晶との混合物。はう。  
 はうしん(抛射)名なげやると。なげうつと。一せん(線)名理)はうぶつせん(抛物線)に同じ。  
 はうしん(能作)名理)物質の電子を放はうしん(砲射)名大砲を發射すること。  
 はうしん(放赦)名捕へたる罪人などはなちゆるしやること。  
 はうしん(紡車)名糸をつむぐ車。いととりぐるま。  
 はうしん(茅舍)名かやぶきの家。くさ。はうしん(暴射)名烈しく發射すること。

無暗に發射すること。亂射。  
 はうしん(暴瀉)名はげしき下痢。「や。はうしん(亡者)名死にたるもの。まうじ。はうしん(坊舎)名まぢや。僧の住む所。僧房。  
 はうしん(褒賞)名ほめ賞すること。褒。はうしん(褒章)名善行ありし人に褒賞として賜はる徽章。紅綬。綠綬。藍綬。黄綬の四種あり。  
 はうしん(保障)名危害を防ぎたもち。ささかふこと。又保障となるもの。ふせぎ。  
 はうしん(報償)名損害のつぐのひ。しかへし。へんばう。  
 はうしん(金)名報償に出す金。つぐのひきん。  
 はうしん(芳情)名あつきなまきけ。おな。はうしん(放生)名捕へたる生物を法を修して放ちがすること。  
 はうしん(陰曆八月十五日)名八幡宮にて行はれし法會。捕へたる魚鳥を放ちし。はうしん(褒狀)名人の善行などを褒むるしるしとして與ふるかきつけ。  
 はうしん(報狀)名しらせの書狀。  
 はうしん(帽草)名帽子につくる徽章。  
 はうしん(暴狀)名亂暴なるさま。  
 はうしん(旁生)名佛。生物の體の横になりたるもの。畜生。

はうしん(亡狀)名無禮なるふるまひ。亂暴なるおこなひ。  
 はうじ(寶生流)名能樂の一派。觀世の支族にて世阿彌より始る。保生流。  
 はうしん(保釋)名ほしやくに同じ。  
 はうじ(傍若無人)名(傍)に人なきが如き義)人を人とも憚らず亡狀なる振舞をするをいふ。  
 はうしん(保守)名ほしやくに同じ。  
 はうしん(寶珠)名寶の珠。たから。はうしん(頭)名ぎぼうしやくに同じ。  
 はうしん(頭)名ぎぼうしやくに同じ。  
 はうしん(たま)名頭部より火焰のもえあがるさまをなす玉の畫。はうしん(掌)もの。  
 はうしん(砲手)名大砲を發射すること。  
 はうしん(保壽)名ながく壽命をたもつこと。  
 はうしん(芒種)名二十四氣の一。陽曆六月五日頃にあたる。  
 はうじ(放縱)名きまま。わがまま。  
 はうじ(砲銃)名大砲と小銃と。  
 はうじ(方術)名でだて。しかた。  
 はうじ(神仙の術)。  
 はうじ(砲術)名大砲を運用發射する術。  
 はうしん(芳春)名百花の咲きさかる春。「一三月」はうき芳紀に同じ。  
 はうしん(髮俊)名すぐれぬきんでたる人士。髮士。

はうしよ(苞直)名 あらまき。つと。  
 ●みやげもの。●まひなひ。賄賂。  
 はうしよ(芳書)名 他人の手紙の敬稱。芳  
 はうしよ(方處)名 東西南北の方位にあ  
 るところ。ばしよ。ところ。  
 はうしよ(報書)名 しらせの手紙。通報  
 はうしよ(放縱)名 はうじゆうに同じ  
 はうしよ(褒稱)名 ほめそやすこと。  
 はうしよ(保證)名 ほしように同じ。  
 はうしよ(報鐘)名 知らせの鐘。  
 はうしよ(冒稱)名 他家の姓を名乗る  
 はうしよ(飽食)名 あくほくらふこと  
 腹一杯に食ふこと。一暖衣  
 はうしよ(望蜀)名 一つの望を遂げて  
 更に又其上を望むこと。  
 はうしよ(暴食)名 あらぐひ。度を過  
 として食ふこと。大食。  
 はうす(謗)名 他動サ變。そしる。悪口す。  
 はうす(報)名 他動サ變。むくゆ。返禮す。  
 ●通知す。告ぐ。  
 はうす(焙)名 他動サ變。火氣をもつて濕氣を  
 さる。ほいろにてあぶる。一茶をー  
 はうす(坊主)名 坊の主。一寺の住職。  
 ●僧侶。法師。●頭髮をそりたる人。●古武  
 家に仕へて茶湯其の他の雑事に使役せられ  
 たる身分賤しき剃髪したるもの。●一般に  
 頂に毛なく禿けたるものを云ふ。一山

一あたまた(頭)名 剃髪したるあたまた。  
 一おち(落)名 選俗すること。又其の僧  
 反初僧。  
 一かむろ(禿)名 徳川時代遊女につかは  
 る幼き禿の剃髪してありしもの。  
 一くさし(臭)名 坊主めきたり。  
 一ふて(筆)名 穂尖のきれたる筆。ちび  
 ぶて。禿筆。  
 一むぎ(夢)名 夢の一種。果實の外殻  
 に芒のなきもの。裸夢。  
 一もち(持)名 數人同行して交代に荷  
 物を持ちゆく時、坊主頭の人に行き遣ふ度  
 順次持手をかふる事。  
 一やま(山)名 山はげ山。禿山。  
 一が憎けりや袈裟まで憎い。●人を悪む  
 情の其人に關係したる總ての物に及ぶに云ふ  
 はうす(忘)名 他動サ變。わするに同じ。  
 はうす(方寸)名 人の心。考へ。胸中。  
 一亂る(一寸四方)。  
 はうす(紡錘)名 糸をつむぐつむ。  
 はうす(方錐)名 四つ目の錐。四角の錐  
 一けい(形)名 頂點を共有せる四平面  
 と他の一平面とを以て圍まれたる立體。  
 はうす(防水)名 水をふせぎ止むること。  
 一ふ(布)名 ゴムなどを引きて水のとほら  
 めやうに製したる布。

はうせい(砲聲)名 大砲を發射する時起  
 るおと。大砲のおと。  
 はうせい(方正)名 正しきこと。正しくして  
 曲りたることなきをいふ。端正。正直。  
 はうせい(邦制)名 國家の制度。「芳名。  
 はうせい(芳聲)名 ほまれの名。よき評判  
 はうせい(暴政)名 暴虐なる政事。苛政。  
 はうせい(坊正)名 町役人。「虐政。  
 はうせい(保稅倉庫)名 ぼせい  
 さうに同じ。  
 はうせう(硝)名 硝(硫酸ナトリウ  
 ム。海水より食鹽をとりたる溶液中に存す。  
 はうせき(寶石)名 たふととき石。裝飾用と  
 す。金剛石。石英。ルビーの如き類。  
 はうせき(紡績)名 糸をつむぐこと。  
 一いと(糸)名 紡績器械にて製したる糸。  
 一きかい(器械)名 糸を繰り且つつむぎて  
 糸を製する器械。  
 はうせつ(妄說)名 みだりがはしき説。無根  
 の説。虚偽の説。「なる説。  
 はうせつ(暴説)名 亂暴なる説。不道理  
 はうせつ(傍接圓)名 多角形  
 一邊及び他の二邊の延長線に接する圓。  
 はうせん(砲戰)名 砲火をまじへて戦ふこと。  
 はうせん(砲船)名 大砲をのせて敵をうつ  
 ぶね。砲艦。「おぼまへ。  
 はうせん(寶前)名 神佛の前。ひろまへ。

はうせん(保全)名 保ちて全くすると。安  
 全にたもつこと。ほぜん。  
 はうせん(防戰)名 ぶせぎたたかふこと。  
 ●(兵)守勢的作戰をいふ。  
 はうせん(茫然)名 呆れて取りつき所  
 もなき状にいふ。ぼんやりしたる貌。自失のさま  
 惘然。●ひろくとして遠きさま。  
 はうせん(麗然)名 非常に大なるさまに  
 ちふ。  
 はうそ(寶祚)名 天子の御位。あまつひ  
 はうそ(礪素)名 五化金屬の一。褐色の粉  
 末にして礪酸又は礪砂となりて天然に産出  
 す。空氣中にて強熱せば酸素及窒素と化合  
 はうそ(苞直)名 はうしよに同じ。「す。  
 はうそ(苞直)名 妨害抗辯(名法)原告  
 の訴訟が訴訟の必要條件を缺くとて、被告が  
 其の辯論をこぼむと。  
 はうそ(方則)名 しかた。のり。  
 はうそ(邦俗)名 くにの風俗。くにの  
 ならはし。  
 はうそ(放俗)名 下品なると。凡俗なると。  
 はうそ(保存)名 ほぞんに同じ。  
 はうそ(亡損)名 そん。損害。  
 はうた(端唄)名 俗間にて詠ふ今様風の唄。  
 概して文句の長からぬもの。こうた。  
 はうた(滂沱)名 雨のはげしくふるさま  
 みにいふ。●涙の流るさまにいふ。

はうたい(繻帶)名 疵口などを清潔にする  
 ためにまく粗き木綿の布。  
 一えき(液)名 繻帶の代用に塗抹する液。  
 はうたい(砲隊)名 砲兵の隊。  
 はうたい(砲臺)名 だいは。要所に築きて  
 大砲をすつくる所。即ち砲及人員を掩護し  
 射撃を便ならしむるため築き設けたる物にして  
 胸壁砲座掩壕觀測所等より成り、野砲及  
 山砲掩體重砲兵掩體の二種あり。  
 はうたい(放題)名 接尾動詞に添へて熟語  
 となし自由に行ふ意を表す語。出ー  
 はうたい(傍題)名 和歌にて出されたる題  
 の外に用もなきものを詠み添ふこと。「ると。  
 はうたい(麗大)名 形廣がりて非常に大な  
 はうたい(放蕩)名 しまりなく遊樂にふける  
 こと。はうらつたること。道樂。  
 はうたう(寶刀)名 たふときかたな。寶劍。  
 はうたう(鐃鉦)名 はくたくの音便。  
 はうたう(報道)名 衆人に報告すること。  
 通知。  
 はうたく(寶鐸)名 風鈴の大なる如きもの  
 はうたつ(暴奪)名 暴力をもつて奪ひとると  
 はうたて(方立)名 しかた。組みたて。  
 ●門柱の兩傍にたてて扉をつくる木。  
 はうたふ(報答)名 したへ。返事。かへし  
 はうたふ(砲塔)名 鋼鐵の環壁を設け、  
 一門又は二門の巨砲を備へおく小高き所。

鋼鐵の圓塔内に砲を裝備し機力を以て塔と  
 共に砲を旋廻するものにして艦首と艦尾とに  
 あり。砲の甲板に固定せる砲塔の上に露出し  
 て架と共に旋廻するものを露砲塔といふ。  
 はうたふ(寶塔)名 寺に建てある塔。  
 はうたん(放膽)名 忌憚なく思ひきつて物  
 をなすと。  
 一ぶん(一文)名 忌憚なく思想をはき婉曲  
 ならざるも筆路暢達せる漢文の一種の文體。  
 はうたん(放談)名 思ふままに時事などを  
 談ずること。忌憚なく談ずると。  
 はうたん(砲彈)名 大砲のたま。  
 はうたん(妄誕)名 いつはり。うそ。  
 はうたん(妄談)名 根據なきはなし。  
 はうち(報知)名 知らせ。報告。  
 一かん(艦)名 平時警備の任務に當り戦  
 時敵の動靜を通知し又は軍の命令を傳達す  
 る等の任務を有せる速力迅速にして敵と交  
 戦するを目的とせざる軍艦。  
 はうち(放置)名 其まますておくこと。  
 はうち(保持)名 保ちて失はざると。たもつと  
 はうち(放逐)名 追放すること。おひやる  
 こと。おひだすこと。おひはらふこと。  
 はうち(方竹)名 四方竹に同じ。  
 はうちは(羽團扇)名 鳥の羽にて製したる  
 團扇。  
 はうちん(芳塵)名 花見の場所の塵埃を

はうちやう(砲丁)名料理をすること。

又料理人。はうちやうがたなの略。

はう(師)名料理人。

はう(一人)名料理人。

はうがたな(一刀)名料理に使用する刃物の

はうちやう(方丈)名一丈四方。

はうちやう(膨脹)名熱などのために

容量の増すこと。ふくむこと。發展すること。

はうちやう(膨脹)名熱などのために

容量の増すこと。ふくむこと。發展すること。

はうちやう(膨脹)名熱などのために

容量の増すこと。ふくむこと。發展すること。

はうちやう(膨脹)名熱などのために

容量の増すこと。ふくむこと。發展すること。

はうちやう(膨脹)名熱などのために

容量の増すこと。ふくむこと。發展すること。

はうちやう(膨脹)名熱などのために

容量の増すこと。ふくむこと。發展すること。

はうちやう(膨脹)名熱などのために

容量の増すこと。ふくむこと。發展すること。

はうちやう(膨脹)名熱などのために

容量の増すこと。ふくむこと。發展すること。

はうちやう(膨脹)名熱などのために

容量の増すこと。ふくむこと。發展すること。

はうちやう(膨脹)名熱などのために

容量の増すこと。ふくむこと。發展すること。

はうちやう(膨脹)名熱などのために

容量の増すこと。ふくむこと。發展すること。

はうづ(方圖)名きはまり。さだめ。際限。

はうて(場打)名其の場の有様にうたれて勇氣

を落すこと。

はうてい(保定)名たちち定むること。

はうてい(誹詆)名そしめること。誹詆。誹毀

はうてい(方程式)名式中の或文字

に格段なる値を與ふる時は、相等しきことの成

立する等式。

はうてう(烹調)名食物の調理。料理。

はうてう(放鳥)名捕へたる鳥をはなちに

がすこと。

はうてう(暴潮)名俄にさしくるみちし

はうてき(放擲)名なげうつこと。うちすつこと

はうてん(寶典)名寶とすべき貴重書物。

はうてん(放電)名理。異種の電気が混合

したるため電氣の作用を失ひたることをいふ。

はうてん(報電)名報知の電報。

はうてん(暴殄)名あらしそなふこと。

はうてん(邦土)名くに。國土。

はうと(暴徒)名暴舉をなす徒。あばれも

の。

はうと(暴怒)名烈しく怒ること。手荒く怒

はうと(方冬)名陰曆十月の異稱。

はうと(砲銅)名砲を鑄造するに用

はうと(暴騰)名急に價の烈しくあがること

はうと(冒頭)名文章の書き始め。前

提。物事のはじめ。

はうと(妄動)名思慮なきみだらなるふ

はうと(暴動)名亂暴なるまひ。亂暴

をなして國家社會の安寧秩序を害すること。

はうと(罪)名法。兇徒を嘯聚して騒亂を

なしたる罪。

はうと(殺人)名法。兇徒を嘯聚して騒亂を

なしたる罪。

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうと(放火)名法。暴動

はうねう(放尿)名小便すること。

はうねん(放念)名安心すると。心配せぬと

はうねん(芳年)名よきとし。めでたき年

はうねん(忘年)名其の年の苦勞を忘る

ること。

はうねん(會)名年末に催す年わすれの

のとも。忘年の交をなすもの。

はうねん(交)名學問才徳

上にて互に親密の交際をすることにて年の老

弱に關せぬこと。

はうはい(澎湃)名水のさかまき激しむる聲

はうはい(傍輩)名同じ家に奉公し又は

同じ師に事ふるもの、互に相稱する語。同僚。

はうはつ(砲發)名大砲を發射すること。

はうはつ(萌發)名きざすこと。めざすこと。

はうはつ(暴發)名俄かに起りたつこと

はうはつ(方法)名しかた。しやう。手段

はうはつ(放屁)名へをひること。

はうはつ(褒美)名ほむること。又賞し與ふる

品物。賞品。

はうはつ(防備)名防禦のそなへ。

はうはつ(安評)名みだりなる批評

はうはつ(抱負)名自己の願望又は希望心

に期するのぞみ。

はうはつ(防腐)名腐敗を防ぎ止むること。

はうはつ(暴富)名急に金持になること。俄

はうはつ(防風)名あらくふく風。烈しき風

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

はうはつ(防風)名種。多く海邊に自生す

竟に一乗究竟の妙理に歸せしむるをいふ。  
 一ぶくろ(一)囊(一)名 種種の物を入るる袋。  
 はうべん(一)妄辯(一)名 名はうめん(一)に同じ。  
 はうべん(一)保姆(一)名 小兒のため養育する  
 雇女。●幼稚園の女教師。  
 はうぼう(一)鮑魚(一)名 鮑魚。形も色も  
 かながしらに似て細長く長さ一尺に達す。  
 背部は淡黒色にして腹面は白く體側の鱗色  
 の斑點あり。我國東北海に多し。竹筴魚。  
 はうぼく(一)芳墨(一)名 人の書信の尊稱。  
 はうぼく(一)放牧(一)名 牛馬等をはなしかひ  
 にすること。  
 はうほんはんし(一)報本反始(一)名 物の由り  
 て出でたる根本に反り報ゆる義。一の禮一  
 はうまつ(一)泡沫(一)名 水のあわ。●存在  
 のはかなきものにいふ。一夢幻一  
 はうまん(一)放幔(一)名 ほしいまま。きまま  
 はうむり(一)葬(一)名 ほうむること。  
 はうむる(一)葬(一)名 他動ラ四。●死體を土中に埋  
 む。●すべて死體を入れ納むるに云ふ。魚腹に  
 一。  
 はうめい(一)芳命(一)名 他人の言の尊稱。お  
 はうめい(一)芳名(一)名 評判高き名。よき名  
 ●他人の名の尊稱。くすること。  
 はうめい(一)保命(一)名 命を保つこと。命を永  
 一しゆ(一)酒(一)名 味醂に似て氣強き酒。備

後國頼津より産す。トを報告すること。  
 はうめい(一)報命(一)名 命を受けてなしたるこ  
 ばうめい(一)亡命(一)名 命は名の義。國籍を脱  
 して逃亡すると。出奔。漢書「三十於外黃」  
 一しや(一)者(一)名 亡命をなしたる人。亡命客  
 はうめん(一)方面(一)名 或一方。かた。●  
 角はりたる顔。  
 一よせ(一)寄(一)名 或一方を守る大將の役目  
 一くん(一)勤(一)名 或一部分の敵を防ぎたる功  
 はうめん(一)放免(一)名 ゆるすること。●捕へた  
 る罪人を放ちて自由ならしむること。●法。豫  
 審判事が刑事被告の證據十分ならざる時  
 等に其のものを拘禁を解くこと。●檢非違使  
 廳の下部の役の名。  
 一のつけもの(一)着物(一)名 賀茂祭に出づる  
 放免の身につけたる錦織。  
 はうめん(一)傍面(一)名 かたはら。そば。  
 ●かたはらの面。  
 はうもつ(一)寶物(一)名 たからもの。たから  
 はうもん(一)砲門(一)名 砲丸の出づる口。大砲  
 のつづぐち。  
 はうもん(一)訪問(一)名 見舞ふこと。おとづる。  
 はうもん(一)坊門(一)名 京都の坊路の稱。まら  
 ばうもん(一)茅門(一)名 茅やぶき屋根の門。  
 轉じて自分の住宅の謙稱。  
 ばうもり(一)坊守(一)名 寺の番人。●一向  
 宗の僧侶の妻。

はうやう(一)彷徨(一)名 さよふこと。たちもとほ  
 ること。徘徊。  
 はうやう(一)保養(一)名 ほやうに同じ。  
 はうやう(一)放養(一)名 はなちやしなふこと。  
 はうやう(一)望洋(一)名 大洋をのぞむこと。廣  
 く遠くのぞむこと。目のとこかぬこと。  
 はうやう(一)茫洋(一)名 ひるき海。又ひろくして  
 ばうやう(一)茫然(一)名 亡羊歎(一)名 或事業を  
 なすに當り彼の仕方をとらんか此方法をとら  
 んかと種々に迷ひて遂に成功し難きを嘆ずる  
 こと。  
 ばうゆう(一)暴勇(一)名 あら／＼しく勇氣のあ  
 はうよ(一)寶典(一)名 天子のおのりもの。  
 はうよう(一)放鷹(一)名 たかがり。たかの。  
 ばうよう(一)妄用(一)名 みだりに用ゐること。  
 はうら(一)羽裏(一)名 鳥の翅の裏。  
 ばうらい(一)暴雷(一)名 烈しき雷。迅雷。  
 はうらう(一)放浪(一)名 心のまよ／＼にあそびくらす  
 こと。さまよふこと。  
 ばうらう(一)暴浪(一)名 烈しき波。き。  
 はうらく(一)炮烙(一)名 つつみやき。まるや  
 はうらく(一)放樂(一)名 ほらく(法樂)に同じ  
 はうらく(一)暴落(一)名 物價の急に下落するを  
 はうらく(一)放擲(一)名 放擲に耽ること。道樂  
 ばうらん(一)暴亂(一)名 暴動の起りてみだると  
 はうり(一)方里(一)名 土地の面積を計るにいふ  
 語。一里四方の面積を一一とす。

一せき(一)積(一)名 一里平方の地積。  
 ばうり(一)暴吏(一)名 らんぼうなるやくにん。  
 ばうり(一)暴利(一)名 ちやみにとる利益。不當  
 の利益。  
 はうりやう(一)方領(一)名 素袍などの襟の  
 方形なるもの。かくえり。●堂上家に仕ふる  
 もの。家領外に受くる知行。一と。方策。  
 はうりやく(一)方略(一)名 計略をいふ。はかり  
 はうりよ(一)芳慮(一)名 他人の念慮の敬稱。  
 はうるゐ(一)方類(一)名 たぐひ。わかし。  
 はうるゐ(一)堡壘(一)名 我軍の據りて敵を防  
 禦し又は攻撃するため設けたるとりて。通常  
 掩體及壕より成る。主として歩兵の爲に設備  
 せるものなり。  
 ばうれい(一)暴戾(一)名 殘酷にして道理にもと  
 ばうれい(一)亡靈(一)名 亡き人のたましひ。  
 亡魂。  
 はうれい(一)わた(一)法令綿(一)に同じ。  
 ばうれう(一)坊寮(一)名 僧侶のすむ家。僧房。  
 はうれつ(一)芳烈(一)名 かうはしきいさを。  
 はうれつ(一)砲列(一)名 大砲を發射すべき列。  
 砲兵の發射するため大砲を排列する。  
 はうれん(一)寶璽(一)名 天子の御車。  
 ハウレン(一)葦葦(一)名 葦葦。藜科に屬  
 する草。葉はたんぼに似て稍や廣く花は夏  
 の初めに開き穗狀花序をなす。根元は赤色を  
 帯びて甘く、ひたしものにして食ふ。

ばうろ(一)茅廬(一)名 茅やぶきの家。轉じて  
 自宅の謙稱。  
 ばうろ(一)望樓(一)名 遠方を望見するた  
 かの。觀樓。●海軍望樓に同じ。  
 はうろく(一)焙烙(一)名 物をいれる素焼の土鍋。  
 いらがら。炒鍋。  
 一てうれん(一)調練(一)名 多人數隊を  
 二つに分け、各焙烙を頭に載せ、竹刀にて互に  
 打ち合ひ、割られたるを負とす。徳川時代行はれ  
 たる訓練。  
 一びや(一)火矢(一)名 布にて包み漆を塗りたる  
 一むし(一)蒸(一)名 焙烙の中に鹽を敷き魚など  
 入れてむし焼にしたる料理。焙烙焼。  
 はうわ(一)飽和(一)名 理 固體が液體中に溶解  
 するに其の限度に達し最早それ以上を溶かす  
 能はざること。  
 一じようき(一)蒸氣(一)名 理 一定の室内に  
 於ける液體が一定の温度に於て漸次蒸發し  
 て或度に達すれば遂に休止するに至る。此蒸  
 氣を其時の温度に於ける飽和蒸氣といふ。  
 一ようえき(一)溶液(一)名 一定の温度に  
 於て固體或は液體が十分にとけたる液。  
 ばうわ(一)暴横(一)名 無理非道なる事を行  
 ふこと。あらあらしきこと。  
 はうぬ(一)包圍(一)名 一とかこむこと。ぐるり  
 をとりまくこと。●(兵)敵の正面と同時に其の  
 側面又は翼を攻撃して之を包繞するをいふ。

一こうげき(一)攻撃(一)名 敵をとるかこめて攻  
 撃すること。「手にかかふるだけの大き。  
 はうぬ(一)抱圍(一)名 雙手にかかふること。雙  
 はうぬ(一)方位(一)名 方角をいふ。  
 一かく(一)角(一)名 ある土地に於ける磁石のさ  
 す方向と子午線との間になす水平面上の角  
 をいふ。  
 はうぬ(一)訪慰(一)名 他人を訪問してなぐさむ  
 ばうぬ(一)防圍(一)名 ふせきかこふこと。  
 はうぬ(一)邦城(一)名 國のさかひ。  
 はうぬん(一)芳韻(一)名 他人の詩作の尊稱。  
 ばうぬい(一)防衛(一)名 自己又は他人の危害  
 を防ぎ守ること。  
 ばうぬん(一)望遠(一)名 とほくのぞむこと。  
 一きやう(一)鏡(一)名 遠き物體を見るに用  
 ゐる具。とほめがね。「自己の家の謙稱。  
 ばうをく(一)茅屋(一)名 茅やぶきの家。●  
 ばうをく(一)房屋(一)名 いへ。  
 はえ(一)鮓(一)名 魚の名。はやともいふ。淡水に  
 産し形柳の葉の如く細長くして鮓に類し、普  
 通白色なれども雌魚は産卵期に美麗なる彩  
 色を呈す。鱚。  
 はえ(一)映(一)名 光り輝きて見ゆること。はゆること。  
 はえい(一)波影(一)名 なみのうつろふかげ。  
 はえきは(一)生際(一)名 額などの毛の生えたる  
 際。髮際。  
 はえぬき(一)生拔(一)名 其地に生れて其地に長







一のなは(一)一繩一名不動尊の手にもてる繩の稱。魔をしぼるためのものといふ。

ばく(化)自動カ下二形を變ず。魅。素性をつみかくして別様の人の如きさまを装ふ。

ばく(馬具)名馬の道具。即ち鞍轡轡手綱押掛の總名。

はくあ(白聖)名はくあくの訛。

はくあ(博愛)名ひろく物を受すること。ひろく愛しめむこと。平等に愛すること。

はくあ(主義)名その種族地位の如何を論ぜず人類はすべて平等なるが故に平等に相愛せざるべからずといふ主義。

はくあ(白聖)名しろつち。白土。しろくぬれる壁。シッケイ。漆喰。しろびひ。白灰。②(化)炭酸カルシウムの粉末を固めたるもの。墨板に書畫をかくに用ゐらる。

はくあ(白衣)名官府に仕へて趨走に従ふもの。今の小使給仕の如し。②白衣衣服。又白小袖に指貫又は袴を着。直衣直垂などの表衣を着ること。

はくあ(出身)名なりあがり者を指している。賤しき身分より出世したるもの。

はくあ(宰相)名官位なくして大政の顧問に備はるもの。稱。

はくあ(白雨)名白く見ゆる雨。ゆふだちの雨。にはかあめ。

はくあ(麥雨)名麥の熟する頃にふる雨。

包みたるもの。通用銀の三分に當る。贈答などに用ゐて銀何枚と呼びたり。銀子。

はくあ(莫逆)名心に逆ふことなき別懇なる交りをいふ。

はくあ(互)名互に相親しむ友。

はくあ(白魚)名①みこひに同じ。②しらう。

はくあ(白玉樓)名唐の李賀の故はくあ(白駒)名①しるきうま。②莊子に出づ。光陰の經過の早きを喩へいふ。つきひ。一隙を過ぐ。句光陰の忽に經過するにいふ。

はくあ(薄遇)名もてなしの丁寧ならざるはくあ(手)他動マ四。親鳥雛を羽交にて被ひ育つ。②やしなひそだつ。養育。③保護す。かばふ。

はくあ(白光)名白く見ゆるひかり

はくあ(日蝕)名太陽の周圍に見ゆる白き光

はくあ(伯兄)名總領の兄。第一の兄。

はくあ(擲擊)名手にてうちやますこと。くみうち。格闘。

はくあ(追擊)名せまらうこと。

はくあ(砲)名歩兵が敵壘に突貫するに際し之を援助するため敵壘近く寄りて發射する火砲。装置輕便にして揚火の筒に類するもの。

はくあ(駁擊)名他人の言説を打難するはくあ(莫逆)名はくあやくに同じ。

はくあ(箔打)名箔を打ちのはすと。又其人はくあ(薄運)名運のあしきこと。まはりあはせのあしきこと。

はくあ(白雲)名白き色の雲。しらくも。

はくあ(石)名炭酸石灰と苦土との化合物。白くして硝子の如き光澤を有して半透はくあ(白衣)名びやくえに同じ。「明なり。争ふもの。總稱。

はくあ(薄荷)名①種。藥草の名。一種の香氣を有す。葉は圓形に縁に鋸齒を有し對生す。花は小形淡紫色にて葉腋に生ず。薄荷精をとる。②(化)はくあせいの一。名。

はくあ(水)名薄荷精を溶かしたる水。

はくあ(精)名薄荷を水蒸氣と共に蒸溜して得たる無色針狀の結晶體。香氣殊に強く薬用とす。

はくあ(糖)名一種の菓子。砂糖を固めてつくり薄荷の香をつけたるもの。

はくあ(油)名薄荷を蒸溜して得たる香氣ある液。

はくあ(博雅)名ひろく物事を知りたること。博はくあ(幕下)名將軍の尊稱。②大將の旗下に屬するもの。はたもと。白幕實に同じ。

はくあ(麥芽)名麥のもやし。

はくあ(糖)名化。麥芽中の醱酵素が澱粉に作用して生ずる一種の砂糖。飴の甘

はくあ(白月)名月の上十五日の間。上半月。

はくあ(白血球)名血中にある無色

はくあ(博言學)名言語の起原。神達變遷及び其比較研究をなす學問。言語學。

はくあ(白骨)名雨露に曝されて白くならたる骨。さればね。

はくあ(莠)名水田中に生じて稻の成長に害はくあ(船載)名ふなづみ。

はくあ(薄才)名才のすくなきこと。才智の乏しきこと。非才。

はくあ(擲擊)名空拳にてうちこらすこと。

はくあ(駁雜)名いりまじること。純粹ならざること。

はくあ(白山)名加賀。飛騨。越前三國に跨るはくあ(博士)名はくあせに同じ。

はくあ(白紙)名色白き紙。物をかぬ紙しらかみ。②唐紙の一種。甚だ薄く且つ裂け易く色極めて白きもの。書畫用とす。

はくあ(白絲)名しろき絲。又染めざるいと。

はくあ(薄志)名志の輕薄なること。志のよわきこと。心ばかりの謝儀。

はくあ(弱行)名意志弱くして行爲のたしかならざること。意弱くして決行力に乏しきこと。

はくあ(白磁)名白き釉薬をかけたる瀬戸物。はくあ(白字)名一字を凹めてはりたる印形の

味あるはこれを含むによる。

はくあ(迫害)名せまり害すること。くるしむはくあ(薄倖)名ふしあはせ。運のわるきこと。不運。不幸。

はくあ(薄行)名しわざの輕薄なること。さだまらぬおこなひ。行の薄弱なること。

はくあ(博學)名ひろくまふこと。學問のひろきこと。學問に博く通じたること。碩學。多才。

はくあ(博洽)名ひろく物事にゆきわたはくあ(白眼)名人を睨みつくる眼つき。

はくあ(白旗)名白き旗。戰敗れて降を乞ふとき之を立つるを例とす。

はくあ(白鬼)名淫賣婦。しろくび。

はくあ(駁擊)名駁撃したる議論。

はくあ(薄儀)名手薄き謝禮。輕少なる禮物。

はくあ(商蕪)名上下の蕪の齒を包む肉はくあ(幕議)名幕府の評議。「はくあし」はくあ(博戲)名スゴロク。ばくち。

はくあ(薄給)名給金の少きこと。手薄き給料。

はくあ(白金)名銀白色の貴金屬にて展性延性に富み容易に温熱のために變化せず。坩堝・蒸發皿に製せられ又ガイストレル管・白熱燈などの電極に用ゐらる。プチチナ。はくあ(白銀)名銀。しろがね。ぎん。昔、銀を三寸許の平たき楕圓形となして紙に

文字。①白粉を以てかきたる文字。

はくあ(幕使)名幕府の使者。

はくあ(參秋)名むぎをかりとる時。陰曆五月の異稱。

はくあ(博識)名ひろく學藝に通ずるをいふ。物事にわたってよく知りたること。

はくあ(白日)名曇りなく輝く太陽。明かなる日。②日中。ひるなか。

はくあ(白晝)名白晝の盜。ひるぬすびと。

はくあ(白刃)名しらは。ぬきみ。

はくあ(白人)名白色人種に同じ。歐米人を指している語。①しろうと。素人。②遊女の藝なく下等なるもの。③と。御家人。

はくあ(幕臣)名幕府の臣下。はくあ(白砂)名しろきすな。①青松

はくあ(白紗)名しろきすな。①青松に設置する金具。尖端に齒を刻みたる輪車ありて騎乗者が馬を御し又は懲すためのもの。

はくあ(薄謝)名手輕き謝儀。

はくあ(白蛇)名白色の蛇。白花蛇。

はくあ(白狀)名白らの罪を申立てたる書狀。②轉じて罪を申立つること。はくあ(薄情)名なまけすくなきこと。愛情なきこと。義理人情のうすきこと。

するもの。  
 はくしやく「薄弱」名「うすくよわきこと。よわよわしきこと。①たしかならざることをしつかりせざることを「證據」。「らすこと。てうち。はくしやく「拍手」名手をうつこと。掌を打ち鳴らすこと。①「喝采」名演説又は演藝などにて手をたたくてよめきほむること。「酒。はくしやく「薄酒」名香気の少き酒。氣の弱きはくしやく「白首」名しらがくび。しらがあはくしやく「白鬚」名白き口ひげ。「たま。はくしやく「薄暑」名初夏の暑氣。「一の節」はくしやく「曝書」名書物のむしほし。はくしやく「白色」名しろきいろ。  
 はくしやく「一人種」名人種の一。皮膚白色にして髪軟かに顔は他人の人種よりも大なるを特性とす。  
 はくす「博」他動サ變世の中にひろむ。ひろく知はくす「縛」他動サ變しぼる。いましむ。くくる。捕縛す。  
 はくす「駁」他動サ變他人の言説を非難す。非をうつ。攻撃。「ふりかくるもの。はくすな「箔砂」名箔の粉末。襖・貼紙などにはくすのしんじん「白水眞人」名「泉」の字を分ちて白水と訓み貨の字を分ちて眞人と訓みたるもの泉貨。即ち錢の異稱。「同じ。はくするらう」(「白水郎」名あま「海士」に



木綿の白張を着する下司の仕丁。②神事又は神葬などに物をつかきつゝ  
 人夫の着る服。又  
 其服を着る人夫。白丁。  
 はくちゆう「伯仲」名「兄弟」③似よりて優劣なきこと。  
 一のあひだ「一之間」名長子と次子とがよく似るが如く物の優劣甚しからぬに喩ふ。  
 はくつう「博通」名ひろく諸種の物事に通じはくつう「他動カ四音食ふ」。「たること。  
 はくてう「白鳥」名「動」水鳥の一種形鷺に似て大く全身白色にして頭甚長く嘴の根元に黄赤色の瘤あり。くぐひ。ひしくひ。こふ。しろとり。④白磁の徳利の口の細長きもの。  
 バクテリア「Bacteria」名「細菌」(細菌)に  
 はくと「白徒」名未熟なるもの。訓練なき卒。  
 はくと「博徒」名ばくちうち。賭博をなすものばくと「夢奴」名夢の黒種。  
 はくと「博闘」名くみうち。なぐりあひ。  
 はくと「白頭」名しらがあたま。  
 一をう「一翁」名「老いて頭髪の白くなれる老人。⑤(動)むくとりに同じ。  
 一如「新」(「アガタシ」句交友の間にありても互にその心を知り合はずは白髪を生ずる老年まで交るとも始めて逢へるが如く疎遠なるをいふ。  
 はくどう「白銅」名銅に似て白き銀色ある一

はくせい「剝製」名鳥獸の皮を剥ぎ之に防腐劑を塗り原形の如く縫ひあはせて標本などに用ゐるもの。「菓子の名。せんべい。はくせい「薄脆」名「うすくしてもちもちこと。はくせい「幕政」名幕府の政治。  
 はくせき「白哲」名皮膚の潔白なるをいふ。  
 はくせつ「白雪」名しらゆき。「一皚々」  
 一かう「一糕」名一種の菓子。蓮の實を加へたる白色の落雁。  
 はくせつ「駁説」名駁撃したる説。  
 はくせん「白戦」名白兵戦に同じ。  
 はくせん「白扇」名地紙の白くして何ものもかきてなき扇。  
 はくせん「薄膳」名粗末なる膳部。  
 はくせん「博闘」名くみうち。格闘。  
 はくせん「蕪然」名副まつしぐらに進む貌。急に進みかかるさま。  
 はくせん「漠然」名副「はつとしたること。廣くして際涯なきこと。①「ぼんやりしたるさま。方向の定まらざる貌。模糊。  
 はくせん「爆然」名副爆發するさまにいふ語。  
 はくそ「商屎」名「はかすに同じ。  
 はくたい「白帶」名病「しらち。  
 一げ「一下」名病前に同じ。  
 はくたい「薄符」名鄭重ならざるもてなし。  
 はくだい「莫入」名「これより大なるはなしの意」

種の金屬。ニッケル。「の補助貨幣。  
 一くわ「一貫」名白銅にて鑄造したる五錢はくとく「薄徳」名徳を積むことの少きこと。  
 はくないしやう「白内障」(五病)そ「こひの一種。瞳子の青色・灰白色等にして透明ならざる病。「等の字の左にある夢の字の稱。  
 はくねう「白熱」名漢字の偏の名。麴。麴はくねう「白熱」名熱度甚だ高くして其熱せらるるや白色の光を放つほどに至るをいふ。  
 一とう「一燈」名「電燈の一。真空なるガラス球中に細き炭素線を入れたる装置のもの。炭素線に電流を通ずるときは激しく熱せられて白光を放つ。  
 はくは「白馬」名しろうま。又あをうま。  
 一のせち「一節會」名あをうまのせち。  
 はくはく「白白」名副あきらかにして毫もくもはくはく「寒寒」名副物靜かなる有様。ひつそりとして物淋しき貌。  
 はくはく「漠漠」名副「雨のしげくふる貌。①ひろひろとしたる貌。②とほくはるかなる貌。③はつとしてとりとめなき貌。  
 はくはく「名副」大なる口を開閉するさまにいふ。「お獅子」④つけ合せたる所のはなれかゝりてあるさまにいふ語。「にふ語。  
 はくはく「名副」前に同じ。⑤物を食ふさまはくはつ「白髪」名しらか。「一翁」

極めて大なること。  
 はくだう「白道」(五天)太陰の軌道。  
 はくたく「饅頭」名麵粉にて製したる食物。はうたう。  
 はくだつ「剝脱」名「ぬけおつること。「木落つて一す」①はぎぬがすこと。「りあぐること。  
 はくだつ「剝奪」名はぎとると。うばひとると。と  
 一こうけん「一公權」(名法)重罪の附加刑。終身間其人の公權を剝奪すること。  
 はくだん「爆彈」名ばくれつだん。  
 はくち「白痴」名尋常の人事をも辨せざる甚しき愚者。白癡。  
 はくち「白地」名あからさま。  
 はくち「白雉」名動「しらきじ」。「らに。  
 はくち「薄地」副たちまち。急に。まっしぐはくち「博打」名一種の賭事。金錢をかけ采をふりて勝負を行ふもの。「くにする人。博徒。  
 一うち「一打」名博奕を行ふことを職業の如  
 一ば「一場」名ばくちを行ふ場所。とば。  
 一やど「一宿」名博徒をかくまふ家。賭窩。  
 はくちう「白晝」名ひのうち。ひるひなか。まひる。日中。  
 はくちく「爆竹」名「とんどの火。左義長の火。②支那人の祝日などに打ちあぐる花火。  
 はくちていげ「薄地底下」名佛。無智。賤なる凡庸人をいふ。薄地の凡夫。  
 はくちやう「白張」名「しらはりの義」

はくはつ「爆發」名發火して破裂すること。急に特種的作用發生して外圍の物を破傷し又は飛揚せしむること。  
 一ぶつ「一物」名爆發する性質のもの。又爆發薬を裝填したるもの。「イナマイトの類。  
 一やく「一薬」名物を爆發せしむる火薬。ダ  
 はくはん「拍板」名びんざらに同じ。  
 はくはん「白飯」名菜をそへざる飯。  
 はくはん「薄皮」名うすきは。うすかは。  
 はくひ「白砒」名化。無水亞砒酸に同じ。  
 はくひ「白眉」名「蜀志に出づ兄弟中にて最も卓越せるものをいふ。③轉じて兄弟に限らず汎く同類中にて傑出したるものをいふ。  
 はくひん「幕賓」名將軍又は大臣などの顧問として招聘しおく秘書官の如きもの。  
 はくひよう「薄氷」名薄くはりたる氷。うすこほり。  
 はくふ「伯父」名年の最も長けたるんぢ。父の  
 はくふ「白布」名しろぬい。さらしぬい。  
 はくふ「瀑布」名「ぬのざらし。④たき。飛泉。「那智の」  
 はくふ「幕府」名「將軍の居る所。⑤將軍が政務を行ふ所。武人の政府。幕府。  
 はくふつ「博物」名物事を博く識ること。  
 一がく「一學」名理學の一部。動物學。植物學。礦物學の總稱。

はくしんし「君子」名博識の人。ものしり。  
はくわん「白簡」名動植礦物及び古今中外の天産・人造諸般の物品を陳列して衆人に観覽せしむるところ。  
はくほうん「白粉」名動植礦物等化粧に用ゐる粉末。  
はくぶん「白文」名漢文の句讀訓點なきものをいふ。書物の本文のみを載せたるもの。白字。

はくぶん「白文」名漢文の句讀訓點なきものをいふ。書物の本文のみを載せたるもの。白字。  
はくぶん「白文」名漢文の句讀訓點なきものをいふ。書物の本文のみを載せたるもの。白字。

はくぶん「白文」名漢文の句讀訓點なきものをいふ。書物の本文のみを載せたるもの。白字。  
はくぶん「白文」名漢文の句讀訓點なきものをいふ。書物の本文のみを載せたるもの。白字。

はくぶん「白文」名漢文の句讀訓點なきものをいふ。書物の本文のみを載せたるもの。白字。  
はくぶん「白文」名漢文の句讀訓點なきものをいふ。書物の本文のみを載せたるもの。白字。

はくぶん「白文」名漢文の句讀訓點なきものをいふ。書物の本文のみを載せたるもの。白字。  
はくぶん「白文」名漢文の句讀訓點なきものをいふ。書物の本文のみを載せたるもの。白字。

はくぶん「白文」名漢文の句讀訓點なきものをいふ。書物の本文のみを載せたるもの。白字。  
はくぶん「白文」名漢文の句讀訓點なきものをいふ。書物の本文のみを載せたるもの。白字。

はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。  
はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。

はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。  
はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。

はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。  
はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。

はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。  
はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。

はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。  
はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。

はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。  
はくま「白熊」名支那より舶來する犛牛の尾。馬毛より細くして白し。拂子に造り、又旗槍などの飾とす。

はくや「箔屋」名箔の工人。又箔を賣る家。  
はくや「薄夜」名くれがた。たそがれ。  
はくや「鑛鏝」名支那の古の名劍。轉じて銳利なる刀劍をいふ。

はくや「箔屋」名箔の工人。又箔を賣る家。  
はくや「薄夜」名くれがた。たそがれ。  
はくや「鑛鏝」名支那の古の名劍。轉じて銳利なる刀劍をいふ。

はくや「箔屋」名箔の工人。又箔を賣る家。  
はくや「薄夜」名くれがた。たそがれ。  
はくや「鑛鏝」名支那の古の名劍。轉じて銳利なる刀劍をいふ。

はくや「箔屋」名箔の工人。又箔を賣る家。  
はくや「薄夜」名くれがた。たそがれ。  
はくや「鑛鏝」名支那の古の名劍。轉じて銳利なる刀劍をいふ。

はくや「箔屋」名箔の工人。又箔を賣る家。  
はくや「薄夜」名くれがた。たそがれ。  
はくや「鑛鏝」名支那の古の名劍。轉じて銳利なる刀劍をいふ。

はくや「箔屋」名箔の工人。又箔を賣る家。  
はくや「薄夜」名くれがた。たそがれ。  
はくや「鑛鏝」名支那の古の名劍。轉じて銳利なる刀劍をいふ。

はく「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。  
はく「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。

はく「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。  
はく「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。

はく「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。  
はく「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。

はく「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。  
はく「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。

はけ「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。  
はけ「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。

はけ「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。  
はけ「破壊」名やぶること。やぶること。非認。否定。



せ行くもの。①はさみばこかぜの略。  
 ①かせ(一風)名病。耳、頭の下なる腺の嫩衝して腫れ脹る病。蝦蟆腫。  
 はさみむし(一挾蟲)名動。昆蟲。長さ一寸許、幅二寸許、背黒くして光り黄色の脚を有す。翅なくして觸角二十節あり。尾端に岐ありて缺の如く働き小蟲など挾みて背へ曲げて食ふしりばさみ。蠅蠅。  
 はさむ(一挾)名動。四物と物との間に籠めて相おして持つ。管にて。①  
 はさむ(一插)他動。四物の間に差入る。隙間にささむ(一剪)他動。四はさみにて切る。  
 はさん(一破産)名。家産を盡く失ふこと。家資分散。身代限。②(一法)商人が自己の財産にて總ての負債を完済すること能はずして支拂を停止したるとき本人又は債権者の申立により裁判所が決定を以てなしたる宣告に基き、其財産を各債権者に正當に配當すること。破産者は其手續の繼續中に自己の財産を占有管理及處分する權利を失ふ。  
 ①くわんさいにん(一管財人)名(一法)破産裁判所より選定して破産主任官の指揮監督の下に破産財團の管理換價配當等を掌らしむるもの。  
 ①さいだん(一財團)名(一法)破産の手續の終局に至るまで破産者の所有に屬し、且つ強制執行の目的たることを得る財團。

①さいばんしよ(一裁判所)名(一法)破産を管轄する裁判所。即ち破産者の營業所若くは住所を管轄する地方裁判所。  
 ①しや(一者)名(一法)破産の宣告を受けたるしゆにんくわん(一主任官)名(一法)破産裁判所の命じて其破産の事件を指揮監督せしむる判事。  
 はさん(一破算)名。置き分けたる算盤珠をくづすばさら名。だて。風流。②物事のしまりなくがみ(一髪)名。みだれがみ。③亂るる。はし(一端)名。④はじめ。こぐち。端緒。⑤すゐ。をはり。へり。はじ。邊端。⑥疊のへり。家の外もに近き所。⑦近う打ち眺めて。⑧一部分。⑨一打讀み。⑩一端。⑪きりはし。⑫紙の。⑬断片。⑭あはひ。⑮曇夜の迷へるに間。⑯ゆかり。つて。縁。  
 ①ををる。句はしをからぐ。又はしを省く。  
 はし(一橋)名。川溝などの兩岸の間又は家と家との間などにわたしかけて往來の道とするもの。②をわたす。句橋をかく。又媒介す。  
 はし(一階)名。③さざはし。さだはし。あがりだん。④御一の櫻。⑤はし。梯。  
 はし(一箸)名。物を挟みとりて食事とする具。竹木象牙牙骨などにて細長く作り、二本を合はせて指の間に操りて用ゐる。  
 ①を下す。句配膳の肴などを食ひはじむるに。はし(一箸)名。くちばしに同じ。

はし(一土師)名。はしにの略。  
 はし(一愛)形。②いとほし。いつくし。吾が。③はし(一黃蘗)名。落葉木。葉は漆に似て粗き鋸齒あり。秋季紅葉す。又木心黄にして古は黄槿染とて染料に用ゐたり。はしに。はぜ。やまうろし。又其一種實より蠟を採るものをもはぜ。はぜうろし。らふのきなどいふ。葉鋸齒なく長大にして實亦大なり。  
 はし(一端)名。はしに同じ。  
 はし(一怪我)名。或語に添へて其事の限りを表はす語。  
 はし(一怪我)すな。①夢。②さますな。  
 はし(一いた)橋板)名。橋桁の上に敷く板。  
 はし(一うら)橋占)名。橋のほとりに立ち居て往來の人の語を聞き判じて吉凶を占ひし。  
 はしか(一芒)名。夢などのき。  
 はしか(一癩疹)名。皮膚に赤斑を生じ喉いらつきてかやく。小兒に多く傳染し易き病。然れども一回之に罹るときは再び罹ること稀なり。あかもがさ。あか。あ。赤斑瘡。  
 はしがかり(一橋懸)名。能にて演者の樂屋より舞臺に通ふ路。欄干ありて廊の如く橋の如し。かけみち。  
 はしがき(一端書)名。①手紙の端に別に書き添ふる文。なほなほがき。かへすがき。はしづくり。②書冊の端に大要又は評論其他關係ある事柄などをしるす文。序。敘。  
 はしがくし(一階隱)名。階の前に二本の柱を

立て屋根を架したる所。輿を寄する爲に設く。  
 はじかみ(一板)名。種々。さんせうの古名。  
 はじかみ(一生薑)名。種々。しやうがの古名。  
 はし(一から)副。漸次に。次第に。  
 はじき(一彈)名。①はじくこと。②物を弾く用をなさしむる機。彈機。③いしばじきの略。  
 ①がね(一鐵)名。物を弾く用をなさしむる装置の鐵。(一鐵砲の一)。  
 はしきよし(一愛哉)名。よは感動詞。しは助辭。愛らしく思ふよ。いとほしき哉。はしけやし。  
 はじく(一彈)他動。力四。撓めたるもの返る力にて物を打つ。撓めて放つ。②受けつけず。彈ねとす。よいつかぬやうにす。  
 はじく(一罅裂)自動。カ下二さけ開く。みみわる。はぜわる。  
 はし(一ひ)橋)名。橋桁を支ふる柱。はしはしら。橋脚。  
 はし(一くれ)端)名。①すみ。はし。②きりくづ。  
 はし(一解)名。はしけぶの略。  
 はし(一けい)橋傾城)名。橋のあたりに佇む傾城の義。つちぎみに同じ。  
 はし(一けた)橋桁)名。橋板を受け支ふる材。  
 はし(一けぶ)ね)名。貨物又は旅客などをのせて陸と碇泊中の大船との間を往來するに用ゐる小舟。傳馬船。小廻船。脚船。  
 はし(一け)まめ(一罅豆)名。蠶豆又は豌豆などを蒸りてはせしめたるもの。

はし(一け)やし(一愛哉)名。はしきよしに同じ。  
 はし(一ける)解)他動。カ下。①解にて物を運ぶ。  
 はし(一こ)梯子)名。①寄せかけて高きに登る具。一雙の材に數條の横木を設けて足掛りとしたるもの。はし。②さざはし。さだはし。だんばし。階。  
 ①がた(一形)名。ていけいに同じ。  
 ①ざけ(一酒)名。數箇所席を替へてつづけさまに酒を飲むこと。梯飲。  
 ①だて(一立)名。梯子を物に立てかかると。  
 ①だん(一段)名。だんばし。又其段。  
 ①のみ(一飲)名。はしござけ。  
 ①のり(一乘)名。立てたる梯子の上に登りて種々の藝をなすこと。消防の出初式などに行ふ技。  
 ①もち(一持)名。火事の際梯子を擔ぎ行くはしこし。敏捷。形。すばやしに同じ。  
 はし(一こ)は(一端辭)名。はしがき。  
 はし(一じ)端)名。①(商肉の義)はしがき。齒莖。  
 はし(一せん)橋)名。はしちん。橋貫。  
 はし(一した)端)名。①物事の何れともつかざること。どちらつかず。なかぞら。半途。中有。起つとも一居るも。②中間。③數の揃はぬこと。數の足らぬこと。半端。④數の餘ること。餘計。⑤零餘。⑥はしたものの略。  
 はし(一たい)ろ(一端色)名。①かさねの色目。表も

裏もうす色の濃きもの。②經。緯ともに薄紫色の絲にて織れる織物の色。  
 はしたか(一鶴)名。動。敏應の義。又はいだか。鷹の一種。形鷹より小く腹に黄黒又赤白の斑あり。又胸腹灰赤にして黒赤斑を雜へ背黒く光を含むもあり。雌は能く驚。鳴などを捕へ食ふ。其雄をこのりといふ。鶴などの小鳥を捕へ食ふ。兄鶴。  
 はした(一が)ね(一端金)名。不足なる金錢。僅なるはしたせに(一端錢)名。はしたに同じ。  
 はした(一た)て(一箸立)名。箸を立ておく具。  
 はした(一た)て(一梯立)名。梯子を立てかかると。樹はしたなし。形。①何れとも附かずしてあり。中間にてあり。寄る邊なし。依違。②取付く所なし。間がわるし。③不都合なり。あさまし。いやし。困殺。④愛想なし。つれなし。情なし。無情。  
 はした(一な)む(他動。カ下。二)取つく所なく仕向けてこまらす。困殺。窘殺。  
 はした(一め)中間)女)名。下女。みづしめ。下婢。  
 はした(一もの)中間)物)名。數に足らぬもの。又あまれるもの。  
 はした(一もの)中間)者)名。身の程高からねど又さほど下衆にもあらざる義。はしたために同じ。  
 はした(一わ)ら(一引)中間)童)名。子供の召使。はし(一ち)か(一端近)名。家のはしに近きところ。あがりばな。



はす

はじろ「端城」名てじろ。昔、子城。  
 はしわたし「橋渡」名。なかつだちすること。  
 とりもち。媒介。●本人の来るまで代りて物事を扱ふこと。  
 はしる「端居」名は近く廊下・縁などに出てはしをる「端折」他動ラ四はしよるに同じ。  
 はす「鱒」名動。●ひらに同じ。●近江國琵琶湖に産する魚。鱒に似て大きく、背青く腹白く小骨多し。味は鱒に似たれども美ならず。  
 はす「蓮」名種。はちすの略。  
 一のいひ「飯」名はすめしに同じ。  
 一のうてな「臺」名佛。はちすのうてなに同じ。  
 一のはがさ「葉蓋」名。●蓮の葉の形をしたるがさ。●小兒などの戯に蓮の葉を笠に被るもの。  
 一のはがひ「葉貝」名動。たこのまのひら「飯」名強飯を蓮の葉に包みたるもの。生靈祭に供ふ。  
 はす「斜」名ななめ。すぢちがひ。はすかけ。なぞへ。「一」に行く。  
 はす「馳」自動サ下二。走る。かく。●他動サ下二はす「派」他動サ變。出張せしむ。おくりつかはす。  
 はす「破」他動サ變。他説をうやぶる。  
 はす「答」名。●矢の頭。又は弓の兩端の弓弦を受くること。●答と弦と合ふ意より轉じて、事の當然なること。すぢ。わけ。

はす

はす「いけ」蓮池名蓮の生ひたる池。  
 はす「いも」蓮芋名種。さといもの一種。莖の色白くして、中に孔あること蓮の莖の如し。根莖共にさといもより小さけれども味美なり。くりいも。白芋。  
 はす「う」端敷名はしたのかす。  
 はす「かひ」斜名うちちがひ。すぢちがひ。ななめ。  
 はす「さし」答刺名矢筈を刺すに用ゐる小刀。  
 はす「た」蓮田名蓮を植うる水田。  
 はす「ち」蓮茶名煮えたる濃き煎茶を蓮の花に注ぎ、これを別に盛りたるうすき茶の中に、少しづつ入れて香氣をよくして呑むもの。バステル「Baster」名色をつけたるテョーグ。  
 一「わ」一畫名バステルにて畫ける繪。  
 はす「ね」蓮根名れんこんに同じ。  
 はす「は」蓮の葉。●少女などの性質。身持のおちつかぬをいふ。輕佻。●旅店の下女。畿内地方の方言。  
 一「むすめ」一娘名うはきなる處女。  
 一「め」一女名はすはむすめ。●うかれもの「一」者名はすはなる女。「め」遊女。  
 はす「み」機勢名はすむこと。はなかへること。反跳。●勢に乗ること。●勢づきて止まらぬこと。一ぐるま「一車」名理蒸氣機關に附屬する大なる車。質量大にして慣性の大きなが故に

はせ

迴轉速度を一定せしむるに用ゐる。  
 はす「む」自動マ四。●當れる勢にて返る。はれかへる。●勢に乗る。●勢強まる。  
 はす「めし」華飯名蓮の若葉にて飯を包みて蒸したるもの。又其葉を蒸して刻み、鹽に和して飯に雜せたるもの。  
 はす「のぼく」馬酔木名種。あぜみに同じ。  
 はす「る」葉末名葉のさき。「都の町はづれ。●すゑ」場末名都のはしの都に近きあたり。  
 はす「を」答緒名帆柱の上部につくる綱。  
 はせ「玉莖」名陰莖。  
 はせ「糝」名糯米のみを少しく濕して炒りたるもの。爆ぜ脹れてぬりぬか「糝」自ら脱す。白くして雪花の如く、菓子種又は魚を飼ふ餌とす。白花米。  
 はせ「沙魚」名動。河海の間産する魚。形こちに似て小く、大なるは五寸許、口廣く腮大なり。身薄黒くして斑あり。又其一種に大きくて虎斑あるをたらふといひ、深黒なる斑ありて頭尾最も黒きをころもといふ。蝦虎魚。  
 はせ「黃楸」名はじの轉。「しやう。  
 はせ「い」派生名本源より分れ生ずること。はせ「い」馬政名馬匹に關する政務。  
 一「きよく」一局名馬匹の改良繁殖。其他馬政に關する一切の事を掌るところ。内閣總理大臣の管理に屬す。  
 はせ「せう」芭蕉名種。芭蕉科に屬する植物。

はせ

多く暖國に産す。莖は直立して無枝なり。葉は長大にして長楕圓形をなし花は黄白色にして蓮花の蕾に似たり。實は五稜にして綠なり。食すべし。觀賞用として栽培せられ纖維は種々の用に供せらる。はせを。  
 一「かぢき」一舵木名動。かぢきとほしの一種。脊髄特に大なり。  
 一「ふ」一布名芭蕉の纖維にて織りたる布。沖繩縣の名産。芭蕉織。蕉紗。  
 はせ「うち」馳撃名互に馬を馳せちがへて擊劍はせ「うるし」黄楸漆名種。はじの條を見よ。  
 はせ「くち」爆口名はじけたる口。さくろくち。  
 はせ「こゆ」馳越自動ヤ下二馳せて越えす。  
 はせ「だま」爆彈名破裂する彈丸。  
 はせ「テラ」長谷寺大和國にある眞言宗豊山派の木山。  
 はせ「ひき」馳引名馬を馳せて弓を引くこと。  
 はせ「まは」馳廻自動ラ四馬に乗りてかけあるく。  
 はせ「むか」馳向自動ハ四そきておもむはせ「ん」破船名船の暴風雨などに遇ひ岩礁に觸れなどして破れ毀るる。又、難破したる船はせ「ん」波線名波状をなしたる線。  
 はせ「ん」端錢名はしたせに。「ほひ。鞍褥。  
 はせ「ん」馬鹿名鞍の上に敷く毛皮。くらむはせ



(きぢかうせば)

はそた

はせ「せ」芭蕉名種。ばせうに同じ。  
 はそ「鱒」名動。ひらに同じ。  
 はそ「く」頰側名かたよること。  
 はそ「く」馬足名馬のあし。  
 はそ「く」馬賊名滿州地方にて多く乗馬にて奪掠を事とする羣盜。處々に散在し、各首領はそ「て」羽袖名羽を袖に臂へていふ。「あり。  
 はそ「ん」破損名やぶれそこなふこと。  
 はそ「り」端反名端の上若しくは外へ反りたること。「一の橋」  
 はた「畠」名地を耕して麥・豆・蔬菜などをうる處。はたけ。白田の二字を組み合せて作れる和字にして白田とは水無き田即ちはたけのことなり。畑。陸田。  
 はた「機」名布帛を織る器械。經絲をわたり、緯絲をとほして織る。高木綿。絹。等種々。  
 一のひ「一」杆名ひ(桿)に同じ。「あり。  
 一のを「一」箆名をさ(箆)に同じ。  
 はた「旗」名布帛にて長く製し、其一端を竿の端にかけ高く立てて翻して物事の目標とするもの。旗。幟。  
 はた「あし」旗脚名旗の末端の垂れて打ちなはた「かさり」旗飾名旗のかさりに用ゐるもの。はた「さ」旗竿名旗をつくる竿。「の。  
 はた「鱒」名。●ひれ鱒の古言。「一のひろもの」のさもの「一」動魚の名。形もうをに似て、

はた

頭部の前額骨の左右突起。  
 一のさもの「一」狭物名。小きき魚。鯖廣物の對。  
 一のひろもの「一」廣物名。大なる魚。鯖狭物の對。  
 はた「端」名はし。へり。ほとり。へた。「池の」  
 はた「邊」名ほとり。わき。あたり。ふち。へり。  
 はた「將」名はまたの略。また「亦」と同じくして意稍強し。「いつ一人に逢はむとすらむ」  
 はた「將」接。或は。又は。雲か霞か「雪か」書狀文に、但しは。「一又」  
 はた「二十」名十の倍、即ちじふ。十重一重。  
 はた「肌」名。かはに同じ。紙の「一」樹の「一」●専ら人體の皮。かばべ。はたへ。肌膚。●きめ。膚理。  
 一「のおび」一帯名男子の陰部を被ふもの。わりふとし。ふとし。ふんどし。したおび。はたおび。禪。  
 一「をけがす」句婦人の節操を破るにいふ。一「をぬぐ」句。●はたぬきになる。●其事に力を盡す。  
 バター「Butter」名牛乳を製煉して成れる脂肪性のも。パンなどに塗りに食ふ。バター。酪。一「くさい」一臭形。西洋風にかふれたるやう。あり。  
 はた「あげ」旗揚名兵を擧ぐる。又事をおはた「あひ」一肌合名ききう。こころもち。はた「い」商代名車馬の借用貨。車の損料。







はち

はちがまし「恥」形二乗恥と見ゆ。恥と思はるいかに恥となるべきさまなり。

はちかん「ちん」八寒地獄名佛八種の寒地獄。頼陀部、尼刺部、囉囉陀、囉囉婆、虎虎婆、囉囉囉、鉢特摩、摩訶特摩の稱。

はち

肌湯水除疾病水の稱。

はちくわつ「八月」名年の第八の月。はづき。はちけん「八間」名扇くして大なる懸行燈。臺所などにつるして廣く照さしむ。はっぱう。

はち

はちじや「八邪」名人身を害する八つのもの。い。即ち風寒暑濕飢飽勞逸。

はちしやうだう「八正道」名佛八正道。正道修。正命正精進正念正定をいふ。八聖道。

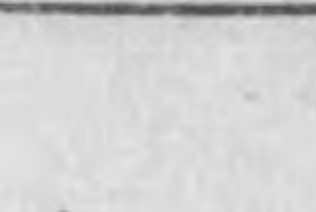
はち

はちすけ「八介」名古昔八人の介の稱。秋田城介(出羽國)三浦介(相模國)千葉介(下總國)上總介(上總國)狩野介(伊豆國)富樫介(加賀國)大内介(周防國)井伊介(遠江國)。

安道・黃海道忠清道慶尙道全羅道の稱。ハチたつき「鉢叩」名くうやなんブツ(空也念佛の條を見よ)。

はち

はちぢやう「八丈」名絹布の名。古へ諸國より織出せり。尾張美濃一などあり。



(んひ 12)





「胸に」立つ「打ち込む大刀を受けとむ」  
はつしほ(一)初潮(名)初めて汲む潮。  
はつしん(発信)名書信、電信等を發すること。  
たよりを出すこと。

「信機の對」  
一き(一)機(名)電信を發送する電信機。受  
にん(一人)名音信を發する人。「もと」  
はつしん(發疹)名皮膚に小さな腫物の生ず  
はつしも(初霜)名初めて置く霜。早霜。

はつしや(發射)名弓につがへて矢を放つこ  
と。銃砲のたまをうらいたすこと。  
はつしや(發車)名列車の出發すること。

はつしや(八姓)名はつせいに同じ。  
はつしや(八省)名古の八つの官省。即  
ち中務式部・治部民部兵部刑部大藏宮  
内の稱。

はつしや(八象)名八卦の象。乾天(坤  
(地)坎(水)離(火)艮(山)兌(澤)巽(風)震  
(雷)。  
はつしや(八將)名昔關東に於ける八  
豪族。千葉結城里見小田佐竹小山・宇  
都宮那須の八氏の稱。

はつじやう(發情)名情をおこすこと。重  
に男女間の情をいふ。「ろをいふ」  
一き(一期)名男女共に情慾を感ずる年ご  
はつしやう(八將)名八將神。名陰陽家に  
て吉凶の方位を司る八つの神。即ち太歳・大  
將軍・太陰・歲利・歲破・歲殺・黃幡・豹尾の稱。

はつせん(八專)名曆の語。壬子より癸亥に至  
る十二日間の中より丑辰午戌の四日を除  
きたる残り八日の稱。一年に六度あり。さて  
壬も癸も水なるより此間多く雨ふるなど云ひ  
又嫁娶を忌む。  
はつせん(八線)名三角函數を見よ。「し」  
はつせん(發船)名船の港をいでたつこと。ふな  
はつそ(發送)名おくり出すこと。おくること。  
はつそ(八則)名祭祀法則。廢置・祿位・賦  
貢・禮俗・刑賞・田役の八つの則の稱。  
はつそ(罰則)名犯罪を處罰する爲に設けた  
る規則。

はつそく(開族)名いへがら。家格。貴  
はつそん(末孫)名子孫。ちすぢのすま。後裔  
はつそめ(初染)名物を染むるときその染め初  
めの稱。はつしほぞめ。  
はつそら(初空)名初春の空。「縁にかへる春  
一づき(一月)名陰曆五月の異稱。  
はつた(初田)名新に開墾せる田。初めて  
稲を刈る田。  
はつた(發兌)名書物を賣出すこと。書物を  
出版すること。  
はつた(蝶鉢)名動物の類の總稱。  
はつたい(八體)名書體の八種。即ち篆・小  
篆・刻符・蟲書・草書・行書・隸書をいふ。  
はつたい(稊)名米・麥の新穀を炒りこがし  
て粉にしたるもの。麥のはむぎ、かしのいふ。

はつしやう(めん)名(八省院)名古、内裏に  
ありて八省の百官が政務を執りし所。その正  
殿を大極殿といふ。朝堂院。  
はつしゆう(八宗)名佛・律・俱舍・成實・法相  
三論・天台・華嚴・真言の八宗の稱。  
一けんかく(一兼學)名八宗の教義をこ  
とくく學ぶこと。轉じて何事にも熟達す  
ること。

はつじゆう(發銃)名小銃を發射すること。  
はつしゆう(發出)名發し出づること。發し出  
だすこと。  
はつしゆう(拔出)名擇り抜くと。又ぬけると  
はつしゆう(八升豆)名種豆の一種。葉  
はなたまめより大きく花は濃紫色にして美し。  
莢はそらまめに似て大きく毛あり。種子は白く  
して灰斑あり。灰色に黒斑あり。形そ  
らまめより大くなたまめより小し。  
はつす(發)自動サ。起り立つ。おこる。は  
じまる。生ず。出立つ。出で行く。ゆく。他  
動サ。おこす。はじむ。生ぜしむ。放つ。  
射て遣る。放射す。行ふ。しく。やる。つ  
かす。

はつす(外)他動サ。はまりたる所よりとり  
のぞく。とりさる。除。取りそこなふ。うしなふ。  
あやまる。失。さく。よく。其場を――  
はつす(解)他動サ。四はづるやうになす。ほつ  
す。ほぐす。ほぐす。

はつし(一石)名鐵鑛の砂・礫などと結合し  
て固き塊状をなせるもの。殼は堅く黒褐色にし  
て内は空しく白色若くは青白色の細粉滿つ。  
稊の如し。こもちいし。いしなだんご。か  
なつばいし。はつたいせき。禹餘糧。  
はつたう(一)抜刀(名)刀をひきぬくこと。  
めきみを提ぐること。  
はつたい(一)隊(名)抜刀して敵陣を衝く部隊。  
はつたけ(一)拔擢(名)擢り抜くこと。よびぬくこと。  
はつたけ(一)初茸(名)秋季松林などに生ずる  
一種の菌。諸菌に先ちて生ずるを以て此名あ  
り。形椎茸に似て青灰色をなし。菌柄は短くし  
て帯綠色に變ずる液汁を分泌す。食用に供す  
べし。青頭菌。  
はつたつ(發達)名すすむこと。鞏固となること。  
はつたつ(八達)名八方へ通ずること。「四通一」  
はつたん(八端)名黃褐色の縱横の縞に織り  
一おり(一)織(名)前に同じ。「たる絹布」  
一がけ(一)掛(名)前に同じ。  
ハッチ(視稿)名絹布にて仕立てたる股引。  
ハッチ(ぼうず)名鉢鉢坊主。名托鉢してあるく  
乞食僧の稱。化飯道人。  
はつちん(八珍)名支那にて盛大なる食膳に  
備ふる八つの珍味。即ち淳母・淳熟・炮肝・炮  
豚・醬珍・蒸・肝・腎又は鯉尾・龍肝・鳳髓。  
免胎・熊掌・鴨炙・豹蹄・狸唇の稱。  
はつちやく(發着)名出發と到着と。

はつちり(一)名同。日などのすすしげに見ゆるさま  
にいふ。  
バッテリー(端艇)名(ホルトガル語 Batterie)。  
西洋形の小型ボート。「と。かどで」  
はつてい(一)發程(名)旅行の路に上ると。出發す  
はつてう(一)發條(名)ぜんまいに同じ。  
はつてき(一)拔擢(名)ばつたくの訛。  
はつてん(一)發展(名)發達し開展する意。ひら  
きのふること。「事業」一さかえゆくこと。  
はつてん(發電)名電氣を發生すること。電  
氣を發すること。  
一き(一)機(名)強き磁場に於てコイルを  
廻轉して強き電流を得る機械。直流―交流  
の二種あり。  
一し(一)子(名)發電機の電氣を起すコイ  
ルの稱。磁場を強くするために軟鐵の心にて  
充たす。形種々あり。  
一しよ(一)所(名)電氣を發生して電流を發  
一たい(一)體(名)發電したる體。  
はつてんぐ(八天狗)名愛宕・比良・大峯・大  
山・鞍馬・飯綱・白峯・彦山の八山に住めりと  
いふ天狗。  
はつと(一)法度(名)法律。禁制。おきて。さため。  
一がき(一)書(名)法度の箇條をかきしるした  
はつと(發途)名いでたち。かどで。「る書」  
はつと(一)則(名)俄に驚くさまにいふ。  
バット(Bat)名ベースボールなどで球を打









はなさき(鼻先)名 ● はなのさき、鼻尖。●  
 めのまへ。目前。  
 はなざくら(花櫻)名 ● 種櫻の一種。花は淡  
 紅色の美しき重瓣なるもの。● 重衣の色目。  
 表は白色にして裏の青なるもの。  
 はなざくろ(花柘榴)名 ● 柘榴の一種。木は  
 常のものより小く、花は八重にて實を結ばず。  
 はなさん(鼻様)代名 ● 意の時の自稱。  
 はなし(話)名 ● 話の事。● 君に―が  
 わけ。事情。● たらひ。相談。● 君に―が  
 る。● 言はさ。評判。● 言説のみにて實  
 際にあたらざると。● 落語。● 眠。  
 ―に花がさく。句いろいろさまさまの話が出  
 ーに身が、いる。句興に乗りて熱心に話す。  
 はなしはんぶん(話半分)名 ● 人の語る所は  
 半分は眞實なりとの意。  
 はなし(放)接尾 動詞に添へて其まゝになし置  
 く意を表す語。「書き―」「さうだんづく。  
 はなしあひひ(話合)名 ● はなしあふこと。談合  
 はなしあひひ(話相手)名 ● はなしの相  
 手。こぼがたき。相談人。  
 はなしあふ(話合)自動ハ四 ● 互に話す。  
 相談す。● かつらふ。共謀す。商議す。  
 はなしか(咄家)名 ● 席亭にて滑稽談又は人  
 情話などをする職業の人。落語家。  
 はなしがき(放書)名 ● はながきに同じ。  
 はなしがひ(行)話甲斐名 ● いひがひ。話の

ききめ。  
 はなしがひ(行)放飼名 ● 野がひ。● 放生  
 はなしがめ(放龜)名 ● はなちがす龜。はなし  
 がひの龜。  
 はなしくせ(話辭)名 ● はなしかたのくせ。  
 はなしくち(話口)名 ● はなしの模様。● はな  
 しのくち。● はなしの底意。話頭。話意。  
 はなしじやうす(話上手)名 ● 話を巧に  
 すること。又其人。能辯。  
 はなしずき(話好)名 ● 人と話することを好むと  
 すること。又其人。能辯。  
 はなしづく(話盡)名 ● 十分に話合ふこと。一  
 できまる。  
 はなしづめのまつり(鎮花祭)名 ● 古昔、  
 陰曆三月に神祇官にて行はれし祭事。春花  
 の散る頃は疫神散して病を行ふにより、これ  
 を鎮めんとての祭なり。はなしづめ。  
 はなしして(話手)名 ● 話を巧に  
 する人。「慰むるもの。  
 はなしとぎ(話伽)名 ● 話相手をしてその人を  
 はなしどり(放鳥)名 ● 死者の冥福を祈るため  
 に捕へたる鳥を放ちやると。はなしどり。放生  
 はなしね(花稻)名 ● 古昔紙に米を包みて木  
 の枝につけ幣の如くにして神に奉りしもの。  
 はなしべ(花葉)名 ● しべ。くわすぬ。  
 はなしほ(花鹽)名 ● 種々の花形に製したる  
 燒鹽。播磨國赤穂の名産とす。印鹽。  
 はなしやうぶ(花葉蒲)名 ● 花葉共に

かきつばたに似たる草。夏の半に花開く。品  
 類多く觀賞用として栽培せらる。  
 はなしゆんさい(花蓴菜)名 ● 蓴菜。あざに同  
 はなしる(鼻汁)名 ● はなみづ。はな。液。  
 はなしろ(鼻白)名 ● 動)ぶりの成長第一  
 期の稱。● 禽獸の鼻端の白きこと。  
 はなしろむ(白鼻)自動マ四 ● 臆したる顔色  
 をなす。一人々は皆臆しがちに―める多かり。  
 はなす(離)他動サ四 ● 着きたるを解き分く。わ  
 かつ。● 割き開く。さく。● 隔て、遠くにやる。  
 とほざく。● 除き去る。さる。● 行くにまか  
 す。放ちやる。「鳥を―」  
 はなす(話談)他動サ四 ● 語る。言ふ。告ぐ。●  
 互にかたりあふ。かたらふ。  
 はなすげ(花管)名 ● 薄の穂の出でたるも  
 はなすき(花薄)名 ● 薄の穂の出でたるも  
 の。● かねの色目。表は白くして裏のうす  
 はなだ色なるもの。  
 はなすすり(薄吸)名 ● 薄をすりながら泣くと  
 はなすち(鼻筋)名 ● 鼻の梁骨の眉間より鼻尖  
 まで互るもの。はなぐき。「―がとはる」鼻梁。  
 はなすハウ(花蘇芳)名 ● 葉は圓形にし  
 て花紫なり。蝶形の花冠をなし果實は平たき  
 莢を結びて垂る。内に扁平なる種子を藏す。  
 觀賞用として栽培せらる。  
 はなすまふ(花相撲)名 ● 年に二度東京に  
 て興行する本場所の相撲に對して、普通各

地にて興行する相撲の稱。  
 はなすり(花摺)名 ● 萩又は露草の花を摺り  
 つけて衣にその色を染むること。  
 ーころも(一衣)名 ● 花すりしたる衣。  
 はなせきしやう(花石莖)名 ● いはゞ  
 きしやうに同じ。  
 はなせん(花氈)名 ● はなもうせんに同じ。  
 はなせる(話)自動サ下 ● 話相手とするに足る  
 はなぞの(花園)名 ● 花の咲く草木を植込みた  
 る園。花卉を培養する庭。はなばたけ。  
 (はなぞのてんわう)● 花園天皇第九十  
 五代の天皇。御名は富仁。在位十三年。壽五  
 十三。  
 はなぞめ(花染)名 ● 露草の花にて染めたる染色  
 一ころも(一衣)名 ● 花染の衣。  
 はなだ(縹)名 ● はなだいろの略。● 重衣の  
 色目。表も裏もはなだ色なるもの。  
 はなだいろ(縹色)名 ● 藍色の薄きもの。こき  
 そらいろ。花色。  
 はなだか(鼻高)名 ● 鼻の高きこと。隆準。●  
 僧侶の履く一種の沓。びかう。● 天狗の  
 異稱。  
 はなたかし(高鼻)形 ● 自慢す。得意なり。  
 はなたかだか(鼻高高)副 ● 甚だ得意ら  
 しく。高慢らしく。  
 はなだか(鼻高)副 ● 得たり顔に。自慢らし  
 はなたかめん(鼻高面)名 ● 天狗の假面。

はなだぐさ(縹草)名 ● 露草の異稱。  
 はなたたき(鼻叩)名 ● 化粧の時、鼻の上の白  
 粉を滑かにするに用ゐる小さきまゆはき。  
 はなたちばな(花橘)名 ● 古くは橘を、其の花  
 を賞するよりいふ。● 夏蜜柑の一種。● 花  
 さねの色目。表朽葉色にて裏の青色なるもの  
 はなだつ(花立)自動タ四 ● 花開く。  
 はなたて(花立)名 ● 佛前又は墓前などに供ふ  
 る花籠などを立つる筒。  
 はなたらし(渡垂)名 ● よくはなしるを垂  
 らす人。● 女房などに甘くして意地なき人を  
 嘲りての稱。  
 はなたる(渡垂)自動ラ四 ● はなしる流れ出  
 はなたれ(渡垂)名 ● はなたらしに同じ。  
 はなぢ(鼻血)名 ● 鼻腔より出づる血。衄血。  
 はなぢあく(放)上 ● 他動カ下 ● 聲をはりあく。  
 はなぢいて(放出)名 ● 古昔の家の作りかた、  
 屋の棟の母屋よりひきはなちて造りだしたる  
 ところ。  
 はなちうま(放馬)名 ● 野邊などに放飼にする  
 馬。又つなぎおかざる馬。  
 はなちがき(放書)名 ● 文字を一字づつ、はなし  
 はなちがひ(行)放飼名 ● はなしがひに同じ。  
 はなちごま(放馬)名 ● はなちうまに同じ。  
 はなちじやう(放狀)名 ● 古莊園などを他  
 人に譲り與ふるときに其由を記して渡したる  
 狀。ゆづりじやう。

はなちて(放出)名 ● はなちいてに同じ。  
 はなちどり(放鳥)名 ● 水鳥の翅など切りて  
 水の上に放ち飼ふもの。● 籠に捕へ置きたる  
 鳥を放ちやるもの。はなしどり。  
 はなちのかみ(放髪)名 ● ふりわけがみ。  
 たれがみ。  
 はなつ(放)他動タ四 ● 二つに別つ。はなす。  
 ● 解きはなす。ゆるしてやる。● 追放す。流  
 罪に行ふ。「筑紫へ―たれおはせしに調。● 發  
 射する。うつ。飛ばす。「矢を―」● 出だす。  
 おこす。發す。「光を―」● 火を掛く。  
 家などに火をつく。「火を―て焼く」  
 はなつ(除)他動タ四 ● とりのく。のぞく。のけ物と  
 はなつき(鼻衝)名 ● 雙方はたと出會ふこと。  
 であひがしら。「殿下の出御に―に參り合  
 ふ」● へだたり少きこと。距離の近きこと。  
 はなつく(鼻衝)自動カ四 ● 主人より遠ざけ  
 らる。勘當せらる。  
 はなつくり(花作)名 ● 花卉を培養すること  
 を業とする人。うみきや。花師。● 造花を業  
 とする人。造花師。  
 はなづく(花机)名 ● 佛前に經・佛具など  
 を載せ置く机にて、脚に花形の彫刻あるもの。  
 ● 花籠を載する机。  
 はなづつ(花筒)名 ● 花いけに用ゐる筒。  
 はなづな(鼻綱)名 ● 牛の鼻にかくる綱。牛鼻。  
 はなづの(鼻角)名 ● 犀の鼻の上にある角。

はなつづれ(鼻潰)名鼻の低くひらたきこと。  
 はなづま(花妻)名花を親しみていふ稱。  
 花の妻。例へば鹿に對する萩の如く、常に其ものに連れ添ひたる花。  
 はなつまみ(鼻摘)名他人に思ひいれしまるはなつみ(花摘)名花をつみとること。  
 はなづら(牛麩)名鼻連の義はなづな。はなは。鼻繩。鼻綱。  
 はなづら(鼻面)名鼻の端。はなさき。  
 はなどき(花時)名花の咲く時即ち三月の頃花のさかり。  
 はなどり(花鳥)名花にやどる鳥。  
 パナナ(Banana)名熱帯地方に産する芭蕉の實。夏季水菓子として賞翫せらる。  
 はななてしこ(花撫子)名かざねの色目。表は紫にして裏紅なるもの。  
 はななは(鼻繩)名牛の鼻に懸くる繩。はななねぢり(鼻捻)名荒れ馬などを制するためはその鼻をねぢる用具。  
 はな(花野)名花の咲ける野邊。  
 はなは(山)名山の差し出でたる所。又、土地の小高きよりあがれるところ。  
 はなは(鼻)名鼻のつけ。鼻保己(一)武藏の人通稱は辰之輔、水母子と號す。七歳にして明を失ひ、絃歌、鍼法を學びて成らず。古典に志し名漸く著はれて和學講談所に用ゐられ、總檢校に補せらる。文政四年歿。年七十六。其編

する所、羣書類從、武家名目抄等の大著ありはなはら(坊鼻)名戯れに己を自讃しての稱。このはなさき。花坊。  
 はなはかま(花苞)名くわはうに同じ。  
 はなはさみ(花鉢)名植物の枝をきるに用ふるはさみ。  
 はなはしら(鼻柱)名鼻の孔の間を隔つる肉。  
 はなはた(甚)副多く度を過ぐして。いたく。いみじく。大いに。いと。太。孔。だけ。  
 はなはたけ(花鳥)名草花を多く植ゑ作るはなはたし(甚)形二いと度を超えたり。過度に大なり。非常なり。いみじ。げし。太。  
 はなはなし(華華)形二いとはなやかなり。いと立派なり。いとみことなり。  
 はなはな(華華)名副りつげに。はなやはなび(花火)名種々の火薬を調合して、張筒又は竹管などに装填し、火を點じて空中に放ち、種々の光又は形を現出するもの。煙火。  
 せんかう(線香)名種々の火薬を調合して薬しへに附け又はこよりにより込みたるもの。火を點じて種々の光を發せしめて小兒の翫とす。せんかうはなび。  
 はなは(鼻)名鼻の勢なれど間もなく冷却して厭き易き性質の人。  
 はなひし(花菱)名紋所の名。菱形の周圍を花菱の如くに描きたるもの。  
 はなひしげ(鼻拉)名はなつづれ。

はなひせ(鼻塞)名鼻液の久しく通ぜずして鼻の塞がる病。  
 はなびら(花餅)名くわへんに同じ。  
 ーもち(餅)名花餅の如き形に造りたる餅。  
 ーゆき(雪)名花餅の如き形の雪。  
 はなひる(鼻)自動ハ上。くさめをなす。  
 はなふき(鼻拭)名鼻をふく小きき布。  
 はなぶくろ(花袋)名にほひぶくろの古名。  
 はなぶさ(花房)名種。蓼に同じ。花のふさになりて咲くもの。藤の。英。  
 はなぶさがり(鼻塞)名鼻の孔のふさがると。パナマ(Panama)名種。熱帯植物。莖短く葉は長き葉柄を有し、掌狀に開きて棕櫚に似たり。その嫩葉を以て帽子を製す。一帽。  
 はなまじろく(自動カ四)鼻をうごめかす。  
 表面には人に遠從しながら、内心にてあざわらふ。  
 はなみ(花見)名花をみて樂み遊ぶこと。花を賞すること。特に櫻の花見。観花。  
 ーぐさ(草)名種。冬菊の異名。  
 ーざけ(酒)名花を見ながら飲む酒。  
 ーじま(摘)名こよみ。梅の花などを畫きたる衣服の模様。  
 ーじらみ(蟲)名春。櫻花の咲く頃、衣服の表などに這ひ出でたる蟲。  
 ーづき(月)名陰曆三月の異稱。或花を見る月。牡丹の。

ーどき(時)名春に花見をする時節。  
 ーどり(鳥)名動。鶯の異名。  
 ーぶね(船)名岸上の花をながめんとて水の上に浮ぶる船。  
 はなみ(商立)名商のならび。  
 はなみ(葉立)名葉のそろふさま。はならび。はぶり。茶の。みたるところ。人中。  
 はなみぞ(鼻溝)名鼻の下、上唇の中央の窪。  
 はなみだう(花御堂)名佛。灌佛會の時、釋尊の誕生像を安置するため、種々の草花にて莊嚴にせる小堂。  
 はなみち(鼻道)名はなすぢ。鼻梁。  
 はなみち(花道)名芝居にて、俳優が舞臺に出づるために舞臺より斜に設けたる長細き板張の道。  
 はなみづ(鼻涕)名はなしる。はな。涕。  
 はなみね(鼻梁)名馬のはなぐき。  
 はなむけ(鼻向)名鼻を其方に向くこと。其臭氣を受くるに。もならぬ。  
 はなむけ(餞)名馬のはなむけの略。古昔、旅立つ人を送り、其馬の鼻へ向けて物を贈ること。轉じて、旅立つ人に贈る品物又は詩歌の類。たむけ。餞別。贈。  
 はなむこ(花婿)名結婚當時に其婿をよびていふ稱。にひむこ。新郎。なご。花婿。  
 はなむしろ(花筵)名花形のあるむしろ。はなむすび(花結)名花を束ねくこと。

はなむすめ(花娘)名容貌美しき年わかめの女。  
 はなめく(華)自動カ四。はなやかに見ゆ。時めく。其頃、時に過ひ。かせ給ふ后。  
 はなもうせん(花毛氈)名模様のある毛氈。  
 はなもち(鼻持)名鼻氣を我慢すること。  
 はなもつやく(花没藥)名一種の繪具。熱帯地方に産する樹の蟲よりのもの。圓き木を二つに割りたるが如き形をなす。新しき時は褐色にして後には黄色に變ず。紫銅。  
 はなもとゆひ(花元結)名うつくしく彩色したるもとゆひ。  
 はなもみぢ(花紅葉)名花と紅葉と。  
 はなもやう(花模様)名花の模様。うつくしき模様。  
 はなもり(花守)名花の番人。花を守る者。  
 はなや(花屋)名花を賣る家。又は其人。  
 はなやか(華)名うるはしき。はなばなしき。はなやぐ(華)自動カ四。はなやかに。はなはなしくなる。今めかしく。給へど。  
 はなやくしや(花役者)名當時はやりの俳優。其社會の中心となりて活動する人。  
 はなやしき(花屋敷)名多く草木の花を培養して人の來觀に供する園。  
 はなやなぎ(花柳)名重衣の色目。表は白にして裏の青なるもの。  
 はなやまぶき(花山吹)名重衣の色目。表は淡朽葉色にして裏の黄色なるもの。

はなよめ(花嫁)名結婚當時に其嫁を呼びていふ稱。花嫁。新婦。新娘。  
 はなよめ(花嫁御)名前に同じ。  
 はなり(垂髪)名ふりわけがみ。ふりわけがみにせる女兒。  
 はなる(離)自動ラ下ニラ四。着きたるもの解け分る。欄。隔たり遠ざかる。一れて居る。別れ去る。國を。つなぎ解く。遶る。  
 馬(官職解)役に。はなしき。  
 はなれ(離)名はなること。距離。はなれはなれ(離岩)名水中に孤立する岩。  
 はなれうま(離馬)名繋ぎたる所よりはなれて走る馬。逸馬。  
 はなれきたなし(離機)形。未練多く離れにくく思ふ。金錢を手はなすことを嫌ふ。はなれごま(放駒)名はなれうま。はし。はなれざしき(離座敷)名母屋より離れて別に建てたる小座敷。はなれや。はなれ。子亭。孤亭。  
 はなれじま(離島)名陸地を遠くはなれたる島。  
 はなれぞ(離洲)名陸地より遠くはなれたる洲。  
 はなれにくし(離惡)形。はなるにつらし。  
 はなれや(離家)名一人里離れたる家。ひとつや。孤家。はなれざしき。子亭。  
 はなれわざ(離技)名かけはなれたる技藝。宙乗などの如きもの。非凡なるわざ。警技。

はな

はなわ(花環)名種々の生花又は造花にて環状につくりたるもの。歓迎又は用意を表するたに呈す。

はに

はに(馬肉)名うまの肉。



はぬ

はぬ(撥)他動サ四。飛はしらす。はぬるやうはぬかづら(花籃)名。はなかつらに同じ。

はな

はな(撥)名文字を書くに筆の毛の末端を拂ひ上ぐる。又筆を拂ひ上げて書くべき文字の部分。勾。撃。

はな

はな(撥)名諸器械に用ゐる弾力ある。かね。網織或は真鍮などを螺旋状に巻き或は彎曲せしめて弾性を貯へしむ。

はな

はな(撥)名。荷物の中よりえり出たの毛きたるもの。難船などの場合に船の重量を減ずるために海中に投げ捨てる。



はひまはる(ひまはる)「這廻」自動ラ四 あちこちをはひまはる(ひまはる)「灰水」名あくみづ。あく。  
 はひも(ひも)「偽符」名竹の根の傍に出で、竹の状をなすもの。  
 はひもとほる(はひもとほる)「這廻」自動ラ四 はひめぐる。はひまはる。「の内」  
 はひり(ひり)「這入」名門と玄關との間の庭。門はひる(ひり)「這入」自動ラ四 いるに同じ。  
 はひろ(ひろ)「葉廣」名葉のひろきこと。「一柏」  
 はひわたる(ひわたる)「這互」自動ラ四 はひひろがる。はひこる。  
 はふ(覇府)名將軍の政をとる役所。幕府。  
 一のち(一)「地」名武家將軍のある地。  
 はふ(破風)名屋根の切妻を側面より見る時屋根の兩方に、山形をなしたる所。棟風。  
 はふ(法)名「のり」法則。おきて。制度。  
 ①みち。道理。②制裁。刑罰。③てほん。模範。④作法。禮義。⑤方法。手段。⑥割算にて貨を割る數の稱。  
 はふ(這)「這」自動ラ四 手足を地につけて行く。又體を地につけて行く。はらはら。匍匐す。①物のひはひこる。蔓延す。「綱引き」  
 はふ(飯匙)名動「蛇」の一種。頭飯七の如く全身灰褐色にして黒紋あり。長さ五六尺に及び劇毒を有す。大島琉球等に産す。波布。

はぶ(馬夫)名「うまかひ。まこ」。  
 はふあん(法家)名「法律の案文」。  
 はふか(法家)名「法律を修むるもの。又法律に通ずる人」。「韓非子等の唱へし學派」  
 はふが(法術)名「司法の官術。即ち裁判所はふがく(法學)名「政治法律經濟の原理を研究する學問」。  
 はぶかる(省)「自動ラ四」とりへらさる。減せらる。  
 はぶき(法規)名「法律規則」。「人民の權利義務を規定せるもの」。  
 はぶく(羽振)「自動ラ四」羽をうち振ふ。はたたくはぶく(省)「自動ラ四」除去す。のぞく。減す。①簡約す。つづむ。  
 はぶくら(剃刀)名「彫刻師の用ゐる小刀」。  
 はぶくわ(法貨)名「國法上強制的に通用せしむる貨幣」。  
 はぶぐわい(法外)名「法度にはづれたること。道理にそむきたること。分に越ゆること。過分」。  
 はぶくわん(法官)名「司法の官吏。裁判官」  
 はぶけん(法憲)名「のり」おきて。  
 はぶこ(這子)名「這へる小兒のさまに製しはぶさ(羽織)名「這へる」。「たる玩具」  
 はぶさう(法曹)名「司法官。又法律家」。  
 はぶし(羽節)名「はぐき。鳥の羽の莖」。  
 一ざけ(一)「酒」名「雉子の羽節の肉と、鹽とを

混じて造れる酒」。「法則。形式」  
 はぶしき(法式)名「法度」のり。おきて。  
 はぶじん(法人)名「法」自然にあらすして法律の規定により、權利義務の主體たらしむるものを云ふ。市町村。商會社等にして社團法人と財團法人との別あり。  
 はぶしやう(法相)名「司法大臣の異稱」。  
 はぶじゆつ(法術)名「てだて。しかた」。  
 ①法學の應用。  
 はぶせい(法制)名「法律制度。即ち國家を統治する規則」。「法制經濟の學問」。  
 一きよく(一局)名「内閣總理大臣の命によりて法律命令案を起草し、又は其の新制改正廢止等につきて意見を具申し、又各省大臣より閣議に提出する法令案を審調し、又は修訂の上上申し、又内閣總理大臣の諮詢に就き意見を具陳する所」。  
 はぶそく(法則)名「原因結果の規定」のりおきて。「ある絹布」  
 はぶた(羽二重)名「薄く滑かたにして光澤」  
 一はだ(一肌)名「きめ細やかにして白き肌」  
 はぶち(法治)名「豫め標準とすべき法律命令を設定し、之によりてすべての政治を施行すること」。  
 一こく(一國)名「法治制度を施行する國」。  
 はぶづくり(破風作)名「家の方作。棟を山形に造りて左右に破風を設けたる屋根」。

はふてい(法廷)名「法官が審問裁決をなす一定の場所。故に豫審判事が犯所に出張したるとき、又は裁判所内にも、法務を開始せざるときは、勿論法廷と云はざるものとす」。  
 はふてい(法定)名「法令によりて規定せられたること」。「れたる價格」  
 一かかく(一價格)名「法令によりて規定せられたること」。「果實」名「送物の使用の對價として受くべき金錢又は其他のもの。例へば利息の如き是なり」。「同じ」  
 一くわへい(一貨幣)名「はふくわ法貨」に「さいさんせい」(一財産制)名「送。夫婦間に於ける財産上の關係を規定せる制度」。  
 一だいにん(一代理人)名「送。特別に委任を受けずとも、法律上當然に代理關係ある人。未成年者の後見人の如し」。  
 一りそく(一利息)名「法定利率による利息」  
 一りりつ(一利率)名「法律にて規定したる利息の元金に對する割合」。  
 はふてう(法條)名「のり」おきて。規則。  
 ①法律の條文。「したる手本」  
 はふてふ(法帖)名「古人の筆跡を石摺に」  
 はふてん(法典)名「同一性質と認むべき規則を出來得るだけ蒐集して一の法律と成したるもの」。「のり」おきて。  
 はぶど(法度)名「のり」おきて。  
 はぶに(白粉)名「おしろい」。

はふはふ(這這)名「副。辛うじて逃げ行くさまに」。「語」  
 一のてい(一體)名「辛うじて這ふ如く逃げゆく状態」。「法服」名「規定の衣服」。「判事檢事、又は辯護士が法廷にて着用すべき制服」  
 はふふん(法文)名「法令の文章」  
 はふまう(法網)名「法律が犯罪者を免れさせしむる網にたとへ云ふ」。  
 はふむ(法務)名「法律上の事務」。  
 一きよく(一局)名「軍事上の司法。監獄特赦等の事項を掌る陸軍省の一局」。  
 はふん(馬糞)名「うまのくそ。まぐそ」。  
 一し(一紙)名「塵などある下等なる唐紙」。  
 ①薬をもつて製したる一種の紙。黄色にして厚く質粗なり。書籍の表紙。紙箱などに用ゐらる。ボール紙。  
 はふらかす(放)「自動ラ四」うちやる。すはふらす(放)「自動ラ四」前に同じ。  
 はふり(祝部)名「かんなぎ。かんぬし」。  
 はふり(葬)名「はうむり。葬送」。  
 はふり(法理)名「法律の理論。法律規則の全般に通ずるものにして自然に存する原理」。  
 はふり(法吏)名「法律を執行する官吏」。  
 はふり(羽振)名「鳥のはたきすること」。「人の世にたつ勢力。權勢」。「がより」  
 はふりこ(祝子)名「はふり」。

はふりだす(放出)「自動ラ四」なげだす。うちすつ。①勢あらく出す。  
 はふりつ(法律)名「國民の遵守すべき法律」。「帝國議會の協賛を経たる法規」。  
 一あん(一案)名「法律の草案」。「する人」  
 一か(一家)名「法律を修むる人。又、法律に通一かうる(一行爲)名「私法上の効果を生ぜしめんとする意思表示。之に關する規則は民法の規定する所なり」。  
 一がくしや(一學者)名「法律家に同じ」  
 一くわんけい(一關係)名「法律上に於ける人と人と若しくは人と物との關係」。  
 一や(一屋)名「法律家をのしりて云ふ語」。  
 はふりと(祝女)名「はふりに同じ」。  
 はふりめ(祝女)名「かんなぎ。みこ」。「稱」  
 はふりもの(葬具)名「葬式に用ゐる具の總」  
 はふりよく(法力)名「法の威力。法の效力」  
 はふる(放)「自動ラ四」なげやる。なげとばす。①うちすつ。  
 はふる(葬)「自動ラ四」死骸を野邊に送りて土中に埋む。はうむり。  
 はふる(放)「自動ラ四」はなちやる。はなち散らす。①自動ラ下二②散り亂る。③さまよふ。うろつく。  
 はふる(羽振)「自動ラ四」はぶくに同じ。①うこく。ゆらめく。  
 はふれい(法令)名「法律と命令と」。



はん(半)名 ●なにかば、半分。①二にて割り切れる数。奇数。丁の對。

はん(飯)名 ●めし。いひ。「夕一」

はん(反)名 ●うちはら。反對。②そむくこと。

むはん。③漢字の一字の聲と一字の韻と相合して第三の音を出すこと。例へば壁の音へきは必歴の反なるが如し。

はん(繁)名 ●しげきこと。おほきこと。「簡より」にはん(類)名 ●わづらはしきこと。「一雜」●もだゆること。「一悶」

はん(斑)名 ●マダラ。ぶち。「一紋」

はん(班)名 ●ついで。次序。●くらゐ。階位。●れつ。くみ。「一國事」

はん(犯) ●接尾 罪名の下に添へ附くる語。「強盗はん(犯)接尾 或語に添へて事又は時の意に用ゐる語。「今」「先」

はん(盤)名 ●さら。ハチ。ぼん。物を盛る器。木或は錫銅にて之を作る。●浴器。●「沐浴」

五「一」だ。い。つく。●「將棋盤」又は碁盤の略稱。

ばん(晩)名 ●ゆふべ。ひぐれ。暮。夜。「昨」

ばん(鴈) ●五動 大鴈と小鴈との總稱。

ばん(列) ●名 紙などの廣さ。「大」「小」

ばん(萬)名 ●千の十倍。まん。●よろづ。又多くの物。

はん(番) ●接尾 或語に冠して粗末なる意を表す

ばん(番) ●接尾 順序等級を表すに云ふ語。「一」

「一二」●組合取組等を數ふるに云ふ語。

「相撲三」「鞍馬十」

はん(かうけい) ●「伴萬葉」名は實芳。近江の國學者。文化三年歿。年七十四。著書多し

はん(麵麴) ●小麥粉に麥芽を加へ水にこれ合せて蒸焼したる食料。「すること。博愛。」

はん(あゐ) ●「汎愛」名 誰彼の差別なくひろく愛はん(あゐ) ●「煩悞」名 悶え悩む。心のもたえわづらふこと。

はん(い) ●「犯意」名 はじめより故意に罪を犯さんはん(い) ●「瘰癧」名 ききす。きす。あ。と。

はん(い) ●「鬪友」名 普通 一般の交際をなす友はん(い) ●「盤遊」名 樂み遊ぶこと。般遊。

はん(い) ●「地盤」名 もたえられふこと。甚だ心配する。と。

はん(いう) ●「一引」名 天地間に存在するありと「一引りよく」「一引力」名 物理の互に相引き合ふ力。其力は各質量の相乗積に比例し二者の距離の自乗に逆比例す。宇宙引力。しんけん(伸縮) ●「一神教」名 萬有は絶対唯一なる實在の顯現にして其以外には何物も存在せず即ち神と萬有と同一體なりと説く教義。

はん(い) ●「半意識」名 現在に於ては認識せられざれど將來に於て意識の現象に入り來るべき意識の内容。

はん(いち) ●「萬一」名 萬分の一。わづか。いささか。●「殆どなくして稀にあること。」

はん(いち) ●「萬一」名 一。ひよ。と。

はん(い) ●「汎溢」名 水のみならずあふること。

はん(い) ●「一萬」名 ばんいちに同じ。

はん(いぬ) ●「番犬」名 夜番する犬。

はん(いん) ●「陰影」名 不透明體が一部を遮る他の一部に光線を透らざる爲めに生じたる薄明き陰影。

はん(いん) ●「陰影」名 ふたなり。はん(いん) ●「陰影」名 ふたなり。はん(いん) ●「陰影」名 山などの曲がりめぐると。はん(いん) ●「陰影」名 山などの曲がりめぐると。

はん(いん) ●「一邪」名 ●「のさつぱりせぬこと。」

はん(うつ) ●「煩鬱」名 心のわづらひふさぐこと。心はん(えい) ●「反映」名 うつりあふこと。てりあふこと。

はん(えい) ●「繁榮」名 さかゆること。はんじやうはん(えい) ●「反影」名 反映したる影。

はん(えい) ●「半永久」名 稍永き年月。

はん(えい) ●「築城」名 稍長き年月の間に於るために假に城を築くこと。

はん(えん) ●「繁衍」名 しげりあふること。蕃衍。繁殖。茂殖。

はん(えん) ●「煩厭」名 いとひきらふこと。わづらひはん(えん) ●「絆縁」名 きづなとなる因縁。

はん(えん) ●「攀縁」名 よちたどること。

はん(けい) ●「一莖」名 葡萄の莖の如く卷鬚を以て他物に攀縁し又は鳥の莖の如く不定根によりて物に攀縁するもの稱。

はん(えり) ●「半襟」名 襦袢・扇着又は婦人の常服などの襟の上に更に縫ひつける布帛。

はん(おう) ●「反應」名 ●うらぎり。内應。●或作用を施したる結果としての現象。化學上の「しうた」。

はん(か) ●「反歌」名 長歌に添へたる短歌。かへはん(か) ●「煩苛」名 煩はしくからきこと。又うるさきこと。「政令」

はん(か) ●「半價」名 定價の半分。はんね。半値段はん(か) ●「半可」名 なま。未熟。

「一つ」 ●「一通」名 なまなかに物に通じたる人。なまものじり。

ばん(か) ●「晩夏」名 ●夏の末。●陰曆六月の異ばん(か) ●「晩霞」名 ゆふやけ。ゆふばえ。

ばん(か) ●「挽歌」名 ●柩を挽くときに詠ふ歌。野邊のおくりの歌。●哀悼の意をあらはす詩歌。

はん(かい) ●「半開」名 ●花のなほひらくこと。はん(かい) ●「半開」名 ●國家が未開の域を脱して未だ開化の域に達せざること。はん(かい) ●「半開」名 ●出版して世に行ふこと。刊行。●轉じて版木又印形。

「や」 ●「一屋」名 版木又は印形をほることを業とする人又は店。

はん(かう) ●「頒行」名 分配すること。わかつこと。頒布すること。

はん(かう) ●「反抗」名 てむかふこと。はりあふこと。はん(かう) ●「犯行」名 犯罪の行爲。

はん(かう) ●「三伴行」名 ●ともなひゆくこと。つれゆくこと。●他のものにつれて行はること。

はん(かう) ●「半髮」名 (はん)かみの音便髪を半は剃れること。

ばん(かう) ●「三變行」名 野蠻なるおこなひ。ばん(かう) ●「三萬考」名 さまじく「に考ふること。ちちにおもひやくこと。

ばん(かう) ●「三番號」名 順ばんのしるし。順番の名目。順序のしるし。

はん(かがみ) ●「判鑑」名 いんかん(印鑑)と同じはん(かがみ) ●「半額」名 全額の半分。半分の高。

「定價の」にて賣却す

はん(かく) ●「板額」名 容貌の美しからぬ女を嘲ばん(かく) ●「萬客」名 多くの客。「むること。」

はん(かく) ●「晩學」名 年たけて、おそく學問を開始はん(かく) ●「半影」名 物理 物體が光に照らさる時、其後に投ずる影の中周圍の少し明き部

はん(がさ) ●「番傘」名 粗末なる雨傘。「分。」

はん(がしら) ●「番頭」名 武家の一隊の番士の長はん(がしら) ●「晩方」名 くれがた。ゆふがた。夕ぐれ。

ばん(かぢ) ●「番鍛冶」名 昔諸國より京都に勤番ハンカチーフ (Handkerchief) 名 西洋風の手ふき。方形なるもの。ハンケチ。

はん(ガッパ) ●「半合羽」名 丈短き合羽。正徳享保の頃より用ゐたるもの。

ばん(がはり) ●「三番代」名 かはりばん。交代

はん(かん) ●「繁詞」名 繁雜なると簡單なること。

はん(かん) ●「反回」名 ●敵の間者を利用して我が問者として敵をはかることをいふ。孫子「一者因三敵一而用之」●「浮言を言ひふらしなとして敵同士をして互に疑心を起さしむること。離間策。」

はん(かん) ●「藩翰」名 はんべい藩屏に同じ。

はん(かん) ●「繁閑」名 いそがしきとひまなると。

はん(かん) ●「犯意」名 法をおかすこと。

はん(かん) ●「半眼」名 眼を半分開きたること。

はん(かん) ●「繁閑」名 風采の粗野なること。言動の田舎じみたこと。ハイカラの對。

はん(かわき) ●「半乾」名 まだよくかわかぬこと。なまかわき。はんび。

はん(き) ●「反旗」名 むほんのはた。叛亂を起しを翻す。句むほんをなすにいふ。

はん(き) ●「半期」名 一箇年の半分。はんとし。

はん(き) ●「飯器」名 飯を盛る器。めしびつ。

はん(き) ●「半旗」名 用意を表するために竿頭よりさげて國旗をかかざるはた。

はん(き) ●「版木」名 文字圖畫などを彫刻せる板墨又は繪具をぬりて紙に押す。材は我國にては山櫻、黃楊、支那にては梨、栗などを用ゐる。かたぎ。ありいた。印板。刻板。版。

「し」 ●「一師」名 版木をほるを業とする人。







はん

はんじやく(磐石)名磐は大石をいひ、又山石の安くして動かざるをいふ。故に大石の義に用ゐる。又堅固不動なる意にも用ゐる。

はんじゆ(藩主)名藩の領主。大名。はんじゆ(藩儒)名大名に聘せられて其の藩の子弟などを教ふる儒者。

はんじゆ(判授)名古、所屬長官の判断にて位を授けしこと。即ち八位以下の位にいふ。はんじゆ(晩種)名おそくたねまきすること。

はんじゆ(萬壽)名壽命をことぶきていふ語。いのちながきこと。詩經「無期」。はんじゆ(支那)名支那の天子の誕生日。

はんじゆ(半助)名五十錢の異稱。はんじゆ(版摺)名版木を紙にすりとりて。又其工人。印刷工。

はんじゆ(半睡)名なかはねむること。はんねはんせい(半醒)名なかはねむり、なかはさめたること。うつら／＼してあること。

はんず(伴隨)名つきしたがふこと。はんず(晩炊)名夕方飯をかしぐこと。

はんせい(反省)名我が身の行爲心術等をかへりみる。自己の内界の諸作用に關する經驗。

はんせい(繁盛)名にきはひさかゆること。はんせい(反噬)名窮追せられてかへつてかみつくこと。

はんせい(晩成)名おそくできあがること。はんせい(萬世)名よろづよ。萬代。

はんせい(功)名永世不朽の功績。

はん

はん

はんじよ(鑑書)名書物をひもとくこと。書物の證據ある時、その反對にて前の證據を打ち消すに足るべき事實。

はんじよ(半鐘)名鐘の小なるもの。寺院陣中に用ゐ、又火災の合圖等にも用ゐる。

はんじよ(煩冗)名わづらはしくくだ／＼しはんじよ(煩鐘)名いりあひの鐘の聲。

はんじよ(萬乘)名天子の位の稱。五兵車萬乗を出だす。畿内方千里の地を領するに由りていふ。「一天」。

はんじよ(斑色)名マダラいろ。ぶちいはんじよ(煩縵)名しつこきこと。くどくどしき

はんせい(返照)名ゆふひ。ゆふひかげはんせい(榮耀)名よちまこと。

はんせい(煩擾)名わづらはしくいりみだること。

はんせい(藩根)名たらがらし。なんばーチンキ「丁義」名たらがらしの積分をとりてアルゴールに和したるもの。藥劑とす。

はんせい(版籍)名版圖と戶籍と。轉じて土地と人民と。

はんせい(藩籍)名籍は版籍にして土地及び一ほうくわん「奉還」名徳川氏が管轄せ

はんせい(不慮)名おもはずの災ひ。

はん

はん

はんじよ(晩食)名ゆふめし。又飯をおそく食ふこと。

はんじよ(伴食)名ともぐひ。さうばんじよ(徒)名みむさばり居るものをいふ。

はんじよ(蠻觸)名「莊子」に蝸牛の左角に蠻、右角に觸氏といふ國ありて相争ふといふ。寓言あるに出づ。小き量見より互に役に立たぬ事に争ひをなすもの。

はんじよ(半尻)名裾の短き袴。古、童の服はんじよ(半翅類)名「昆蟲類」の一目。口器は吻状をなし物にさし入れて汁を吸ふに適す。膜様の四翅を有するもあり又は全く缺如せるあり。害蟲多し。しらみ・せみ・うんかの類。

はんじよ(判繪)名ある意味を含めて判じ物はんじよ(反)自動サ変。「うらはらなり。反對す。官にそむく。謀叛す。かへりみる。反省す。はんず(判)他動サ変。みわく。判斷す。はんず(半數)名全數の半分。

はんず(反數)名數或數にて一を除したるもの。其對する稱。逆數。

はんず(反鏡)名名にがむこと。

はんせい(反古)名動もすに同じ。

はんせい(晩節)名晩年。老後。

はんせい(半錢)名一錢の半即ち五厘。

はんせい(盤旋)名旋りめぐること。はんせい(盤然)名剛あきらかに。さだかに。はんせい(翻然)名翻るがへる。心を改むはんせい(萬千)名數多きこと。又さま／＼なること。「氣象」。

はん

はんそ(反訴)名法。本訴の防禦方法として原告に對し本訴と相關連せる一の請求を本訴の繫屬せる裁判所に提出すること。  
 はんそ(藩祖)名大名の祖先。  
 はんう(伴僧)名佛。一法會の導師以外の諸僧をいふ。  
 はんそく(犯則)名規則を犯すこと。法にもと一しや(一者)名犯則せる人。  
 はんそく(反側)名(一)寐がへること。(二)表裏反覆して正直ならざること。約を違ふること。  
 はんそく(一子)名あちらにつきこちらにつき心の定まらざるもの。  
 はんそく(叛賊)名むほんにん。むほんしたるもの。  
 はんそく(一)を討平す。反賊。  
 はんそく(蕃賊)名自國に仇するえびす。  
 はんそく(蕃俗)名えびすのならはし。  
 はんそつ(萬卒)名多くの兵卒。一は得易く一將は得難し。  
 はんそつ(一番卒)名當番の兵。見張りの兵。  
 はんた(繁多)名事の繁きこと。用事多きこと。  
 はんた(煩多)名煩はしく多きこと。うるさきこと。  
 はんた(盤陀)名鉛と純錫との合金。蒼白色にして金屬をつぎ合はするに用ゐる。  
 はんた(徒)名罪人又は怪我人などを昇ぎ行く粗末なること。  
 はんたい(反對)名(一)うらはら。うらうへ。

「一の意見」(一)むかうに立つこと。さからふこと。  
 敵對。  
 はんどう(一)運動)名或るもの行動に(一)きふふ(一)給付)名法。當事者の一方が相手方の或給付をなすに對して給付をなすこと。買手が代金を拂ふに對して賣手が物品を渡すが如し。  
 はんせつ(一)説)名反對なる意見。  
 はんせん(一)船)名同一の航路に對し、二三の船が互に相反目して運賃を低減し乗客を引きつくることを競争すること。  
 はんぼうえきふう(一)貿易風)名地。貿易風の條を見よ。  
 はんたい(飯臺)名衆人並びて食事するに用はんたい(盤臺)名底淺くして廣き橢圓形のたらい。魚屋の用ゐるもの。  
 はんぼう(一)面)名扁平たくして醜顔を罵りていふ語。  
 はんたい(萬態)名さまざまのかたち。さまざまのはんたい(萬代)名よろづよ。萬年。永遠。  
 はんたい(一)不易)名永遠にかはらぬこと。永久不變。  
 はんたい(一番臺)名番人のすわりて見張りをすはんたい(一)半大夫節)名俗謡。江戸節の一。江戸半大夫の謡ひ出しのもの。貞享元祿の頃流行せり。  
 はんたう(一)半島)名海中に長く突出して

三面海に圍まれたる地。「伊豆」の役者。  
 はんたう(一)半道)名(一)半途。中途。(二)下等はんたう(一)晩稻)名おそくみの稻。おくてはんたう(一)半濁音)名文法。無聲なる唇的破裂音。即ちばぶ。べ。ぼの五音の稱。但し聲音學上よりいへば、たと同じく破裂音に屬すべきものなり。  
 はんたみ(一)半疊)名大さ一疊の半分なる疊。  
 はんたん(一)判斷)名對象の如何なる物事なるかを意識の作用によりて決定すること。さばまきむこと。考へかけて決むること。(一)物事の吉凶可否を考へ定むること。  
 はんたん(一)萬端)名よろづのこと。まかきこと。あらはんたらう(一)番太郎)名昔江戸市中の處々に設けたる木戸の番屋の番人の俗稱。  
 はんち(一)判知)名判斷して知ること。  
 はんち(一)藩治)名大名の知行所内の政治。  
 はんち(一)蕃地)名蕃人の住居する土地。  
 はんち(一)番地)名番號を追ひて住所地を區別したる稱呼。  
 はんち(一)範疇)名階級種類部屬などいふこと。(一)吾人が外物を認識して之を概念とする際必ず執らざるべからざる形式。即ち根本思惟の形式。  
 はんち(一)斑竹)名幹の表皮に斑文ある竹。  
 はんち(一)藩知事)名明治の初年藩籍を返上せし際専ら舊藩主をして一藩を統轄せし

めたるもの。  
 はんちん(藩鎮)名諸大名の其領地を鎮めはんちや(番茶)名下等なる茶。粗末なる茶。摘み残りのあらき葉にて製したるもの。  
 はんちやう(一)藩廳)名大名の領分の政務を取扱ふ所。  
 はんちやう(一)番長)名(一)近衛の舍人の長はんちゆう(藩中)名大名の家臣の中。  
 はんち(一)者)名(一)同藩のもの。(二)大名の家臣。  
 はんちよく(一)板直)名詩文の千篇一律にしてはんちけ(番附)名番號をかきつけて次第を分つこと。(一)芝居又は相撲の役割及取組祭禮の邊物の行列の次第等を順を追うてかき記したるもの。  
 はんてい(一)判定)名判斷してきむること。みわけはんてい(一)藩邸)名大名の屋敷。  
 はんてう(一)反跳)名はずみとひかへること。  
 はんてう(一)斑條)名マダラのすぢ。しま。  
 はんてう(一)晩潮)名夕方にさすうしほ。  
 はんてき(變的)名其様の野蠻らしきこと。粗野なること。粗豪なること。  
 はんてふ(一)半疊)名たたみ一疊の半分。  
 はんてん(一)斑點)名まばらに散在せる點。マダラ。  
 はんてん(一)半點)名(一)一點の半分。(二)すこしはうてん(半纏)名羽織に似て襟をかへさず

着る衣。半襟をかくるを普通とすれど又襟に白く文字を染め抜きたるもあり。労働者などの服。標半纏。  
 はんてん(一)着)名半纏をきる職業のもの即ち職ら。中空。  
 はんてん(一)半天)名(一)一天の半分。(二)なかぞら。中空。  
 はんてん(一)反轉)名(一)まがぶこと。(二)ひつくりか(一)のていり(一定理)名數二つの比が相等しければ其反比も亦等しいこと。  
 はんてん(一)班田)名古官府より一般公民に田地を給せしこと。我國にては孝徳天皇の代より男子は水田二段、女子は其三分二を給せられ六年毎に改めて收授せられたり。  
 はんて(一)番手桶)名雑巾をそぐなどに用ゐる雑用の手桶。  
 はん(一)版圖)名名籍および地圖。人民およびはん(一)半途)名(一)半分みち。なかば。途中。(一)爲す事の半分なること。中道。(一)にて止むはん(一)叛徒)名そむきたるともがら。むほんしたるものども。  
 はん(一)變奴)名(一)えびす。(二)めしつ。か。ひはん(一)反動)名(一)理。反射運動を起すこと。(一)あたりか。へし。ゆりかへし。原動強ければ(一)も亦強し。(二)すべて起動に對して起る動作の稱。  
 はん(一)力)名反動を起す力。「の異稱。はん(一)晩冬)名(一)冬の末。(二)陰曆十二月

はん(一)番頭)名(一)商家の召使のかしら。管店。(一)法。商業使用人の一。營業上或種類又は特定の事項を委任せらるるもの。手代に異らす。  
 はん(一)株)名やがて番頭となるべき商家はん(一)阪東)名くわんとうに同じ。  
 はん(一)斑銅)名(一)黄銅。黄銅鐵に伴生する銅鐵。赤色を帯びたる銅赤色を呈す。銅の原料として黄銅鐵に次ぎて主要なるものなり。  
 はん(一)半時)名(一)一時の半分。はんじ。  
 はん(一)判讀)名判斷して讀むこと。推考してよむこと。  
 はん(一)綴讀)名書をひもときてよむこと。  
 はん(一)半獨立)名半ば獨立の状態。  
 はん(一)國)名或國の一部分にして特に他國と通商條約を締結し若くは他國の領事を受容するを得る等の權利を有するもの。  
 はん(一)判取)名(一)同意者又は加入者などに其證として捺印せしむるため方々ありこと。(一)はん(一)ちやう)の略。  
 はん(一)帳)名金錢貨物などの請取印をとりおく商用の帳簿。  
 はん(一)半日)名(一)半日のドンタラの義。半日休なるよりふ。土曜日。  
 はん(一)Handel)名(一)把手。電車。自はん(一)半長靴)名長靴よりは短く半



はん

ハンマー〔Hammer〕名 鎚。かなづち。  
はんまい〔飯米〕名 食用に供する米。  
はんマンテル名 モーニングコートの俗稱  
はんみち〔半道〕名 一里の半分。一里の半  
分なる道のり。① 行程の半分。「み。衆民。  
ばんみん〔萬民〕名 よろづのため。おほくのた  
ばんみん〔蕃民〕名 えびすの民。未だ開けざる  
人民。  
はんむ〔繁務〕名 いそがしきつとめ。用事多き  
はんむ〔煩務〕名 おづらはしき務。「わかると。  
はんめい〔判明〕名 はつきりすると。あきらかに  
はんめい〔反命〕名 長上の使をなし返りて其  
願未を報告すると。返事を申上ると。復命。  
はんめい〔藩命〕名 藩主又は藩廳の命令。  
はんめう〔斑猫〕名 斑動。昆蟲。一對の觸角  
と三對の足を有し全身灰黒色にして赤色  
又は黒色の斑點あり。惡臭ありて劇毒を有す  
其死體を粉塵して發泡膏の主藥とす。  
はんめん〔半面〕名 兩面あるもの。一方のお  
もて。かたつら。一面。①の美人。②一部分。  
幾分。③の眞理。  
しき〔識〕名 (後漢の應奉が會て袁賀の  
許に至りし時車、匠あり扇戸をひらき半面を  
出して奉を見たり。後數年を経て奉途中にて  
其車匠を見識りて聲をかけたなりといふ故事に  
出づ)曾てちよつと面會せしこと。少しのしり  
あひ。

はん

しんけい〔神經〕名 かほの半分の神經  
はんめん〔盤面〕名 盤のおもて。「痛。  
はんも〔繁茂〕名 草木の生ひしげると。しげると  
はんもく〔反目〕名 目をいからしてにらみあふこ  
と。仲悪しきこと。見舞。夫妻。不能。正。室  
ばんもく〔萬目〕名 おほくの人の目。多くの  
人々の見る所。  
ハンモック〔Hammock〕名 ①丈夫なる緒を以  
て編みたる吊床。②兵。水兵の臥床にして幅  
四呎長さ六呎の帆布なり。紐。細索にて甲板  
の裏面の鐵鈎に懸垂す。つりど。  
はんもと〔版元〕名 版本を製し出す所。出版主  
はんももひき〔半股引〕名 丈短くして僅に膝  
の上まである股引。  
はんもん〔反問〕名 問ひかへすこと。「ふこと。  
はんもん〔煩悶〕名 悶え苦むこと。おもひわづら  
はんもん〔斑紋〕名 マダラの模様。  
はんや〔半夜〕名 夜半に同じ。よなか。枕を飲  
て猶聴く。①の鐘。  
はんや〔版屋〕名 版木をほることを業とする家。  
はんや〔番屋〕名 番人のいる家。番所。  
パンヤ〔斑枝花〕名 (種)熱帯地方に産する木  
葉は胡桃に似て花は椿の如し。果實中に絮  
の如きものあり。採りて蒲團などに入れ綿の代  
用とす。②かがいもの絮の稱。  
ばんゆう〔蠻勇〕名 無法の勇氣。物事をよく  
考へずおしきつて突進すること。

はん

はんよう〔繁用〕名 用事の繁きこと。おほ。  
多用。  
ばんらい〔晩來〕名 ひくれがた。日暮。  
ばんらい〔萬籟〕名 よろづの聲。  
はんちうがひ〔煩勞〕名 わづらはしき骨折。心身  
を用ひわづらふこと。  
はんちうがひ〔藩老〕名 大名の家老。  
はんちうがひ〔汎濫〕名 水のみなきりあふること。水  
のあふれるがること。②洪水。③汎濫。  
ち〔地〕名 兵。人工を以て水流を堰き止  
め水を近傍に漲溢せしめたる所をいふ。  
はんらん〔斑爛〕名 いろ／＼のあやありてはて  
やかなること。「しきり。  
はんり〔藩籬〕名 ①まがき。かき。②か。こひ  
はんり〔半里〕名 一里の半分。はんみち。  
はんりふがひ〔飯粒〕名 めしつづ。  
はんりん〔半輪〕名 ①車輪の半分。泥濘。②を  
没す。③圓き物の半分。④峨眉山。月。秋。影  
入。平。光。江。水。⑤流。  
はんりやう〔半兩〕名 支那秦代の銅錢。  
兩の半即ち八銖。孔の左右に半兩の字あり。  
はんりやうがひ〔盤領〕名 袍又は水干などのえ  
りの圓く仕立てあるもの。まるえり。つつ  
えり。くびかみ。方領の對。  
ばんりやう〔晩涼〕名 くれがたのすゞしき  
氣。ゆふすすみ。

はん

はんりよ〔伴侶〕名 つれのもの。なかま。とも。  
はんりよ〔煩慮〕名 わづらはしきおもんばか  
り。うるさきおもひ。「天に上らざる龍。  
ばんりよう〔蟠龍〕名 わだかまれる龍。ひそみて  
ばんりよく〔蠻力〕名 蠻勇の力。②腕力。  
はんるゐ〔煩累〕名 うるさきこと。わづらはしき  
こと。面倒。  
はんれい〔凡例〕名 著書の初に掲げて、其の書  
の大意又は注意の條々を示せるもの。書中の  
大凡を例すとの義なり。  
はんれい〔煩禮〕名 わづらはしき禮儀。  
はんれい〔牛嶺〕名 はんぶく。牛腹に同じ。  
はんれいがん〔斑巖〕名 斑。火成岩の一種  
粒状をなすもの。  
はんれき〔頑曆〕名 曆を國內に配布すること。  
はんれつ〔班列〕名 つらなり。ならび。①  
位置。くみ。たぐひ。  
はんれん〔半簾〕名 半はおろしたるすだけ。  
はんろ〔販路〕名 品物のうれみち。貨物を用  
ひさばく方面。はけくち。  
はんろう〔樊籠〕名 鳥かご。②身の自由を  
束縛せられてある所。③の累。  
はんろん〔汎論〕名 原理。原則を一般的(或一  
部分につきてにあらず)に論ずること。文章又は  
書籍の内容につきて汎く論ずること。總論。  
はんろん〔煩論〕名 わづらはしき論。煩はしく論  
ずること。

はん

はんぬ〔範圍〕名 か。こひ。かぎり。ひろさ。區  
域。  
ばんぬ〔盤繪〕名 染出し又は繡したる鳥獸草  
木などの形の盤曲して罔状をなせる模様。  
はんぬん〔半圓〕名 圓の直径にて圓を分るたる  
一けい。①形。半圓の形をなすもの。「半。  
はんぬん〔蟠蜿〕名 わだかまること。  
はんぬん〔藩垣〕名 き。まがき。  
はんぬん〔藩垣〕名 室内に板を張りて隔壁となし  
たるもの。板壁。②のこまをり。窮迫の場合。  
一をばづす。句興に乗じて程を忘る。  
はめいた〔板〕名 羽目に張りて用ゐる板。  
はめこむ〔填込〕名 他動。四入れこむ。挿入す。  
はめつ〔破滅〕名 やぶれほるふること。  
はめはづし〔填外〕名 填めこみ又取りはずすと  
はめん〔波面〕名 波のおもて。水面。②理  
波動の傳達する面。  
はめん〔場面〕名 ばしよ。場所のおもて。  
はめん〔馬面〕名 馬の顔。②馬の面部にかぶ  
らす面。③顔の馬の如く長き人。うまづら。  
一よろひ。④鎧。名 古。軍馬の面部にかぶ  
らせしよろひ。  
はも〔鱧〕名 魚の名。うなぎに似て大きく、  
背部は淡黒色、腹部は白色なり。背鰭は尾と  
連り、肉に小刺多し。九州・四國の近海及瀬  
戸内海等に多く産す。はむ。  
はもち〔葉餅〕名 木の葉につつまたる餅。かし

はも

はもちの類。ちまき。  
はもの〔刃物〕名 刃のあるもの。きれもの。利器  
一ザンマイ〔三昧〕名 みだりに刃物を振りま  
し一師。①師。名 刃物を製作する人。「はすと。  
はもの〔端物〕名 敷のそろはぬはしたなるもの。  
はもん〔破門〕名 師の門より返はれ、師弟の  
義を絶たること。②信徒の罪など犯したる時  
その宗門を脱せしむること。  
はもり〔羽盛〕名 燒鳥の兩羽兩足を、飛べる  
時の形に如く盛りたる一種の料理。  
はもりのかみ〔葉守神〕名 樹木を守る神。  
はや〔甲矢〕名 一手に二本持たる矢の中、第  
一に射る矢の稱。乙矢の對。  
はや〔早〕名 ①既に。もはや。②とく。速かに。  
はや〔早〕名 或語に冠して早き意を表す語。  
ばや助希望の意を表す助動詞。たい。たし。  
〔見。一行か。〕  
はやあし〔早足〕名 急速なる歩み。いそぎあり  
はやいと〔早絲〕名 絲車と紡錘とにかけわたす  
太き絲。しらべいと。はやな。紡車絃。  
はやうた〔早歌〕名 ①神樂歌の曲名。②小唄  
はやりうた。  
一うたひ。③謠。名 早歌をうたふ人。  
はやうち〔早打〕名 馬を馳せて急報すること。  
又其人。急ぎの飛脚。大急ぎの使。(武家時  
代の語)  
はやうちかた〔早打肩〕名 痲瘋病等のため

はや(肩)に充血して痛む病氣。  
はや(うま)「早馬」名「早打の乗れる馬」よく走る馬。駿馬。  
はや(うり)「早瓜」名「普通のものより早くなり」  
はや(おき)「早起」名「朝早く起ること。晨起」  
はや(おひ)「早追」名「晝夜の別なく習能」として急事を報ずる使。「書」  
はや(がき)「早書」名「文字を早く書くこと。疾」  
はや(がてん)「早合點」名「事の始末を充分聞き終へずして早く合點すること」  
はや(がね)「早鐘」名「出火又は其の他の非常の場合を報ずるため烈しく打ちならす鐘。又其の鐘の音。警鐘」  
はや(か)「早川」名「流れの早き川」  
はや(か)「早」に冠する詞。「芝居等に」  
はや(がはり)「早變」名「早く姿を變ふること」  
はや(がへり)「早歸」名「平生の時刻より早く歸ること。ばやびけ」  
はや(やく)「破約」名「約束を破りて履行せざること」  
はや(やく)「端役」名「主要ならざる役。はしたの役」  
はや(やく)「早」副「速に。いそぎて」前かたより。とくより。既に。あしたに。つとに。  
はや(ぐち)「早口」名「物のいひ方の疾きこと。はやこと。捷舌」  
はや(ご)「早具」名「火薬を込めたる小さき紙筒。小銃に込めて彈丸を發射する時に用ふる。火」  
はや(ご)「早具」名「はやご」に同じ。「藥石」

はや(さ)「早」名「はやきこと。又ははやき度合」  
はや(さ)「早咲」名「普通のものより早く咲く花。おそさきの對」。「さめ。驟雨」  
はや(さ)「早雨」名「速に降る雨をいふ。むら」  
はや(し)「林」名「樹木の繁むらがり生ひたる所」  
はや(し)「轉じて物の多く集まれるもの。辭の」  
はや(し)「唯子」名「能芝居。長唄。其の他の演藝に拍子をとる又は賑はすため。笛。太鼓。三味線などを合奏すること」  
はや(し)「唯子」名「唯子を演ずる人」  
はや(し)「唯子」名「唯子に用ふる樂器」  
はや(し)「唯子」名「唯子に用ふる樂器」  
はや(し)「唯子」名「唯子に用ふる樂器」  
はや(し)「唯子」名「唯子に用ふる樂器」  
はや(し)「唯子」名「唯子に用ふる樂器」

はや(だ)「早便」名「急の音づれ。急報」  
はや(だ)「早便」名「急の音づれ。急報」  
はや(だ)「早便」名「急の音づれ。急報」  
はや(だ)「早便」名「急の音づれ。急報」  
はや(だ)「早便」名「急の音づれ。急報」  
はや(だ)「早便」名「急の音づれ。急報」  
はや(だ)「早便」名「急の音づれ。急報」  
はや(だ)「早便」名「急の音づれ。急報」  
はや(だ)「早便」名「急の音づれ。急報」  
はや(だ)「早便」名「急の音づれ。急報」

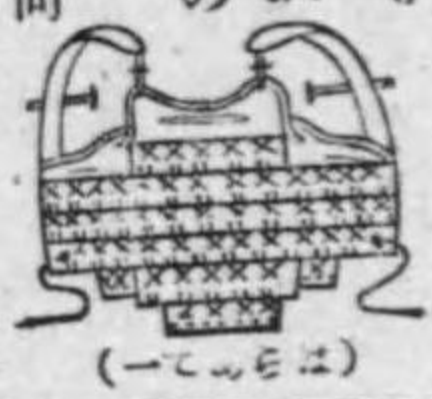
はや(はや)と「早」副「前に同じ」  
はや(び)「早飛脚」名「はやうちの使。急」  
はや(び)「早飛脚」名「はやうちの使。急」  
はや(び)「早飛脚」名「はやうちの使。急」  
はや(び)「早飛脚」名「はやうちの使。急」  
はや(び)「早飛脚」名「はやうちの使。急」  
はや(び)「早飛脚」名「はやうちの使。急」  
はや(び)「早飛脚」名「はやうちの使。急」  
はや(び)「早飛脚」名「はやうちの使。急」  
はや(び)「早飛脚」名「はやうちの使。急」  
はや(び)「早飛脚」名「はやうちの使。急」

はや(か)「逸」名「はやるさま。しらつさま」  
はや(か)「逸」名「はやるさま。しらつさま」  
はや(か)「逸」名「はやるさま。しらつさま」  
はや(か)「逸」名「はやるさま。しらつさま」  
はや(か)「逸」名「はやるさま。しらつさま」  
はや(か)「逸」名「はやるさま。しらつさま」  
はや(か)「逸」名「はやるさま。しらつさま」  
はや(か)「逸」名「はやるさま。しらつさま」  
はや(か)「逸」名「はやるさま。しらつさま」  
はや(か)「逸」名「はやるさま。しらつさま」

はや(ま)「早」名「はやきこと。又ははやき度合」  
はや(ま)「早」名「はやきこと。又ははやき度合」  
はや(ま)「早」名「はやきこと。又ははやき度合」  
はや(ま)「早」名「はやきこと。又ははやき度合」  
はや(ま)「早」名「はやきこと。又ははやき度合」  
はや(ま)「早」名「はやきこと。又ははやき度合」  
はや(ま)「早」名「はやきこと。又ははやき度合」  
はや(ま)「早」名「はやきこと。又ははやき度合」  
はや(ま)「早」名「はやきこと。又ははやき度合」  
はや(ま)「早」名「はやきこと。又ははやき度合」

はら

はら「荊棘」名とげある木の總稱。いばら。ばら名。ばら／＼として揃はさると。又其物。ばらせん略。  
 ばら「無尾」仲間の數多きを示すに用ゐる語。ら。たち。ど。法師。一。  
 はらあか「腹赤」名動。あますの一名。  
 はらあし「腹悪」形。二心わるし。  
 はらあて「腹當」名。腹のあたりを被ふ鎧の一部。雑兵の用ゐるもの。はらがけ。  
 はらあはせ「腹合せ」名。向ひあひて並べること。共同して事をなすこと。次に同じ。  
 はらおび「帯」名。裏地と表地との異なるはらいせ「腹癒」名。いかり又はうらみを晴らすこと。鬱憤をはらすこと。つう。  
 はらいたみ「腹痛」名。腹中のいたむこと。ふくはら「つば」名。腹にみち足るさまにふ語。思ふ存分。らうやぶり。  
 はらうら「破牢」名。獄を破りて逃げ出すこと。はらうら「波浪」名。海水の動揺。なみ。  
 はらうら「神」名。船首に刻みつけたる神像。航行の際、船を護るといふもの。ふながみ。  
 はらおび「腹帯」名。人の腹を巻く帯。はらまき。妊婦の下腹に巻く帯。ゆはたおび。  
 はらか「腹赤」名動。はらあかに同じ。



はら

はら「のそら」一奏。名。古。元日の節會に、はらかを天皇にたてまつりし公事。  
 はらがけ「腹掛」名。胸部より腹部までを被ひ紐を背にて十文字に交叉して掛くる衣。職人などの着るもの。はらあて。  
 はらがはり「異腹」名。父を同くして母の異なる兄弟。はらちがひ。  
 はらから「同胞」名。同胞の兄弟姉妹。単に一般の兄弟姉妹を云ふ。他國の國民に對して自國の國民を稱する語。五千萬の「はらきたなし」名。腹穢。形。心根きたなし。はらぐろし。  
 はらきり「腹切」名。自ら腹をきることを。せつぷ「がたな」名。刀。腹を切るに用ゐる刀。普通九寸五分を定法とす。  
 はらきる「腹切」名。自動。自分の腹を自らた切る。割腹。  
 はらくだし「腹下」名。大傾のゆるみて度度下はらくだり「腹下」名。はらくだしに同じ。  
 はらくろ「腹黒」名。はらくろと。又其人。はらくろし「腹黒」名。一心想たなし。心根よか。はらけい「腹穢」名。役者が自己の扮してある人の精神を其の言語舉動の外に自然にあらはすこと。團十郎の「腹部の皮膚に人面などを畫き呼吸作用によりて動作せしむる藝。又の男をたぶらかす。はらけし「散」形。はららきてあり。ちらばりて

はら

あり。散亂。  
 はらご「腹子」名。はららごに同じ。  
 はらごなし「腹消食」名。食物の消化を助くるため運動すること。  
 はらごもり「腹籠」名。胎内にいまだこもり居る子。父の死にたる後生れたる子。わがれがたみ。遺腹。すべて腹内に入れこめてあること。  
 はらご「暗」名。暗れやかに。曇なきやうはらす「腫」名。他動。腫る。やうに。眼を「はらす」他動。腫る。はら／＼にこはす。人を殺す。賣り拂。  
 はらすぢ「腹筋」名。腹の皺又は筋。をかしに堪へざること。腹筋をよること。  
 はらすぢ「腹」名。腹に入れたる炭。にせる炭。をよる。句甚しく笑ふ。抱腹。  
 はらすぢ「腹」名。一文二文のはした錢。  
 はらだかし「腹高」形。はらめらるさまなり。  
 はらだたし「腹立」形。はらたつべきさまなり。  
 はらだち「腹立」名。はらたつこと。立腹。  
 はらやうご「上戸」名。酒に酔ひて腹をたつ癖の人。よく腹たつ人。  
 はらだつ「腹立」自動。腹がたつ。怒る。立腹。パラザウム「Paralum」名。石炭より得る白大氣中にて熱すれば光澤を失ひ、高温度に及びては再び酸素を遊離して光澤を生ず。  
 はらちがひ「腹遠」名。はらがはり。

はら

はらつづみ「腹鼓」名。食に満足して樂むこと。世治まり民太平を樂むこと。腹太鼓。狸の腹を太鼓の如くたたきて音をまねること。  
 はらとり「腹取」名。あんぶく按腹に同じ。  
 はらなな「原中」名。野原のなか。  
 はらぬち「腹中」名。はらのうちに同じ。  
 はらの「原野」名。ひろき野。のはら。はら。  
 はらの「ふえ」名。古。戦争の時に用ゐるし合圖の笛。  
 はらばひ「腹這」名。はらばふこと。  
 はらばふ「腹這」自動。四腹を下につけ手足にはひゆく。はふ。匍匐。  
 はらばら「名刺」名。木の葉などの散るさまにいふ。雨涙などの落つるさまにいふ。ほろほろ。氣づかしく思ふさまにいふ。ひやひやと。  
 はらばら「散散」名。散れ散らばれるさまにいふ。ちりちりに。雨散などの降りて物にあたるさまにいふ。  
 はらばら「散散」名。雨又は散など粒だちたる物の散布するさまに云ふ。  
 はらひ「拂」名。代金。貨錢などをはらひ渡すこと。支拂。物品を賣りはらひ渡すこと。支拂。神に祈りて災厄汚穢罪障等を除き去ること。又其式。はらへ。はらひに誦む詞。中臣の「罪のあがなひはらひきたなし」名。支拂。形。支拂を心

はら

はらひきよむ「被遣」自動。下二はらひを行ひて災厄又は罪障を消す。  
 はらひぎり「拂切」名。刀にて横ぎまに難くはらひこむ。他動。他動。四次に支拂ふべき金銭の一部を支拂ふ。  
 はらひさぐ「拂下」他動。下二官府より人民に物を賣りさぐ。  
 はらひさげ「拂下」名。はらひさぐることを。  
 はらひすみ「拂濟」名。貨金又は代金を不足なく拂ひ終ふること。償却濟。  
 はらひたす「拂出」他動。四。追ひたす。金錢を支拂ひたす。  
 はらひてがた「拂手形」名。しはらひてがた支拂手形に同じ。  
 はらひと「被戸」名。はらひてを行ふ所。  
 はらひと「被紙」名。婦人の髪をけづる時櫛につきたる毛を入る紙。  
 はらひと「被除」他動。下二次に同じ。  
 はらひと「被除」他動。下二はらひさる。のぞきさる。  
 はらひぼこ「被箱」名。はらへぐしを入れたる匣。おはらひばこ。  
 はらひぶそく「拂不足」名。支拂の未だすまざることを。又拂ひをへぬ残りの金高。  
 はらひもどす「拂戻」他動。四。預りたる金を預け主の請求などによりて返却す。

はら

はらひもの「拂物」名。賣りはらひ品物。  
 はらひわたす「拂渡」他動。四。金錢を支拂ひて渡す。賣渡す。  
 はらひかた「拂」他動。四。吹き離かす。す。す。はらひはらふ略。追ひ退く。敵をうら。人を追放の刑に處す。  
 はらひかた「被」他動。四。下に二神に祈りて災厄罪障等を除き去る。  
 はらひかた「被」名。琥珀の甲に黒斑のまばらにあるもの。色透明の結晶體。パラフィン「Paraffin」名。石炭より得る白はらふえ「大角」名。はらのふえに同じ。  
 はらふくれ「腹脹」名。病。ちやうまんに同じ。金持。  
 はらへ「被」名。はらひに同じ。  
 はらへ「被」名。かたしる。罪過のあがなひに出すもの。  
 はらへ「被」名。大神宮にて被に用ゐる串。細く割りたる木に細く切りたる紙をつけたるも。づき「一月」名。陰曆三月の異名。「の。もの」名。はらへぐしに同じ。  
 はらまき「腹巻」名。はらおび。はらあて。鎧の下に着るもの。鎧より簡略にして袖も脇立もなく背後にて引き合す。また鎧を着すに腹巻に鎧の袖をつけて着用すること。はらまき名。人を罵りて云ふ語。「あり。





はり

又其者。一「大關」

はりだす「張出」他動サ四

はりたて「針立」名はりさし。はりやま。

はりたふす「針」名はりさし。はりやま。

はりだまし「針」名はりさし。はりやま。

はりつく「張附」他動カ下二

はりつけ「磔」名刑の名。古、重罪人を木に張

はりつら「柱」名罪人を磔の刑に處する

はりつけ「貼付」名襖又は壁などに紙を貼り

はりがみ「紙」名貼付に用ゐる紙。

はりつづ「張附」他動カ下二

はりつづ「鍼筒」名鍼醫の針を入れ置く筒。

はりなすび「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はりぬき「張抜」名型に紙を張り重ね糊の乾

はり

きたる後其の型を抜き去ること。又張り抜き

はりぬき「張抜」他動カ四張りぬきに造る。は

はりねずみ「針鼠」名動物。體一尺許。全身に

はりねすみ「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はりねすみ「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はりねすみ「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はりねすみ「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はりねすみ「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はりねすみ「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はりねすみ「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はりねすみ「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はりねすみ「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はりねすみ「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はりねすみ「針箱」名裁縫道具を一切入る箱

はり

はりぶん「張文庫」名紙張の文庫。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はりま「梁」名梁と梁との間。

はる

に棘毛密生す。地中を潜行して小虫を捕食

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はる「春」名四時の中の第一。陽暦にて三月

はるれ

はるはな〔春花〕名春の頃にさく花。  
 一の枕めぐらしに冠らす詞。  
 はるはる〔春春〕名年々めぐり来る春。  
 はるはる〔遙遙〕名副遠くはなれて。  
 一と副遠く隔りたるさま。  
 はるび〔春日〕名春の日。  
 一の枕すがに冠らす詞。  
 はるび〔腹帯〕名馬のはらおび。  
 はるぶくろ〔春袋〕名古初春に女兒などの縫  
 はるべ〔春邊〕名春の頃。「ひそむる袋」  
 はるまけ〔開ぬ〕はるかたまけてに同じ。  
 はるまちづき〔春待月〕名陰曆十二月の  
 異稱。  
 パルミチン〔Palmitin〕名白色鱗状の結  
 晶體。脂肪の成分をなす。  
 はるめく〔春〕自動カ四。春らしくなる。「異稱」  
 はるをしみつき〔春惜月〕名陰曆三月の  
 はれ〔晴〕名天氣よきこと。空の晴るること。  
 〇おほやけ。おとしてむき。一の席。美は  
 しきこと。  
 一のしろうぶ〔勝負〕名多くの人の見て  
 居る所にたす勝負。  
 一のはしよ〔場所〕名多く人の集まりた  
 はれ〔種〕名はれあがること。「場所」  
 はれ盛。あはれ。あわ。  
 はれいしやう〔晴衣装〕名晴着に同じ。  
 はれいしよ〔馬鈴薯〕名種。ジャガタラいも

はれ

はれう〔馬料〕名うまの飼料。  
 はれがまし〔晴〕形二。あまりにおもだたり。  
 〇憚るさまをさすなり。  
 はれき〔晴着〕名はれの場所に出る時の着物  
 はれきぬ〔晴衣〕名はれきに同じ。「公服」  
 はれくち〔名〕はれかかること。  
 パレストイン〔Palostin〕名耶蘇教の本地地  
 地中海の東岸にあり。「の不調に終ると」  
 はれつ〔破裂〕名やぶれさくこと。〇談判など  
 一おん〔音〕名文法。子音の一。一時氣息  
 の遮られたるが俄に放たる時に起る音。  
 一ぐわん〔丸〕名物にあたりて破裂する彈  
 丸。爆裂彈。「おほやけ」に。  
 はれて〔晴〕副人に憚る所なく。おほやけに  
 はれはれし〔晴〕形二。はれてさわやかなり。  
 〇はてやかなり。〇憚る所なし。  
 はれはれと〔晴〕副はれやかに。はれはれしく  
 はれふ〔可〕馬。名馬のたてがみ。  
 はれま〔晴間〕名雨などのやみたる間。  
 はれん〔馬〕名種にたれさぐる。紙又は革を  
 細長くしたるもの。  
 はれん〔馬〕名種。ばりん〔馬蘭〕に同じ。  
 〇版木を摺るに用ゐる用具。今はくごなは  
 等を圓座の如く巻きたる物を竹の皮にて包み  
 て製すれどもとは馬棟の皮につくれり。  
 はれんち〔破廉恥〕名恥を恥とも思はぬこ  
 と。はらしらず。鐵面皮。〇不正手段。不

はるわ

法行爲をなすこと。  
 一さい〔罪〕名竊盜收賄詐欺等の稱。又  
 はれもの〔腫物〕名皮膚の腫れてやめるもの。  
 できもの。しゅもつ。  
 一にさはるやうに。句大事にすること。  
 はれやかに〔晴〕副。晴れて爽やかに。はな  
 やかに。〇少しも憚る所なく。  
 はれやまひけ〔腫物〕名水腫して脹れあがる  
 病みづぶくれ。すゐき。  
 はれらかに〔晴〕副。はれはれと。はれや  
 かに。「成立せず」  
 ばれる自動ラ下。〇悪事露顯す。〇破れて  
 ハロ〔Hal〕名天。ち。に同じ。  
 ハロゲン〔Halogen〕名。弗素鹽素臭素  
 沃素の總稱。  
 一くわがぶつ〔二〕二化合物。名。化。弗  
 化物。鹽化物。臭化物。沃化物の總稱。  
 はるぼろと〔遙遙〕副。はるばるとに同じ。  
 パーメーター〔Perimeter〕名晴雨に同じ  
 はわろの〔霸王〕名諸侯中の主位に在りて  
 帝王に代りて政權を執るもの。又同盟者の長  
 をも云ふ。はたがしら。  
 一じゆ〔樹〕名種。サポテンに同じ。  
 はわかれ〔商別〕名商と商との間の別れすく  
 こと。歴商。  
 はわけ〔葉分〕名葉の間を穿ちわること。一  
 「の風」の月

はわけ〔派〕名わかれ。支流。  
 はわたり〔刃渡〕名刃物の刃の長さ。二三  
 尺の薙刀。〇刃の方をわたりゆく輕業。  
 はるる〔簡〕自動ラ上。〇酢にあひて齒の浮くが  
 如く覺ゆ。  
 はあ〔破壞〕名やぶること。はくわい。  
 はあつく〔蝕盡〕自動カ上。〇日月全く蝕す。  
 皆既。



ひ  
 〇上圖の如く舌の後部を少し  
 〇高め軟口蓋の後部との間に一  
 〇狹窄門をつくりて急に氣息を  
 〇通過せしむるによりて生ずる舌面  
 〇と口蓋との摩擦音と母韻「い」と  
 〇の發音。五十音圖中「ハ」の第  
 〇二に位す。他の音の下にある時は  
 〇イの如く轉呼することあり。いひ

ひ  
 一〔日〕名。太陽系の中央に在りて照り輝き  
 諸行星に熱と光を與ふる廣大無邊の球體  
 太陽。日輪。金鳥。〇日の神。天照大神の御  
 後裔にまします至尊の御事に冠する語。一の  
 御子。天津。一。太陽の光又は熱。日光。  
 一にさらす。地球の日光を受けてある間。晝  
 ひるま。一の中。地球の全く自轉一回し  
 て終る間。即ち二十四時間の稱。一晝夜。よ  
 るひる。〇定めたる日限。ひざり。一をば  
 す。〇多くの日。日かず。一を経る。〇とき。  
 をり。時代。頃。一世にありし。一。日毎に行ふ  
 こと。一。履。一。掛けの金。  
 一のあし。一。脚。名ひあしに同じ。「れ」  
 一のいり。一。入。名日の西に入る頃。ひぐ  
 一のうち。一。中。名ひるま。朝より晩までの

ひ  
 問。  
 一のかみ〔神〕名天照皇大神を申し奉  
 一のくれ。一。暮。名ゆふぐれ。夕方。  
 一のした。一。下。名あめがした。地球の  
 上。世界。「どにて天下に敵なきもの」稱。  
 一かいさん。一。開山。名武藝又は相撲な  
 一のたて。一。經。名東西に通ずる路。  
 一のつじ。一。辻。名ひるま。ひるま。  
 一のて。一。出。名朝に日の東天に昇り出づ  
 一のぬき。一。緯。名南北に通ずる路。  
 一のまる。一。丸。名太陽の象。即ち赤色の  
 圓き形。  
 一のはた。一。旗。名にしやうきに同じ  
 一のみかけ。一。御陰。名天皇のおはしま  
 す御殿。  
 一のみかど。一。御門。名ひのみやに同じ  
 一のみこ。一。御子。名ひつぎのみこに  
 同じ。「つぎ」。  
 一のみつぎ。一。貢。名毎日たてまつるみ  
 一のみはた。一。御旗。名日丸の國旗。  
 一のみや。一。宮。名ひつぎのみこのおは  
 します宮。  
 一。びと。一。人。名おほみやびと。  
 一のめ。一。目。名日のひかり。日光。  
 一。火。名物を焼くもとなるもの。燃えて赤  
 く光りて極めて熱し。〇物體の灼熱して深紅  
 色となれるもの。〇火打の火。燄火。一を打つ

はる

ひ

ひ

ひ あかし。燈火。「一をとぼす」おき。炭火。  
 「一を埋む」煮ること。炙ること。「一の物断ち」  
 火事。火災。「一の元」「消」烈しき情。  
 おこりたつ情。「怒の」  
 「のいへ」「一宅」名くわたくしに同じ。  
 「のくるま」「一車」名火の燃えたる車。  
 地獄にて罪惡の人を載せて背負するたためものといふ。  
 ③業果のめぐり來ること。④極貧に苦しむこと。  
 「のこ」「一粉」名火災などの火の飛び散るもの。火飛。飛火。火片。火星。  
 「のこし」「一興」名古昔。葬式に用ゐし火を點じたる興。  
 「のこと」「一事」名くわじに同じ。  
 「のさわぎ」「一騒」名くわじに同じ。  
 「のて」「一手」名火の燃え上がるさま。「一があがる」火勢。  
 「のもの」「一元」名火災の起るべきもと。ひのもの「一物」名焼き又は煮たる食物。  
 「一だち」「一断」名火物を断ちて食はざることをあやふし。句昔。禁中にて近衛の官人が夜中火の用心に呼びあはさし語。  
 「一が火を喚ぶ」同氣相求むる喩。  
 「一の如し」句怒又は熱のはなはだしきにいつゝない處に煙は立たぬ。④多少の事實なくては噂は立つものにあらざるの喩。  
 「一を擧ぐ」句火をたく。又生計をたつ。

「一を失す」句あやまちて火事を起す。  
 「一を放つ」句火をつく。  
 ひ「輪」名植。喬木。葉は常緑にして小形鱗片状をなす。材緻密にして水氣に堪ふる故に多く家屋船艀などの建築に用ゐらる。樹皮も亦用途多し。材と材と相摩擦すれば火を發する故に此の名あり。ひのき。  
 ひ「水」名水の凍りたるもの。こほり。「一室」のためし「一様」名古。元日に宮内省より前年の氷室の氷の厚薄を奏することあり。氷様奏といふ。石瓦にて其の雛形をつくるといふ。その厚薄を以て年の豊凶を占へり。  
 「一のそら」「一奏」名前に同じ。  
 ひ「二」名ひとつに同じ。  
 ひ「比」名くらべ。ならび。②ともがら。たぐひ。一類。同列。③ためし。かた。④祀。祭。小大之「一以成之」⑤支那古代の詩の六義の「一」。物事にくらべて情をのぶること。⑥(數)二つの數の一方が他に對して倍數なる關係。  
 ひ「梭」名機具。緯絲を巻きたるくたを巻く。経絲の中をくぐらせ一端より一端へ遣り通はするもの。杼。  
 ひ「樋」名ひのくちに同じ。②水を速きに導き遣る竹木等の方圓の長き管。とひ。「かけ」③刀の刃に刻り作る細長き溝。ちながし。血溝。④すべて物の面に設けある細長き溝の稱。⑤⑥剛にて糞を受くる器。

「一のくち」「一口」名水を出だし又せくとる水門。開。  
 「受くもの」  
 ひ「械」名ひのくちに同じ。②扇の具。葉をひ「翳」名扇。瞳の上にくもり出て物の見えざる病。「底」  
 ひ「隔」名物事の隔たり又は重なること。「一」  
 ひ「鄙」名「おなな」。かたほとり。邊邑。②やしまこと。③しつぽく。朴野。  
 ひ「脾」名内臓の「胃」の外側にあり。形橢圓にして状海綿の如し。よこし。  
 ひ「のさう」「一」名ひ脾に同じ。  
 ひ「妃」名きさき。「王」  
 ひ「妣」名なき母。死したる母。「先」  
 ひ「婢」名こしも。はしため。下女。  
 ひ「碑」名いしづみ。たてし。  
 ひ「否」名よからぬ。不可。然らざること。いなむべき。賛成せざること。③通せざること。④運の開けざること。  
 ひ「非」名よからぬこと。不是。⑤(察)是與否。「道ならぬこと。よこしま。⑥いつはり不真。⑦(守)守り節一也。⑧つみ。隠惡。⑨(を)をうつ。句そしる。非難す。  
 ひ「緋」名火に似たる深紅色。「一金巾」  
 「一のはかま」「一袴」名緋色の精好にて製したる袴。女官の用ゐるもの。  
 ひ「祕」名「測り知られざること。神祕。②示さざる

ること。祕密。胸中の「一」おくのて。祕訣。  
 「家傳の」を授く。  
 ひ「被」名おほひ。かぶり。②よぎ。蒲團。  
 ひ「被」接頭或語に冠して其受身なる意即ちせらるの意を表はす語。「一告」  
 ひ「非」接頭或語に冠して其物事を否定する意を表はす語。「一國民」  
 ひ「び」の濁音。「び」音を發せんとするとき聲帯を振動せしむるによりて生ずる音。  
 ひ「美」名「うつくしき」と。うらはしきと。②味の旨きと。③義の止しきと。④優むべきと。よみすべきと。⑤容貌のすぐれたると。みゆべきと。⑥すべて感興ある實體の理想化せられたる形象。  
 ひ「微」名「かすかなること。②わづかなること。すこしなること。よわきこと。「力」なり。③ちひさきこと。こまかきこと。「一」小。④いやしきこと。卑賤。⑤たへ。精妙。⑥しのび。隱密。「一行」  
 ひ「尾」名しりを。な。②す。しりへ。をばり。③あとにつき行く。④「一行」二十八宿の「尾」接尾魚を數ふるに用ゐる語。「一」  
 ひ「密閉せる上下兩唇を吹き破る瞬間に生ずる破裂音と母韻「い」との緩音。一種の清音にして「ひ」の半濁音にあらず。  
 ひ「ア」[Beer]名ビールに同じ。  
 「一ホール」[Hall]名料理などを供へ客にビールを飲ましむることを業とする家。  
 ひ「ト」[Fleet]名フリートに同じ。

ひ「フ」[Beef]名牛肉の稱。  
 「カツレツ」[Cutlet]名牛肉を原料としたるカツレツ。  
 「ステーキ」[Steak]名牛肉を脂にていためたるもの。  
 ひ「ム」[Beam]名艦隊のフレームに附着したる梁材。  
 ひ「ル」[Beer]名一種の酒。大麥の芽より浸出したる液にホップを加へて苦味芳香を附けこれに醸母を混じり醸成せしめて醸造するもの。多くは褐色なれども黒ビール。白ビール等もあり。  
 ひ「あい」[悲哀]名かなしむと。なげくと。愁歎。悲痛。又かなしむべきと。あはれなると。かなしみ。  
 ひ「あがる」[乾上]自動ラ四。①全く乾く。かわききる。乾涸。②活計が立たずなる。「あこが」  
 ひ「あく」[美惡]名よきとあしきと。みゆべきとみにくきと。  
 ひ「あし」[日脚]名太陽の空を過ぎゆくこと。ひかけ。暑。「一速し」  
 ひ「あたり」[日當]名日光のあたること。「一」のよピアノ [Piano]名形オルガンに似たる一種の樂器。内部に數十條の鐵線を張りたるものにして上部の裝置を指にて押せば鐵線に觸れて琴の如き音色を發す。洋琴。  
 ひ「あは」ひ「一」[庸問]名家と家との間の狭き處  
 ひ「あひ」[日問]名「日數」。高利貸の日歩

ひ「あぶ」[槍扇]名「槍」の薄き板を綴りたる扇。昔公卿・殿上人及婦人等皆用ひたり。其骨の數に各別あり。③(種)葉は扁平にして長く、並び生じて形槍扇に似たり。其の中心に葉を出して花を着く。黄赤色にして紫斑あり。又紅。黃。等あり。からすあぶぎ。  
 ひ「あぶ」[火災]名古の刑の名。放火犯に行ひしもの。柱に縛り茅薪を積みて焼き殺す。燔刑  
 ひ「い」[微意]名かすかにしめすこと。「い」のこのさし。自己の志の謙稱。「一を表はす」  
 ひ「い」[眞負]名力をそふる。引き立つと。愛して扶くと。又「巨靈」高。掌遠。騰。騰  
 ひ「いけ」[水池]名水をとる池。  
 ひ「いしき」[美意識]名美を感受し又は美醜を辨別する意識。  
 ひ「いち」[曾祖父]名ひおほちに同じ。  
 ひ「いづ」[秀]自動タ下二。②穂ぬき出づ。ひづ  
 ひ「いで」[秀]自動タ下二。②穂ぬき出づ。ひづ  
 ひ「いで」[秀]自動タ下二。②穂ぬき出づ。ひづ  
 ひ「いで」[秀]自動タ下二。②穂ぬき出づ。ひづ  
 ひ「いで」[秀]自動タ下二。②穂ぬき出づ。ひづ  
 ひ「いで」[秀]自動タ下二。②穂ぬき出づ。ひづ

ヒイホン〔被風〕名 ひふの唐音。「げ」庇護。  
ひいん〔庇蔭〕名 かばひ扶くること。おかけ。か  
びいん〔微陰〕名 すこしのくもり。  
ひいれ〔火入〕名 煙草を吸ふための炭火を入  
る。小き器。火盆。火盆。  
ひいろ〔緋色〕名 緋に同じ。銅器に着くる  
色。とびいろ〔鶯色〕のあざやかなるもの。  
ひう〔蕪〕他動下二 肉など薄く小さく切る。う  
すく。割ぐ。  
ひう〔眉宇〕名 眉の邊。眉間。眉の面に於け  
る。猶屋に宇のあがるが如くなれば「陽氣」  
の間に見はる。「顔姿容」などの意。  
ひう〔微雨〕名 さみ。ぶ。細雨。  
ひうせつ〔謬説〕名 あやまれる説。「具」  
ひうち〔火打〕名 相打ちて火を出す。又其用  
「いし」石名 石英の粗なるもの。色白く  
堅くして碎けば稜多し。火打鎌と打合はせて  
火を取る。神代は「に代用したり」といふ。  
「がね」金名 鋼にて作り木に嵌めて火打  
石と打合はせて火をとるに用ゐるもの。  
「がま」鎌名 前に同じ。「道具」  
「だうぐ」刀名 道具名 火を打出すに用ゐ  
「ば」一羽名 鳥のつばさの末端。  
「ばこ」一箱名 火打道具を入れて置く小箱。  
「ぶくろ」一袋名 火打道具を入れて携ふ  
「ひうち」がだけ〔燐燧〕神代國にあり。「袋」  
ひうつり名 火移し火のもえうつること。

〔日映〕日光のうつること。  
ひうん〔非運〕名 運命のひらげざること。不運。  
ひうん〔微運〕名 つたなき運命。不仕合。薄命。  
ひうん〔雲〕名 すこしのくもり。  
ひうを〔乾魚〕名 魚のひもの。枯魚。  
ひえ〔稗〕名 穂は粟の如く實は黍の如く  
にして食用となる。水陸の二種あり。稗子。●  
稲に似て糞生し夏穂を生ず。稗子に似て小  
さく綠なり。食ふべからず。稗子。  
ひえ名 妙かざぼろしの類。瘡毒。  
ひえ〔冷〕名 身體の寒氣におかされること。  
ひえあたり〔冷中〕名 寒氣にたれて起る病。  
「ひえいさん」〔比叡山〕近江山城の二國に跨  
る。山上に延暦寺あり。「しみとほる」。  
ひえいり〔冷入〕自動ラ四 寒氣身にしむ。寒さ  
ひえう〔飛揚〕名 とびうること。  
ひえう〔秘〕名 奥義に同じ。  
ひえき〔裨益〕名 助けとなり利益となること。た  
すけ。おぎなひ。  
ひえき〔鼻液〕名 はなしる。  
ひえつ〔披閱〕名 開きて眺め見ること。  
ひえどり〔鴨〕名 鴨ひよどりに同じ。  
ひえまさ〔稗時〕名 小き鉢に野稗をまき其芽  
の出づるを青田に見せたるもの。  
ひえん〔飛簪〕名 毬堂の簪の二重極の上は  
延び下は縮り四隅に至りて曲り起るたるもの  
●高きのき。

ひえん〔飛燕〕名 とぶつばめ。●武術。特に  
槍術にて燕の如く巧みに身を躍すこと。  
ひえり〔日擇〕名 日よき日をえらぶこと。  
ひおこり〔日燭〕名 燭毎日發熱するおこり。  
ひおとし〔緋緘〕名 緋色の絲又は革にておど  
したる緘。  
ひおほち〔曾祖父〕名 祖父又は祖母の父  
ひおほばち〔曾祖母〕名 祖父又は祖母の母  
ひおほひ〔日覆〕名 日光の當るを覆ふ  
もの。ひよけ。●天井の邊の稱。「一より  
松の釣枝」こと。  
ひおん〔美音〕名 うるはしき聲。話ひこゑのよき  
ひおん〔鼻音〕名 文法 氣息の鼻腔を通りて發  
びおん〔微音〕名 かすかなる音。「する音」  
ひか〔悲歌〕名 かなしきうた。『慷慨』一  
ひか〔飛阿〕名 早舟。はしけ。  
ひか〔比價〕名 他物と比較してのあたひ。  
ひか〔飛蛾〕名 蛾ひとりむし。  
ひか〔彼我〕名 かれとわれ。他と自己と。  
ひか〔僻〕名 僻語に冠して實際と異り又は道  
理にあたらざる意を表はす語。『耳二事』  
ひかい〔被害〕名 損害を被る。害せらるること。  
「しや」一者名 他人の爲に身體・財産名  
譽等に害を加へられたるもの。加害者の對。  
ひかちう〔披讀〕名 詩歌の會の席にてその作  
れる詩歌を讀み上ぐる。又其人。

ひかう〔比較〕名 ひかくに同じ。  
ひかう〔非行〕名 よからぬ行爲。みちならぬ  
おこなひ。  
ひかう〔飛行〕名 空中をとひゆくこと。  
「せ」一機名 名くうちゆうひかうせん  
「せん」一船名 名くうちゆうひかうせん  
に同じ。  
ひかう〔修行〕名 小徑。『修進』彼二  
ひかう〔備考〕名 参考にせなること。  
ひかう〔尾行〕名 ひそかにあとをつけてゆく  
ひかう〔微音〕名 かすかなる音。  
ひかおぼえ〔僻覺〕名 事實に違ひて記憶せる  
こと。よく覺え居らぬこと。  
ひかがみ〔引風〕名 膝がしらの後の坐るとき  
に風む處。よほろ。ひつがみ。颯。  
ひかき〔火掻〕名 薪の火など掻き出す具。お  
き。かき。●じふのう〔十能〕。  
ひがき〔椀垣〕名 椀の薄板にて綱代にあゆる垣  
ひかく〔比較〕名 並べて見あはすること。くらべ  
あはすること。ひかう。  
ひがく〔數額〕名 入費の高。いりめ。  
ひがく〔美學〕名 しんびがくに同じ。  
ひかくし〔日隱〕名 ひおほひ。ひよけ。二南に  
假の差し出して。  
ひかげ〔日景〕名 日の影。日光。ひなた。●  
ひかけ〔日陰〕名 日光によりて生ずる物の  
陰。日光の物におははれたる所。●種

ひかげかづらの略。  
「かづら」名 葛。●「葛」さるをがせに同  
じ。ひかげ。女羅。●「鬘」昔新嘗大嘗等の  
神事に小忌衣を着たる祭官の冠の笄の左右  
に掛けたるもの。元は女羅を用ひしが後に白  
と青との絹糸にて作り數條に垂る。  
「くさ」一草名 種あふひの異稱。  
「もの」一者名 世にあはれぬ人。仔細  
ありて世をかくれのぶもの。  
ひがけ〔掛〕名 日毎に若干づの金錢をか  
けて貯へゆくこと。  
ひがごころ〔偏心〕名 ひがみたる心。ねぢけたる  
心。すなはたらぬ心。「あたぬ事」  
ひがごと〔僻事〕名 實際に違ひたる事。道理に  
ひがさ〔日傘〕名 さしあさの一種。製小さく  
紙を漉又は紺などに染め日光を遮るにのみ用  
ゐる。ひカラかさ。涼傘。  
ひがし〔東名〕名 方角の一。日の出づる方。ひ  
んがし。西の對。●ひがしかぜの略。  
「うけ」一受名 東に向ひたること。「ち」  
「かせ」一風名 東の方より吹き來る風。  
「ひがしほんぐわんじ」〔東本願寺〕京都市に  
ある眞宗大谷派の本山。  
「ひがしやまてんわう」〔東山天皇〕第百  
十三代の天皇。御名は朝仁。在位二十三年  
壽三十五。  
ひかず〔日數〕名 日の數。「がかする」

ひかすう〔被加數〕名 數加へらるる數。  
ひかた〔日方〕名 西南より吹く風。  
ひかた〔干渴〕名 潮の干たる渴。斥鹵。  
ひかたまる〔乾固〕自動ラ四 かわきてたまる。  
ひかちやう〔鼻下長〕名 鼻下に懸る女に迷ひやすき  
こと。又其人。はなたらし。好色家。  
ひかちゆうしや〔皮下注射〕名 服薬せしむべ  
からざる場合又は局部を麻痺せしむる場合な  
どに皮膚内に行ふ注射。腔内注射の對。  
ひかないち〔一日一〕名 ひぐらし。盡  
日。終日。  
ひかのこ〔緋鹿子〕名 緋のかのこ。しほり。  
「ひかはしんじや」〔水川神社〕武藏國にあ  
る官幣大社。素齋鳴尊大己貴命・奇稻田  
姫命を祀る。「ひかひか」  
ひかひか〔閃閃〕名 光り輝くさまにいふ語  
ひがひがし〔僻僻〕形 二根性の曲りたるをいふ  
又無風流の意にも用ゐる。  
ひかふ〔控〕自動ハ下二 進まずしてとどま  
りまつ。●うちはに。ほどんくにす。●他動ハ  
下二 ひととむ。牽制す。●手許にしるしお  
く。●そばにかまへおく。  
ひかへ〔控〕名 ひかふること。ひととむるこ  
と。●不時の用意に備へおくもの。副。●後の  
用にかきとめおくもの。「るための」。  
ひかへぐ〔控杖〕名 物の倒るるを支ふ  
ひかへち〔控地〕名 不時の用に設けおく地





ひき

まる合羽の稱。鋸の肉厚く齒粗くして長さ七八寸のもの。
ひきまはす(引廻)他動サ四。ひきまてぐるぐるまはす。②方々をつれあるく。
ひきまゆ(獨斷)名。一正の靈にて作りたるまゆ。ひとつまゆ。
ひきまゆ(引眉)名。眉を剃りたる痕に墨にて描きたる眉。②薄きを濃く見するため其上に墨などにて描きたるまゆ。つくりまゆ。
ひきまゆげ(引眉毛)名。ひきまゆに同じ。
ひきん(卑近)名。てぢかきこと。深遠ならぬこと。
ひきんぞく(非金屬)名。非金屬元素の稱。
くわ(わ)名。黒い草に赤い紋をつけたるもの。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。



ひき

ひきもの(引物)名。客の膳部に特に添へて出す菓子類。客の携へ歸るに供ふ。ひきもの略。
ひきもの(引物)名。客の膳部に特に添へて出す菓子類。客の携へ歸るに供ふ。ひきもの略。
ひきもの(引物)名。客の膳部に特に添へて出す菓子類。客の携へ歸るに供ふ。ひきもの略。
ひきもの(引物)名。客の膳部に特に添へて出す菓子類。客の携へ歸るに供ふ。ひきもの略。
ひきもの(引物)名。客の膳部に特に添へて出す菓子類。客の携へ歸るに供ふ。ひきもの略。
ひきもの(引物)名。客の膳部に特に添へて出す菓子類。客の携へ歸るに供ふ。ひきもの略。
ひきもの(引物)名。客の膳部に特に添へて出す菓子類。客の携へ歸るに供ふ。ひきもの略。
ひきもの(引物)名。客の膳部に特に添へて出す菓子類。客の携へ歸るに供ふ。ひきもの略。
ひきもの(引物)名。客の膳部に特に添へて出す菓子類。客の携へ歸るに供ふ。ひきもの略。
ひきもの(引物)名。客の膳部に特に添へて出す菓子類。客の携へ歸るに供ふ。ひきもの略。

ひき

ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。

110三四

ひき

ひと(戸)名。両方に戸袋ありて左右に引開く戸。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。

ひき

ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。

ひき

ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。
ひき(引)名。ひきめを製することを業とする。



110三五





て縁邊に鋸齒を有し花は小形白色なり。枝葉は櫛に代用して神に供へ又焼きて灰汁の灰とす。

ひきかけ(藤掛)名 ①まへだれ。まへっけ。②車などに乗るとき膝に掛くる蔽ひもの。ひきがかしら(藤頭)名 膝の高くなりたる處。ひきがかた(久方)批 天又は天にあるもの及びひきがかため(藤固)名 演藝場などにて客のそつふを待つこと。

ひきかた(乾魚)名 ほしごかな。ひもの。ひきかぶ(藤株)名 ひざがしらに同じ。ひざかり(日盛)名 日の照る最中。ひさき(火先)名 ①火の燃えあがるさま。ほのほ。②火のもえうつりゆく路にあたる所。ひさぎ(楸)名 枝葉は桐に似、花は淡黄色にして紫色の斑點あり。

ひさぎ(鷺)名 ①ものをうる人。ひさく(杓)名 ①ひしやくに同じ。ひさく(引裂)他動カ四 ②さく。ひさく(鷺)他動カ四 ③うる。あきなふ。販。ひさく(提)他動カ下 ④(ひきさぐの杓)手にさげ持つ。ひさぐ。①「動カ下二ひしがる。ひさぐ(拉)他動カ四 ②ひしぐに同じ。③ひさく(がた)杓形名 ④塔上に置く寶珠。火珠。⑤杓の形に似たるもの。

ひさぐみ(藤組)名 ひざぐむこと。あぐら。

ひさぐむ(藤組)自動マ四 足を組みあはせて坐す。あぐらをかく。

ひさく(緋櫻)名 櫻の一種。花は小形四瓣にして華は長く垂れ、若は色甚だ赤し。ひさく(長)の道中を徒歩すること。ひさげ(提子)名 酒を盛りて盃に注ぐ器。注口あり鉷ありて提ぐべし。

ひさご(杓)名 ①水を汲むに用ゐるもの。今の杓よりも深し。②ひしやく。の總稱。

ひさご(瓠)名 ①ゆふがほ。ふくべ。へう類。ひさご(瓠瓜)名 ②昔の童子の髪のかんざし。額上にあけ左右に分けてゆひしもの。ひささき(杓)名 ①ひさかきに同じ。ひささら(藤皿)名 藤頭の中の皿に似たる骨。即ち藤蓋骨。

ひさし(廂)名 ①古の殿づくりの母屋のめぐりの狭きところ。後世は家の軒下に別に作りそへたる短き簷をいふ。庇。②軍帽などの額上に差出したる部分の稱。

ひさし(比周)名 組みあひて互に悪事をかくしあふこと。又ぐるになりて悪事をたすけあふこと。

ひしう(美醜)名 びあく(美悪)に同じ。

ひしがた(菱形)名 ①四邊形の各邊が相等しく且つすべての角が直角にあらざるもの。ひしき(引敷)名 ①しとね。ひしき。引敷物。ひしき(火敷)名 ②からしきに同じ。ひしき(鹿尾菜)名 ③海藻の一種。海中の石上に生ず。長さ二三寸。鼠の尾に似て黒く、脆くして味淡し。ひしき。

ひしぐ(拉)他動カ四 ①しとね。ひしぐ。おしつぶす。②くじきとむ。③自動カ下二 おおされてつぶる。挫け砕く。④くじきはむ。

ひしく(ひ)名 ①水邊に棲む鳥。好みて葉を食ふよりいふ。雁よりも大きく翅は黒く腹は白く背は茶褐色なり。

ひし(い)名 ①鰻。海産の小魚。形鰻に似、背部背黒色にして腹部は白色、體側に若緑色の縦線あり。鮮なるは味好し。乾してたづくりとす。ひし。

ひし(日仕事)名 晝間になす仕事。ひし(被)名 ①被子植物名 ②胚珠は柱頭の子房内に包まれ花粉は受粉の際其の上を分泌する腺。

ひし(皮脂腺)名 ③皮膚にありて脂肪を分泌する腺。

ひしつ(美質)名 ④うつくしき性質。ほむべき性質

ひさし(久)形二時を經ること長し。時ながし。永久なり。

ひさし(日差)名 日光の窗などへさし入ること。ひさし(日差)名 ①束髪の一種。額部の髪を前方に突出すやうに結ひたるもの。又其髪を結へる婦人。②女學生の異稱。

ひさし(久振)名 ③逢はずして久しく時日を経ること。④の面會。⑤の手紙。急報。

ひさつ(飛札)名 ⑥至急におくり來る手紙。急きひさつ(飛札)名 ⑦膝の下に敷く薄縁。大さ三尺四方ばかりの物。帙。⑧遊藝の束脩。

ひさ(久)副 ⑨ひさしく。面會せざること。ひさ(久)副 ⑩ひさしく面會せざること。

⑪長らく其物事を絶ちてありしこと。拍子。ひさ(久)副 ⑫膝拍手名 膝をうちてとる。

ひさ(久)副 ⑬ひさしくに同じ。ひさ(久)副 ⑭自動カ四 膝枕をなす。

ひさ(久)副 ⑮他人の膝に頭をもたせて臥すこと。

ひさ(久)副 ⑯自動マ四 地に膝を衝きて尻ひさ(久)副 ⑰「膝廻」名 貴人の前にて跪きて體を轉すること。

ひさん(砒酸)名 ⑱無水亞砒酸を強硝酸にて熱して得る結晶體。顔料又は染料とせらる。

ひさん(悲惨)名 ⑲かなしくいたましきこと。あはれなること。⑳かなしむこと。

ひさん(潮散)名 ⑳ひるがりたること。擴散。

ひさめ(氷雨)名 ①雷。又、あられ。ひさめ(大雨)名 ②おほあめ。甚雨。ひさめ(私語)自動カ四 ③ささめく。ひさもと(藤元)名 ④藤の近邊。座の近所。⑤宮城又は朝府のある地。⑥父母の手許。膝下。

ひさ(藤)名 ⑦「ばいだての類」ひさ(藤)名 ⑧藤につくるよろひ。ひさ(火皿)名 ⑨小銃の火薬をもちとる。ひさ(煙管)名 ⑩煙草をつめこむ處。

ひさ(日晒)名 ⑪日光にさらすこと。ひさ(葵)名 ⑫水草。葉は中部の膨大せる長き柄を有し花は白色にして四箇あり。果實は角状の突起を有し種子は食ふべし。⑬ひしがたの略。

ひ(餅)名 ⑭ひしもちに同じ。ひ(簞)名 ⑮頭部に鋭利なる鐵をつけ魚を刺す具。⑯岐になりたる鐵に長き柄をつけたる武器。さすまた。⑰鐵製の刺を多く設けたる防禦具。さかもぎ。

ひ(祕事)名 ⑱祕密の事柄。ひ(非時)名 ⑲僧家にて、午後の食事の稱。ひ(微志)名 ⑳自分の志の謙稱。ひ(美事)名 ㉑よきこと。うつくしきことから。賞むべきこと。ひ(美辭)名 ㉒うつくしきことば。美しき文句。ひ(修辭)名 ㉓「を研究する學問。ひ(學)名 ㉔名語を完全に美しく使ふこと

ひし(比周)名 組みあひて互に悪事をかくしあふこと。又ぐるになりて悪事をたすけあふこと。

ひし(美醜)名 びあく(美悪)に同じ。

ひしがた(菱形)名 ①四邊形の各邊が相等しく且つすべての角が直角にあらざるもの。ひしき(引敷)名 ②しとね。ひしき。引敷物。ひしき(火敷)名 ③からしきに同じ。ひしき(鹿尾菜)名 ④海藻の一種。海中の石上に生ず。長さ二三寸。鼠の尾に似て黒く、脆くして味淡し。ひしき。

ひしぐ(拉)他動カ四 ①しとね。ひしぐ。おしつぶす。②くじきとむ。③自動カ下二 おおされてつぶる。挫け砕く。④くじきはむ。

ひしく(ひ)名 ⑤水邊に棲む鳥。好みて葉を食ふよりいふ。雁よりも大きく翅は黒く腹は白く背は茶褐色なり。

ひし(い)名 ⑥鰻。海産の小魚。形鰻に似、背部背黒色にして腹部は白色、體側に若緑色の縦線あり。鮮なるは味好し。乾してたづくりとす。ひし。

ひし(日仕事)名 ⑦晝間になす仕事。ひし(被)名 ⑧被子植物名 ⑨胚珠は柱頭の子房内に包まれ花粉は受粉の際其の上を分泌する腺。

ひし(皮脂腺)名 ⑩皮膚にありて脂肪を分泌する腺。

ひし(美質)名 ⑪うつくしき性質。ほむべき性質

ひし(久)形二時を經ること長し。時ながし。永久なり。

ひし(日差)名 日光の窗などへさし入ること。ひしがた(菱形)名 ①四邊形の各邊が相等しく且つすべての角が直角にあらざるもの。ひしき(引敷)名 ②しとね。ひしき。引敷物。ひしき(火敷)名 ③からしきに同じ。ひしき(鹿尾菜)名 ④海藻の一種。海中の石上に生ず。長さ二三寸。鼠の尾に似て黒く、脆くして味淡し。ひしき。

ひしぐ(拉)他動カ四 ①しとね。ひしぐ。おしつぶす。②くじきとむ。③自動カ下二 おおされてつぶる。挫け砕く。④くじきはむ。

ひしく(ひ)名 ⑤水邊に棲む鳥。好みて葉を食ふよりいふ。雁よりも大きく翅は黒く腹は白く背は茶褐色なり。

ひし(い)名 ⑥鰻。海産の小魚。形鰻に似、背部背黒色にして腹部は白色、體側に若緑色の縦線あり。鮮なるは味好し。乾してたづくりとす。ひし。

ひし(日仕事)名 ⑦晝間になす仕事。ひし(被)名 ⑧被子植物名 ⑨胚珠は柱頭の子房内に包まれ花粉は受粉の際其の上を分泌する腺。

ひし(皮脂腺)名 ⑩皮膚にありて脂肪を分泌する腺。

ひし(美質)名 ⑪うつくしき性質。ほむべき性質



ひせ

たすこと。「官金」  
—さい—罪「名法」委託物を費消したる犯  
びせう(前)「微小」名ちさきこと。こまかきこと。  
びせう(前)「微笑」名すこしわらふこと。にっこり  
わらふこと。ほゝむこと。  
びせう(前)「微笑」名すくなき。わづかなること。  
びせう(前)「美少年」名容色のすぐれた  
る少年。美少年「是昔紅顔」  
ひせき(砒石)名銀又は鉛の礦物に伴ひて  
存在する劇毒を含む礦物。色は黒きあり灰色  
なるあり。質脆くして熱すれば臭氣を發し濃煙  
を放つ。砒霜石。砒石。  
ひせき(不織)名大なる功績。「石材」  
ひせき(碑石)名いしづみ。たていし。又其  
ひせつ(眉雪)名眉の毛の雪の如く白きをいふ  
ひせつ(微雪)名少しのゆき。ちらちらとふる雪  
ひせふ(前)「婢妾」名そばめ。こしもと。  
ひせん(鄙賤)名いやしきこと。地位ひくきこと。  
ひくくいやしきこと。卑賤。「一の職」  
ひせん(飛泉)名高處より直下する水。  
ひせん(佛然)名副心安からぬ貌。忿る貌。  
ひせん(皮癬)名かいせんと同じ。  
—がさ—瘡「名前に同じ」  
—かき—搔「名ひぜんに罹りてあるもの」  
ひせん(美髯)名うつくしきあごひげ。  
—ころ—公「名美髯ある人」  
ひせんきよけん(被選舉權)名選舉せらるる

ひそ

資格あるものが其資格を認めらるる權利。「人  
ひせんきよけん(被選舉人)名選舉せらるる  
ひせん(たう)「(前)「眉尖刀」名なきなた。薙刀  
ひせん(どくり)「備前徳利」名備前焼の徳利。  
ひせん(やき)「備前焼」名備前和氣郡伊部村  
より産する陶器。故に伊部焼の名もあり。もと  
齋釜を焼きたるにて日本最古の陶處といふ。  
黒褐にして質堅く雅致多し。「うち」  
ひせめ(火攻)名火を放ちて攻むること。やき  
ひせめ(火責)名火にあぶりて拷問すること。  
ひそ(槍管)名槍の小丸太の稱。槍管。  
ひそ(砒素名色)灰白色の金屬性光澤を有  
する脆き非金屬。熱すれば一種の臭氣を放  
て氣化す。極めて有毒なり。雞冠石又は雄黃  
となりて天然に存在す。  
ひそ(飛鼠)名動物。かうりりの異名。  
ひそ(鼻祖)名始めの祖。先祖。元祖。  
ひそ(皮層)名皮のかきなり。  
ひそ(密竊)名人に知らせざる。人目  
をさぐる。しのびやか。ないしよ。  
ひそ(密)「密」名人に知られじと隠して。しの  
びやかに。こっそりと。ないしよ。  
ひそ(秘色)名青磁の名。瑤璃色。  
—いろ—色「名」瑤璃色。重衣の色  
目。表は經紫にして緯青なる織色にして裏は  
薄色なるもの。

ひそ

ひそく(卑俗)名いやしくして品格なきこと。  
ひそく(匪賊)名むぼんをくはだつるもの。多  
人数組をなせる盜賊。「の。即ち姪甥等。  
ひそく(車屬)名血統上にて自己の目下のも  
—しん—親「名自己よりひくき親族」  
ひそく(卑族)名身分いやしきやから。  
—を伺ふ。句「顔色を窺ふ。人の機嫌を伺ふ」  
ひそく(美俗)名うるはしき風俗。はむべきな  
らばし。  
ひそ(非素數)名素數ならざる數。  
ひそ(密)「密」名副密に物するさまにふ語  
しのびやか。こっそり。悄悄。「一語す」  
—ばなし—語「名聲低くして話すこと。さ  
さやきこと。ないしよ。ばなし」  
ひそ(潜)「潜」自動マ四「ひそむやうになる。かく  
る。しづかになる。ひっそりす。おちつく。ね  
むりにつく。ねむる」  
ひそ(鬚)「鬚」名眉のひそむこと。  
—にならふ。句「越の美人西施が心を病みし  
とき眉ひそみてありけるを醜女見てかくすれば  
美しく見ゆるならんと思ひて己もまた眉をひそ  
めたりといふ故事に出づ」よしあしの差別も知  
らず安りに人の眞似をなすにふ。  
ひそ(潜)「潜」自動マ四「かくれてゐる。しのびて  
ゐる。かくる。草に—」の内部に存在して米  
だ外部に發現せず。「他動マ下二ひそむやうに

ひた

す。ひくす。  
ひそむ(鬚)「自動マ四」眉の邊に皺よる。し  
かむ。老いて口すけむ。「他動マ下二眉の間  
に皺を寄す。「眉を—」  
ひそめく「密語」自動カ四ひそくと語る。さ  
ひそめに「密」副ひそめて。ひそかに。  
ひそやか名しのびやか。悄悄。「敷が」  
ひそる「乾反」自動ラ四かわきてそりかへる。「板  
ひた(引板)名ひきたの約。「すなは」  
—の。かけなは「懸繩」名引板をなら  
ひた(直)「接頭」ひたすらに。直らに。などの意に用  
ゐる語。「くれなる」—かぶと「純」  
ひた(壁積)名衣裳・袴などに細く折り又は縫  
ひ付けたる皺。  
ひた(鏝)名粗悪なる錢の稱。びたせん。鐵錢。  
ひた(肥大)名こえふとりたること。  
ひた(媚態)名こびたるさま。なまめくさま。姿  
ひた(眉黛)名まゆすみ。「態」  
ひた(緋桃)名緋桃。桃の一種。花深紅色  
にして重瓣なるもの。  
ひた(悲悼)名人の死を悲しみてなげくと  
ひた(非道)名道理ならぬこと。無理。  
非理。「人情に外れたること。殘酷」  
ひた(眉刀)名なきなた。眉尖刀。  
ひた(火道具)名發火する器械。火器  
ひた(直押)「直押」副ひたすら進みて。しやに  
むにおして。

ひた

ひた(おもて)「直面」名「臆面なきこと。うちつ  
け。「—にはいかでか現はし給はむ」  
ひた(おもむき)「直趣」副ひとむきに。  
ひた(す)「一途」  
ひた(かぶと)「直兜」名一同揃ひて甲冑を帯  
したること。  
ひた(き)「動」雀大の鳥。頭黒くして白き  
細斑あり。額・頬・背・翅は赤色にして黒斑  
あり。嘴・脚は蒼黒色なり。秋の未來によく轉る  
ひた(き)「直黄」名全體黄色なること。  
ひた(き)「火燒」名古昔家の内外を照すた  
め夜間にたきびにはびかがりびなどたく  
こと。炬。「—わらは」「爐」の古稱。  
—や—屋「名」衛士などのひたきして夜  
を守る小屋。「幽かに光りて人氣少く」  
を焼く小屋。  
ひた(く)「日闇」自動カ下二日影高くなる。日  
ひた(くれなる)「直紅」名全體のくれなる  
なること。みなあかきこと。  
ひた(く)「直黒」名全體の黒きこと。「なる心」  
ひた(ころ)「直心」名ひとすなる心。一途  
ひた(さ)「直懸」名一途にさわきたつるこ  
ひた(し)「簾出」名簾にてひたる層。「と」  
ひた(し)「常足馬」名常の足ぶかひに  
歩む馬。なみあしの馬。  
ひた(し)「浸物」名料理の一種。蔬菜をゆで

ひた

て醬油に浸したるもの。  
ひた(しろ)「直白」名全體の白きこと。  
ひた(す)「養」他動サ四「日足の養養ひ育つ。  
そだつ。如何にして—し奉らむ」  
ひた(す)「浸」他動サ四「水中に漬く。つく。●  
濡らし濕す。ぬらす」  
ひた(す)「只管」名副一向に。一途に。ただ—  
—に副前に同じ。  
ひた(せん)「鏝錢」名なべせん。びた。  
ひた(た)「纒」副わづかに。  
ひた(た)「酒」自動カ下二取締なくなる。隠る  
るまなく見ゆ。つまかくしなく見ゆ。明。混。  
ひた(た)「飛彈工匠」名古昔、毎年飛  
驒國より京都に召されし木工。●轉じて凡て  
木工の稱。大工。  
ひた(た)「直垂」名昔時の庶民の服。足利  
義満の頃より武家の禮服となる。紗・生絹・精  
好等にて作る。方領にして紋  
無し。菊綴・胸紐皆組緒  
にして袖括あり。裾は  
袴の内に入る。とは踝に  
及ぶ袴を用ひたりしが後世には長袴を用ひ  
たり。地色・文は衣・袴共に同じ。●ひた(た)れ  
ぶすまの略。  
—ぶすま—「一袋」名領と袖とをつけたる袋。  
ひた(ち)「肥立」名ひだつこと。「小兒の—」  
ひた(ち)「常陸帶」名ひだつしへ正月十四



日に、常陸國鹿島神社の祭禮に男女各思ふ男女の名を記して神に供へたる布の帯。巫の結びて頰つを受けて婚を卜せり。これを帯占といふ。今古集一東路の道のはてなる一かことばかりも逢はむと思ふ。

ひたつ(肥立)自動タ四。日を経るに従ひて成長す。「赤子」日を経るに全快す。病人一。

ひたつかひ(直使)名。わざく。其事のたひたつち(直土)名。土に接着すること。ちべた。土間。

(ひたつてんわう)敏達天皇第三十代の天皇御名は淳中倉大珠敷。在位十四年。壽四十八。

ひたてり(直照)名。てりてること。いたてりひたと(直)副へだてなく。ただちに。ちかに。びたり。一寄り沿ふ。頓。

ひたぬれ(直濡)名。全體ぬる。すぶぬれ。ひたばしり(直走)名。やますにいそぎてはしるとひたはだか(直裸)名。まるはだか。

ひたひ(類)名。顔の上部、髪のはえぎはより肩までの間。古昔、女房の装束のとき、髪上とおほひかづらのやうにする髪飾の具。冠又は烏帽子の額に當る所の名。薄。一物の差出でたる處。「浪かゝる岸の一のめなれ木の」。

一のなみ(波)名。老年になりて額にふる。

一を鳩む。句。多人數の者相集りて相談をこらす。

ひたひがね(代)額金。名。軍用の鉢巻の額にあたる部分に入れたる鐵。題鐵。

ひたひがみ(代)額髪。名。額の上の毛髪。まへがみ。ぬかがみ。

ひたひきは(代)額際。名。額のはえぎは。

ひたひじり(代)額白。名。馬のつきじろ。

ひたひつき(代)額付。名。額のやうす。

ひたひえぼし(代)額烏帽子。名。額に附くる小き烏帽子。古童子のつけたるもの。

ひたひ(代)千鯛。名。薄鹽にして乾したる鯛。式の贈物などに生なるもの。得難きとき代用す。

ひたびと(飛驒人)名。ひたたくみに同じ。

ひたごころ(一心)名。ひたすらなる心。

ひたご(火玉)名。玉の如き状をなして飛ぶ怪しき火。ひのたま。煙管の火皿につめて火をつけたる煙草の小ききかたまり。

ひたごまひ(ふだ)日給簡。名。古殿上人の名を記したるふだ。

ひたみち(直路)名。ひとすぢ。一途。

一に副ひたすらに。ひとすぢに。

ひたん(悲歎)名。かなしみなげること。涙。

ひたん(飛濺)名。甚だはやき水流の瀾。

ひたん(飛彈)名。とび來る彈丸。

ひたん(美談)名。賞すべきはなし。よきはなし。

ひたん(美男)名。容貌うるはしき男子。

一し(一子)名。前に同じ。

ひため(大雨)名。おほあめ。ひさま。

ひため(襪履目)名。ひだに同じ。

ひたもの(頓)名。一向。ひたすら。

ひたやごもり(直隠)名。何の理由もなくひたすらに引籠ること。一に情なかりしかば。

ひたら(干鱈)名。鱈を薄鹽にして乾したるもの。

ひたらす(日足)自動サ四。日足りの敬語。成長す。人と成る。「何時しかも一しまして」。

ひたり(左)名。人の身の南へ向ひて東に當る方。左方。右方の對。左方の手。酒を飲む。一左手をのみて(鑿手)といふに出づ。一が利く。

ひたりうち(左)左願。名。樂隱居の境遇。

ひたりがな(左假名)名。漢字の左方に施すふりかな。

ひたりきき(左利)名。右手よりも左手の方きくと。酒を好む。又其人。

ひたりぎ(左利)名。左利の。同じ。

ひたりさま(左様)名。正道にたがふ。左道。

ひたりづま(左様)名。衣服の左方にある袂。

ひたりなは(左繩)名。左へ廻してなひたる。

ひたりま(左前)名。衣服の右の衽を左の衽の外へ合せて着ること。左衽。逆になりゆくこと。運の悪くなること。

ひだり(みぎ)左右。名。左と右との位置の顛倒せること。歩調をとる時に左右の兩足を進むる順番に注意を與ふる號令。

ひだり(みぎ)に(左右)副。いろいろ。かれこれ。

ひだり(みぎ)左向。名。左方へ向くこと。

ひだり(みぎ)左文字。名。文字を裏返したる形にかくもの。錢の文にもいふ。傳形。

ひだり(みぎ)左曲。名。左方へ曲むこと。

貧賤なる人が美しき妻を持つこと。

ひだり(みぎ)左縫。名。よりを左方へかくること。又其絲。

ひたる(浸)自動ラ四。水につかる。濡れとほひだるし。饑形。一腹減りたり。饑えてあり。ひもじ。

ひたれ(驛)名。鳥の尾の肉。あぶらじり。

ひたせ(頓丘)名。小きさな。小山。

ひた(脇)名。かひなとただむきとの間。臂。

手の關節の折り曲る外側。肘。凡て臂に似て曲り出でたるもの稱。「金」にいふ。一をひく。句。他人の爲さんとすることを妨ぐる。一をまく。句。腕をまげて手枕とするをいふ。

ひち(泥)名。どろの古言。

ひちかけ(肘掛)名。ひちをもたせかくる所。

けふそくに同じ。ひちかけまどの略。

一まで(一箇)名。坐して肘をかける意。床の上一尺二三寸許の所に明けたる窗。

ひち(かき)肘笠。名。肘にて頭上をおほひて笠にかふること。ひちかきあめの略。

一あめ(一雨)にはかにして肘笠にて防ぐ雨の義にはか雨。

ひちがね(肘金)名。開戸のくるもの用具。鐵にて肘の如く曲けて作り、戸に打附け、肘壺と相合ひて戸を開閉するもの。「すの把手」。

ひちぎ(肘木)名。うでぎ。曲柄。ひちぎ。

ひちしや(被治者)名。送。權力關係上にて治者の統治を受けるもの。即ち臣民。

ひちち(曾祖父)名。祖父又は祖母の父。ひおほ。ひいぢぢ。

ひちちか(一肘近)副。なれなれしく。氣高からず。一親は一さすがに愛敬づきたる方。

ひちつき(肘突)名。机の上に置きて肘をつき凭るに用ゐる小き蒲團。肘托。

ひちつば(肘壺)名。開戸のくるもの用具。鐵にて壺の如く作り、柱に打附け、肘金と相合ひて戸を開閉するもの。樞鈕。

ひちて(ばう)肘鐵砲。名。肘を張りて突きぬくこと。挑まれたるをはねつくること。

ひちばる(肘張)自動ラ四。肘を張り出す。

ひち(意地)をはる。まけじと競ふ。

ひち(ブトン)肘蒲團。名。ひちつきに同じ。

ひち(まき)臂巻。名。くしろに同じ。「と」。

ひち(まくら)脇枕。名。己が腕を曲けて枕とす。

ひち(ん)微塵。名。こまかなるちり。「いとこ

まかなるもの。みぢん。

一せつ(一説)名。光の本性に關する説。發光體は極めて輕微なる一種の塵を發射するものにて吾人の光を感じるは此の塵の眼を刺撃するに因るといふ説。

ひち(もち)肘持。名。肘を張りて行くさま。

ひち(やうぎ)一種定規。名。定規に細長きみぞをほり刻みたるもの。

ひち(ゆう)比重。名。物體の重量がこれと同容積なる攝氏四度の蒸溜水の重量に對する比。金は一九二、銀は一〇五なるが如し。

一けい(一計)名。液體の比重を測るに用ゐる器。上部は細くして目盛ありて中腹の膨大せる硝子管の下端に水銀を入れ之を液中に直立して浮かしむる装置。重き液には沈むこと少なく輕き液には沈むこと深きを以て液面が接する所の目盛を見て其比重を知り得。

一ビン(一瓶)名。液體又は粉狀の固體の比重を測るに用ゐる硝子瓶。瓶の重さと瓶に水を入れたるときの重さとを測らんとする物質を充したるときの重さとを知りて比重を測定す。

ひち(ゆう)微衷。名。自分のまごころの謙稱。わづかなるまこと。寸志。微意。

ひち(ゆう)鼻柱。名。はなばしら。「美人」。

ひち(よ)美女。名。容貌美しき女。みゆき女。

ひち(よ)がね(鉸具)名。鐵鑿の中に前後に回

轉する小鐵片ありてこれに革紐の孔を通し緊めくゝるに用ゐるもの。昔時は鏝を釣るに用ゐる。現今は多く帶革等に使用する。かこ。かこがしら。びとうがね。ちからがね。へき敷。ひちよすう(被除敷)名(敷)或敷にて除せらる

ひちりき(筆箋)名雅樂に用ゐる管樂器。形短き笛に似て表七孔裏二孔あり頭にした(蘆舌)を挿して堅に吹く。ひちり(こ)泥(名)こひぢ。どろ。ひちりめん(緋縮緬)名緋色に染めたる縮緬

ひつ(櫃)名匣の大形にして蓋あるものの總稱。ひつ(鞆)名彈正臺の次官。大小に分る。ひつ(譯)名さきばらひ。みちおさへ。一たとどむ。句貴人の途中にとまり給ふにさふ。ひつ(一匹)名ひきと同じ。つれあひ。めをと。ともがら。たぐひ。あひて。とも。さそひ。つむ。ひつ(氷頭)名鯨鮭などの頭蓋骨。透明にして氷の如く脆く柔らかなり。刻みて食用とす。一(陰)

ひつ(秀)自動タ下二(引)ひいづに同じ。ひつ(一)筆意(名)書きたる文字のおもむき。ふてつ。かひ。ひつ(一)日次(名)ひなみ。ひとり。ひつ(一)えう(引)必要(名)必ず要ある。欠くべからざること。なぐてならぬ。の欠くる品。ひん(一)品(名)せひともいる品。なれば事

ひつ(一)筆架(名)筆を横にしてかけおく具。ふてかけ。筆床。筆峰。筆格。筆屏。ひつ(一)かう(引)筆耕(名)賃金を得て物を寫すこと。文筆によりて衣食すること。ひん(一)田(名)筆を以て硯の田を耕す義。文筆によりて衣食の道を立つること。ひつ(一)かみ(引)屈(名)ひかみに同じ。ひつ(一)かか(引)掛(名)ひかかると。ひかかると所

ひつ(一)かか(引)掛(名)ひかかると。ひかかると所見出す。ひつ(一)かく(引)掻(他動カ四)爪にて掻く。ひつ(一)かく(引)掛(他動カ下二)かけておく。掛代金を拂はす。ひつ(一)かた(引)切(他動カ上二)かたむき。あざむく。ひつ(一)かけ(引)掛(名)ひかかると。婦人の帯の結方の稱。お太鼓に結ばすに垂らしおくもの。ひつ(一)かつ(引)擔(他動カ四)勢あらしく。ひつ(一)かへす(引)返(他動サ四)ひきかへすに

ひつ(一)かへす(引)返(他動サ四)ひきかへすにひつ(一)き(火附)名火のつきうつさま。同じ。ひつ(一)き(筆記)名筆にて書き記すこと。書き取ること。海軍にて諸給與に關する軍務に従事する判任官の稱。差出す試験。ひつ(一)けん(一)試験(名)答案を紙に書き記し

ひつ(一)き(日次)名日毎の貢物。ひつ(一)ぎ(日嗣)名(日神の)大命を受け給ひ其大業を嗣ぎ嗣ぎに知し召し給ふ義。天皇の御位を申し奉る語。天位。ひつ(一)の(み)こ(一)御子(名)皇太子を申し奉る語。ひつ(一)ぎ(棺)名死人のかばれをさめ納れて葬るは。くわん。椁。棺槨。ひつ(一)き(筆)名筆。ひつ(一)き(筆)名筆。ひつ(一)き(筆)名筆。ひつ(一)き(筆)名筆。ひつ(一)き(筆)名筆。ひつ(一)き(筆)名筆。

ひつ(一)し(必至)名必ずその事情の到来すること。ひつ(一)し(必死)名必ず死すること。死を決して爲すこと。死力を盡すこと。しにものぐるひ。一の覺悟。ひつ(一)し(筆紙)名筆と紙。文句にあらはひつ(一)じ(羊)名動高高二尺許。長三尺許なるを常とす。牡に角ありて螺旋状をなし牝には角なし。體毛は柔軟にして卷縮す。性怯懦にして温柔なり。飼養して其毛を剪みて毛織物の原料に供せられ。肉は美味にして食用とす。一のあゆみ(一)歩(名)居所におもむく羊の歩の義。歩のいとものること。死に近づくとひつ(一)じ(未)名(羊の義)十二支の第八位。えとの條を見よ。昔の時刻の名。現今の午後二時。方角の名。西南と南との間の稱。ひつ(一)し(引)敷(名)ひしきに同じ。ひつ(一)じ(ぐさ)名(睡蓮)名蓮。葉は楕圓狀箭形をなし。花は白色にして八箇以上の瓣より成る。觀賞用として栽培せられ根は薬用に供せらる

ひつ(一)かい(必携)名必ず携ふべき入用のもの。ひつ(一)けん(筆硯)名ふてとすずりと。書翰文にて文筆にたづさはるもの。安否にいふ語。一益御多詳。ひつ(一)こ(跛)名足を引く意。足なへ。ちんば。ひつ(一)こ(ぬ)く(引)拔(他動カ四)ひきぬく。ぬきとる。ひつ(一)さい(筆才)名文才あること。文筆のほたらひつ(一)さ(提)他動カ下二手にさげ持つ。掲げ持つ。携へ行く。ひつ(一)さん(筆算)名書くと數ふると。物書く

と算用すると。數字を記して運算する算法。珠算の對。ひつ(一)さ(ら)ら(引)擡(他動ハ四)つかみとる。ひつ(一)し(必至)名必ずその事情の到来すること。ひつ(一)し(必死)名必ず死すること。死を決して爲すこと。死力を盡すこと。しにものぐるひ。一の覺悟。ひつ(一)し(筆紙)名筆と紙。文句にあらはひつ(一)じ(羊)名動高高二尺許。長三尺許なるを常とす。牡に角ありて螺旋状をなし牝には角なし。體毛は柔軟にして卷縮す。性怯懦にして温柔なり。飼養して其毛を剪みて毛織物の原料に供せられ。肉は美味にして食用とす。一のあゆみ(一)歩(名)居所におもむく羊の歩の義。歩のいとものること。死に近づくとひつ(一)じ(未)名(羊の義)十二支の第八位。えとの條を見よ。昔の時刻の名。現今の午後二時。方角の名。西南と南との間の稱。ひつ(一)し(引)敷(名)ひしきに同じ。ひつ(一)じ(ぐさ)名(睡蓮)名蓮。葉は楕圓狀箭形をなし。花は白色にして八箇以上の瓣より成る。觀賞用として栽培せられ根は薬用に供せらる

ひつ(一)じ(ゆ)つ(筆述)名文書にしてのべあらはすひつ(一)す(必)自動サ變かたくそれと定む。ひつ(一)す(ら)ら(引)擡(他動ハ四)つかみとる。ひつ(一)す(必)名かならずおとるふること。ひつ(一)せい(筆勢)名書きたる文字の勢。生。ひつ(一)せい(筆生)名文字をうつしとるもの。寫字ひつ(一)せい(畢生)名一生進。一の勇を奮ふ。ひつ(一)せき(筆蹟)名書きたる文字の風。ふてのあと。筆跡。書風。ひつ(一)せん(筆洗)名筆を洗ふ具。ふてあらひ。ひつ(一)せん(筆船)名ふていれ。ひつ(一)せん(筆戦)名文章にて議論の優劣を争ふこと。互に文章の優劣を争ふこと。ひつ(一)せん(必然)名必ずしかあること。一の出來事。ひつ(一)そく(通塞)名徳川時代に、士族以上

すると職名の音とをもちたるもの。  
 ひつたくる(引手繰)他動ラ四無理にとり去  
 ひつたつ(引立)自動タ四きはたつ。はゆ。  
 ①他動タ下二無理に連れ行く。きほひ。  
 ひつたん(筆端)名。筆のさき。文章のい  
 一のふうう(風雨)名。詩文の速かなるこ  
 と風雨の如きをいふ。  
 ひつたん(筆談)名。文字をかきて談話に代ふ  
 ひつたり名。副少の間隔もなく工合よくあ  
 るさまにふ語。しつくり。ひたし。  
 ひつち(筆致)名。ふてのおもむき。かきぶり。  
 ひつち(稱)名。刈りたる後に再び自生する稻。  
 ひつちば。ままばえ。おろかおひ。稻孫。  
 ひいね(稲)名。前に同じ。  
 ひば(穂)名。前に同じ。  
 ひつちう(匹儘)名。なま。たぐひ。  
 ひつちん(筆陣)名。文詞を以て議論の優劣を  
 争はんとするを軍事にたとへていふ語。  
 ひつちやう(訂正)名。副定めて、確にきつ  
 と。かならず。てつきり。  
 ひつちゆう(筆誅)名。罪惡を書きあらはしてこ  
 れを責むること。一を加ふ。  
 ひつちく(火筒)名。鐵砲。  
 ひつちく(引附)自動カ四。ひつたりとつく。男女  
 相通す。  
 ひつちける(引附)他動カ下二ひつちくやうに  
 ひつちり(引釣)名。やけど其他の傷により

皮膚のちぢみつるること。  
 ひつてき(匹敵)名。たぐふこと。ならぶこと。相  
 手となること。對手。「その勢一す」  
 ひつてん(空虚)名。空なること。皆無。  
 ひつとう(筆筒)名。ふてたて。  
 ひつとう(筆頭)名。ふてのさき。かきだ  
 し。ふてがしら。「連名の」  
 ひつさい(菜)名。種。つくづくしに同じ。  
 ひつどく(必讀)名。かならずよむこと。かならず  
 よむべきこと。「學生」の書。  
 ひつなます(氷頭論)名。料理の一種。氷頭を  
 細かく削りてなますとしたるもの。  
 ひつばく(逼迫)名。せまること。さしつまること。  
 ①資財乏しきこと。貧乏。「文の書き方」  
 ひつばく(筆法)名。筆遣の法。書法。  
 ひつぱり(引張)名。ひっぱること。①併  
 の二三人互につきはり合ふ見え。②路傍な  
 どに居て通行の男子をひっぱり姪をひさぐ女。  
 ③たご(鷹)名。一つの物を二人以上  
 て互にわがものとせんと競争すること。  
 ひつばる(引張)他動ラ四。ひきよめてはる。引  
 きよす。いさなひ引く。  
 ひつぷ(匹婦)名。ひとりの女。身分低きた  
 だの女。①物事にくらまたる女。  
 ひつぷ(匹夫)名。庶人の稱。たごのひと。平  
 人。①ひとりの男子。②物事にくらま

げらう(下郎)名。卑賤なる男。  
 ひのゆう(勇)名。血氣の勇。申しむべき勇  
 氣。小勇。  
 ひつべき(匹婦)名。身分の低きものども。愚  
 ひつべき(引倍木)名。ひきへぎに同じ。  
 ひつぼう(筆鋒)名。筆のはこびかた。文字  
 のいきほひ。①文句のいきほひ。  
 ひつぼく(筆墨)名。ふてとすみと。ふてすみ  
 ひつめ(蹄)名。蹄の意。牛馬羊等の趾端  
 にある堅固にして圓く厚き爪。  
 ひつめつ(必滅)名。かならずほろぶること。「生  
 者」會者定離。  
 ひつもん(華門)名。いばらにてつくりたる  
 門。しばの門。①轉じて貧家。  
 ひけいとう(圭竈)名。圭竈は竈を穿ちて  
 爲りたる門傍の小戸なり。貧賤なる者の住む  
 所の門牆をいふ。  
 ひつよう(必用)名。必ず用ゐるべきこと。缺くべ  
 ひつらう(角髪)名。みづらの轉。  
 ひつらう(筆勢)名。物を書く骨折。  
 ひつりよく(筆力)名。ふてのちから。筆勢。一  
 勁健。  
 ひじゆうわう(縦横)名。詩文などを自  
 ひてい(否定)名。非とすること。うちけすと。否決  
 ひめい(命題)名。主辭と賓辭と  
 の間に一致の存せざることを表はす判斷。例へ  
 ば日本人は西洋人にあらずと云ふが如し。

ひてい(尾紙骨)名。かめのをに同じ。  
 ひてう(飛鳥)名。空を飛ぶ鳥。  
 ひてき(美的)名。物事の美なるにふ語。  
 ひくわい(快感)名。美のために感ずる  
 快樂の念。  
 ひくわん(觀念)名。美に關しての觀  
 念。  
 ひせい(生活)名。美を人生の中心  
 とし、美によりて慰藉満足を得んと欲する生  
 活。  
 ひてきせん(避敵戰)名。敵を避けて戦ふ作  
 ひてん(批點)名。文章を添削批評などする  
 時、その傍にうつ點。①詩歌文章の訂正又は  
 批評。②訂正又は批評すべき箇所。けつてん  
 ひてん(飛天)名。天人。天女。  
 ひてん(飛電)名。いなづま。①到着せる電  
 報。  
 ひてん(秘傳)名。藝術などのひめて容易に人に  
 ひてん(悲田院)名。古、施樂院に屬し其  
 官人は藥袋を携へて京中を巡り、貧民、旅人  
 などの病に苦むものあれば藥を與へ、之を集め  
 て養ひし所。  
 ひてり(旱)名。夏季に永く降雨なくして晴大  
 ひと(人)名。動物中最も進化し最も上位に  
 あるもの。言語、思想、理性等其他、動物の有  
 し得ざる優秀なる性能を有し社會を組織す。  
 にんげん(人類)名。世の中の人。一に超ゆ。①  
 ほかのひと。他人。一の子。二我と。三おと

な。大人。成人。一にたる。然るべき人。相  
 應の人。一がたい。大君一人に對し奉り  
 て、天が下の人。これは君もも身を合せたり  
 といふべし。ひととなり。このたて。一  
 がわるい性行。①法。權利の主體たるもの。  
 なつと。①うちの人。②意中の人。戀人。一のこ  
 ひしき。  
 一は一代名は末代。何人死して其身は朽つ  
 るとも其名は後世に残るものなれば惡を爲さ  
 ず善を爲して後世に稱譽せられよとの意。  
 一を呪はば穴二つ。他を呪して死に致さ  
 んと欲せば途には其の報いて自己も死すべし  
 れば葬るべき穴二つ掘り置くべしとの意。  
 ひと(費途)名。費用のみち。つかひみち。  
 ひと(匪徒)名。むほんをなすやから。  
 ひと(一)對のなき數。ひとつ。一たひ。  
 ひと(一)接頭。或語に冠して「或」の意を表す  
 る語。「一とせ」或語に關して「一度」の意を  
 表する語。或語に冠してつねに異なる意を表  
 する語。「一風かはりて」或語に冠してみちた  
 る意をあらはす語。「一夜」或語に冠して  
 たゞそればかりの意を表する語。「たゞ」  
 ひと(肥土)名。おもに砂土及び粘土より成りた  
 る土にて耕作に適す。  
 ひとあき(人商)名。商家の子女を  
 誘ひ出して奴婢として賣買せるもの。鎌倉時  
 代頃流行はれたり。人身の賣買。

ひとあし(人足)名。人人のゆきき。「一繁し」  
 人行。  
 ひと(一)寐。名。ひとねむり。  
 ひと(一)氣。名。いきをつかぬこと。休  
 ますに勢のまよにつけてなすこと。①うんと力  
 をいること。②一度呼吸するほどの僅かの間。  
 ひと(一)家。名。いっかに同じ。  
 ひと(一)悲慟。名。いたくなげまかなしむこと。  
 ひと(一)飛動。名。とびうること。  
 ひと(一)微動。名。すこしうること。  
 ひと(一)人請。名。奉公人。雇人などの身  
 元引受人に立つこと。①他人の氣受。  
 ひと(一)人証。名。人証文。名。奉公人の身元  
 引受の證文。  
 ひと(一)人疎。名。人に親しみつか  
 ず。ひとげとはし。  
 ひと(一)人選。名。人をえらぶこと。人のえらび  
 ひと(一)人音。名。人の居り又は來るおと。人  
 のおとなひ。  
 ひと(一)人香。名。人の居るけはひ。人のに  
 ひと(一)人垣。名。人の垣の如くに立ちなら  
 ぶこと。  
 ひと(一)人影。名。人のかけの物に映るもの。  
 ひと(一)人嵩。名。ひととき。一段。一層。  
 ひと(一)人頭。名。人の頭の骨。されか  
 う。鬪。鬪。  
 ひと(一)人敷。名。ひとのかず。にんす。



冬猶枯れず。根は長く蔓延して繁茂し處々に葉を出す。根莖をわがねて橋などに懸けて觀賞す。いはかは石葦。●はらんの異稱。

ひとつばし「一橋」名まるきばし。獨木橋。

ひとつびとつ「一」副ひとつつことに。いぢち。

ひとつびる「獨子蒜」名種●にんにくの古

ひとつぶえり「一粒櫻」名ひとつぶより。

ひとつぶかのこ「一粒鹿子」名かのこしほりの甚細かきもの。

ひとつぶだね「一粒種」名ひとつりご。

ひとつぶて「入礫」名柔術などにて人を捉へて礫の如く投ぐること。

ひとつぶより「一粒櫻」名●一粒づよること。又その物。●多くの中よりくはしくすぐりよりたること。又その物。

ひとつべつひつひつ「獨籠」名●火床のたゞ一つなるへつひ。●昔男子が結髪せし頃、髪未だのびざる間たゞ月代と前額とを剃りたるもの稱。

ひとつぼし「一星」名夕方に始めて一つ見はる星。又明方にたゞ一つ残れる星。

ひとつづま「人妻」名●他人の妻。●孤松。

ひとつづまつ「一松」名たゞ一本生ひ立てる松。

ひとつづまみ「一撮」名●片手にてつまみ得る程の量。轉じてわづかの量。●敵をなぐりたふすに無造作なること。

ひとつみ「一身」名裁縫の語。長さ八尺乃至一丈一尺の幅の布帛にて仕立つる着物。

ひとつむすめ「一娘」名●ひとりむすめ。

ひとつもの「一物」名●たゞそればかりなるもの。●おなじもの。

ひとつや「一家」名山間又は野中などに隣に離れて一戸ある家。はなれや。一軒屋。孤舎。

ひとつれ「一連」名●ひとくみ。一隊。

ひとつて「一手」名●唯一人の仕業。一に受持つ。●一つにまともること。一括。一にまとも。●ひとくみ。一隊。●一回のわざ。[まひの]。●一種類。●射術にて矢二本の稱。

ひとつて「人手」名●他人のたすけ。他人の力。一を借る。●他人のしわざ。一にかゝる。●はたらく人。●(動)海産の下の動物。形平たくして四邊は深く五枚に分れて人の手の如く。又楓の葉の如し。故にもみぢ貝の名もあり。口は腹面の中央にありて肛門はこれに反対の方向背面に開く。腹面は石灰質に蔽はれて棘状の突起を有し、背面は柔軟なり、貝などを捕食す。小なるは腕の長さ一寸に過ぎざれども大なるは尺餘に達す。我國各地の海底に産す。ひとつて「人出」名●人の出でつどふこと。●海星。

ひとつてなし「人無」名●人らしくなき人。人たる資格なきもの。恩義又は人情を解せざるもの人非人。

ひとつてらふ「人術」自動ハ四●てらふに同じ。

ひとつとき「一時」名副●ある時。●しばらく。●暫時。

ひとつとせ「二年」名副あるとし。過ぎにしひとつとなり「爲人」名其人の性質。うまれつき。たち。もちまへ。性狀。

ひとつとなる「成人」自動ラ四●おひたつ。大人になる。成人す。●いきかへる。よみがへる。蘇生す。

ひとつとほり「一通」名●よのつね。つねなみ。一の技藝。尋常。●全體の概略。

ひとつとほり「一通」副ひとつたび。ひとつたり。一應。一回。一御覽せよ。

ひとつどほり「一通」名●人の往來。人のゆき。人行。

ひとつとり「人取」名●獸などの人を捕りて喰ふもの。ぬし。●多人數のものを二組にわけ互に敵の方のものをわが方へ來さんことを争ふ子供遊戯。

ひとつなか「人中」名衆人のなか。人のなみたひとつながれ「一流」名●一本の旗。●同じ流儀。同一の流儀。

ひとつなだれ「人頼」名聚集せる人の次第に押されてなだれ崩ること。

ひとつなぶり「人騙」名●他人をなぶること。

ひとつなみ「人波」名●聚集せる人のどよめくさま

ひとなみ「人並」名世間の人のなみ。尋常。

ひとなみなみ「人並並」名●ひとなみに同じ

ひとならはし「人習」名●世間のならはし。人の習慣。風習。

ひとなる「人馴」自動ラ下二●人の交際になる。●禽獸などが人に飼はれて馴れ親しむ。

ひとにぎり「一握」名●片手にてにぎる程の量。又は大きさ。又轉じてわづかなる量。●なぐりたふすに無造作なること。

ひとねむり「一眠」名●一たねむりにつくこと。●眠りて少しもさめぬ間。

ひとの「械殿」名●かはや。せつりん。廁。

ひとのみ「一吞」名●一口に吞み込むこと。●相手をあなどること。

ひとばえ「人映」名●子供などの他人の面前にてあまゆること。

ひとばぐさ「一葉草」名種●桐の異名。

ひとばしら「人柱」名●古島を築き又は橋柱を立てんとして成らぬ時などに、人を生けながらに水底に埋めしこと。河伯へ生贖とすといふ。

ひとばた「一端」名●器物に一杯になること。器に充すこと。

ひとばた「人膚」名●人のはだ。又人の膚の

ひとばな「一花」名●一輪の花。一残る女郎花哉。●只一時なること。わづかの間。●一度の榮華。一さかす。

ひとばなれ「人離」名●人里に遠きところ。

ひとばらひ「人拂」名●密談などのとき、に其席より他人を遠ざくること。屏人。●貴人の路を行くときに往來の人を去らしむること。喝道。

ひとひ「一日」名●いちにち。ひねもす。

ひとひと「一人」名●多數の人。●各箇の人

ひとひとし「一人」形二●人並なり。人らしくあり。

ひとひめぐり「太白神」名●一日廻りの義。陰陽家にて祭る神の名。金の精にして大將の象あり。兵凶を司る。日毎に方角をかへてめぐるといふ。

ひとふて「一筆」名●特に書きつくること。一申進候。●ちよつと書きつくること。●筆をやすめずに書き續けること。

ひとへ「一重」名●相重ならぬこと。ひと冠を形成すること。單瓣。●ひとへぎぬの略

ひとへぎぬ「一衣」名●衣の一重にて裏のなきもの。ひとへもの。●装束の下に重ねて着る衣單衣。

ひとへさ「一草」名種●桔梗の異名。

ひとへさ「一羽織」名●裏をつけぬ羽織。夏季に着用す。

ひとへさ「一物」名●衣の裏なくして一重なるもの。夏季に着用す。現今は専ら絹布綿布製のもの。名とし、麻なるは特にかたびらといふ。

ひとへに「偏副」二重にの義。ひとすぢに。ひたすぢ。

ひとほし「火點」名●火をともしこと。●火を

ひとほし「一頃」名●日暮の燈火を點すべき頃。

ひとどき「一時」名前同じ。

ひととま「人間」名●人の見ぬ間。人の居らぬ間。

ひととまうけ「人設」名●他人を待ち合はすこと。

ひととまかせ「人任」名●自分は爲さずして他人にのみまかせおくこと。

ひととまく「一幕」名●芝居などの一きり。一物

ひととまじはり「人交」名●他人とのまじはり。交際。

ひととます「人枅」名●城の枅形。軍勢を呈るため

ひととませ「人雜」名●人をませ加ふること。

ひととまち「人待」名●人の來るを待つこと。

ひとがほら「一顔」名●人待するらしき顔つき。

ひととまつ「一先」副この度はまつ。何はともあれちよつと。一旦は。

ひととまとめ「一纏」名●ひとつにまとむること。ひとつにくること。一括。

ひととまね「人眞似」名●他人の眞似。●人間

ひととまはり「一廻」名●一回めぐること。

ひととまへ「人前」名●諸人の見聞せる前。衆前。

ひととみ「瞳」名●人見の義。眼球の中の黒き部





ひな

ひとわろし(人惡)形一●性質わるし。●外聞わるし。  
 ひとをれ(一折)名●ひとふし  
 ひな(雛)名●孵化して間もなき鳥の子。ひよこ●女兒の玩物。小く人の形を作れるもの。ひな。ひいな。●ひなまつり。ひなあそび。  
 一のせつく(一節句)名三月三日の稱。雛祭をなすよりいふ。  
 ひな(部)名●部の外の地。ひな。邊鄙。  
 一のみやこ(一都)名●古諸國の國府の稱。ひな(雛)接頭或語に冠して小さき意を表する語。一形。  
 ひなあそび(雛遊)名ひひなあそびに同じ。ひなうるる(被囊類)名●海濱の岩石等に附着し、體の外面は草の如く硬き皮又は白き柔軟の皮を以て被はれ、二孔ありて水は其一より入り他より出づ。雌雄同體なり。  
 ひな(日永)名●日中の永きこと。春の日。  
 ひながた(雛形)名●物を造るときなどにその形を小さくかたどりたるもの。●書式。  
 ひなぎきやう(雛桔梗)名●原野に自生す。莖細く高さ七八寸、叢生して枝を分ち、花は桔梗に似て小形の青紫色なり。ひめぎきやう。細葉沙参。  
 ひなげし(雛芥子)名●高さ一尺許、葉は羽状に分裂し、花小さくして光る。色數種ありて

ひな

甚だ美なり。觀賞用として栽培せらる。虞美人草。美人草。麗春花。  
 ひなさき(雛尖)名●烏帽子の肩の中央小さく尖りたる處。●女子の陰部の溺孔の突肉。さね。吉舌。陰挺。  
 ひなし(日濟)名●借錢を日毎に若干づつ返濟し行くこと。●ひなしがねの略。  
 一がし(一貸)名●日濟金を貸す人。  
 一がね(一金)名●日毎に若干づつ返濟すべき約定の金。  
 ひなし(便無)形一●びんなし。  
 ひなた(日向)名●日の方の約日のさす方。日の照る處。陽。  
 一くさい(一臭)形●日向に乾せる衣服蒲一ぼかう(一)名●次に同じ。  
 一ぼこり名●日向に出で、暖まること。負喧。  
 一ぼっこ名●前に同じ。  
 ひなつぼし(葵惑星)名●けいわくせい(同)にひななる(雛)名●雛の雛。  
 ひなと(曉)名●あかつき。あけがた。  
 ひなどり(雛鳥)名●鳥の雛。  
 ひなは(火繩)名●竹の肉を叩き碎きて繩としたるもの。火を點じて永く消えず。  
 一づつ(一筒)名●火繩の火を用ゐて導火線に點火し彈丸を發射する装置の鐵砲。  
 ひなぶ(部)自動ハ上●ひなかく。ひなのふりをなす。一(ひたる心)

ひなに

二〇五六

ひなぶり(夷振)名●上古、歌曲を節奏の風によりて何振夷振といふ。其一曲の名。夷曲。●狂歌。  
 ひなべ(部邊)名●ひなの方。ひなの方。  
 ひなべや(竝屋)名●ならびてたてた家。  
 ひなぼる(日直)自動ラ四天氣晴る。ひまりになる。  
 ひなまつり(雛祭)名ひひなまつりに同じ。  
 ひなみ(日直)名●日毎にものである。●日の順序。日次。●天氣の模様。今日は―がよい。  
 ひなん(非難)名●非を難すると。過ちを詰ると。  
 ひなん(避難)名●災難をさくこと。●批難。  
 一ち(一地)名●避難してある土地。  
 ひなん(美男)名●容貌美しき男子。  
 一し(一子)名●前に同じ。  
 一かつら(一葛)名●さねかつらに同じ。  
 ひなや(雛屋)名●雛を飾る小さき家。  
 ひなやし(雛社)名●小さき社。  
 ひならず(不日)副●ちかきうちに。ほとんど。とほからず。  
 ひにく(皮肉)名●皮と肉と。●骨身にこたふるが如き切なる非難をなすこと。一を言ふ。●意地悪く間接に反對すること。●彼は是と入りくみたる内部の關係。一をいふ僻ある人。  
 一や(一屋)名●他人に對して皮肉なる言ひにく(飛肉)名●鳥類の稱。●明珠彈子

ひにく(脾肉)名●くらはぎの肉。

ひにく(脾肉)名●股の肉。

一のたん(一歎)名●無事にして功名を立つること能はざるをなげくこと。

ひにけ(毎日)副●ひごとに。まいにち。

ひにそひて(日添)副●時日を経過するに従ひて。日を送ひて。

ひにそへて(日添)副●前に同じ。

ひにひに(日日)副●にちに。毎日。

ひにまし(日増)副●日にまさりて。毎日加

ひにん(非人)名●罪人。●乞食。●(佛)人間に非ざる鬼畜の類をいふ。●承認せぬと

ひにん(否認)名●否認する権利。

一けん(一權)名●否認する権利。

ひね(晩稻)名●おくの稱。

ひね(陳)名●去年以前に成熟せる穀物。●賣れ残りて古びたるもの。

ひねくる(弄)他動ラ四●手さきにてひねりて弄ぶ。●弄ぶ。●弄ぶ。●弄ぶ。

ひねこめ(陳米)名●米のひねたりたるもの。

ひねずみ(火鼠)名●支那にて南荒の外なる火山に住み火に焼ぬといふ鼠。其毛を取りて火浣布を織るといふ。

ひねつ(比熱)名●物體の溫度を一度だけ昇

するに要する熱量と、此物體と等質量の水の溫度を一度だけ昇するに要する熱量との比。

ひね

即ち鐵は○・一、銅は○・〇九三、銀は○・〇五六、金は○・〇三二、水は一、空氣は○・二四

ひねの

ひねつ(微熱)名●すこしの熱。「なるが如し」  
 ひねん(一年)名●朝としどし。年年。  
 ひねもす(終日)名●朝より夕まで。  
 ひねり(拈捻)名●ひねること。よぢりまはすこと。●武器の名。そてがらみの類。ねぢ。●尋常に異なりてねぢられたること。●包紙の上部をひねりたる視儀又は餐錢。  
 一どめ(一止)名●いとせりに同じ。  
 ひねり(いたす)拈出(他動サ四)さままに考へてつくり出す。  
 ひねり(拈書)名●數枚のたんざく(短冊)又は紙に各事を記して折り拈り圖とし探りとりて占ふもの。もみくじ。●書状をほそながく拈きその端を拈りて折りたるもの。たてぶみ。捻文。  
 ひねる(拈捻)他動ラ四●指のはしにて振ぢまはす。紙捻を―●曲げめぐる。まはす。●體を―●自動ラ四尋常と異なるさまをなす。片意地なることを行ふ。すれる。拗。  
 ひのえ(丙)名●火の兄の義。えとの條を見よ。  
 ひのおまし(畫御座)名●古昔、清涼殿において、主上、畫のほどおはしまし、所。  
 ひのき(檜)名●檜に同じ。  
 ひのき(楡)名●楡の皮にて造りたる綱。  
 ひのき(楡)名●楡の皮にて造りたる綱。  
 ひのき(楡)名●楡の皮にて造りたる綱。  
 ひのき(楡)名●楡の皮にて造りたる綱。

ひのは

二〇五七

歌舞伎芝居の舞臺。●其道に長じたる者が自己の技倆を研ぎ又は見はすに適當なる所の官幣大社。天照大神を祀る。  
 ひのさうぞく(書裝束)名●束帯すること。ひのよそひ。書裝。(衣冠又は直衣なることをのめ裝束といふに對す)  
 ひのし(火熨)名●底の滑かなる金屬製の器。中に火を入れ、其底をあて、布帛の皺などを熨すもの。のし。  
 ひのと(丁)名●火弟の義。えとの條を見よ。  
 ひのと(晝殿)名●晝間居る宮殿。  
 ひのべ(日延)名●限れるひにちを延ばすこと。  
 ひのみ(火見)名●ひのみやぐらの略。  
 一やぐら(一槽)名●火災のとき登りて其遠近を望むに設けたる槽。ひのみ。望火樓。  
 ひのみさき(じんじや)名●日御碕神社。出雲國にある國幣小社。素戔鳴尊を祀る。  
 ひのもと(日本)名●我國の別稱。  
 ひのよそひ(書裝)名●ひのさうぞくにひのよそひ(書裝)名●ひのき。又、あすはひのきの一名。●檜の葉。  
 ひは(乾葉)名●大根の莖葉を乾したるもの。  
 ひは(肥馬)名●こえふとりたる馬。  
 ひは(琵琶)名●一種の絃樂器。楯圓形にして、長さ二尺餘、四絃四柱、抱きて撥



ひは

ひは(一)枇把(名)葉の形、琵琶に似たれば名とす。高さ丈餘葉は長大たして鋸齒細かく背に褐毛あり。冬月、枝の梢毎に、二三寸の穂を出して小白花簇り生ず。實は夏の半に熟す。圓形にして大ききんかんの如く、黄白色にして微毛あり。一枝に二三十簇、葡萄の如し。肉少く核大なり。食用に供せらる。樹久しきを歴ざれば實を結ばず。みは。

ひは

ひは(二)枇杷(名)葉の形、琵琶に似たれば名とす。高さ丈餘葉は長大たして鋸齒細かく背に褐毛あり。冬月、枝の梢毎に、二三寸の穂を出して小白花簇り生ず。實は夏の半に熟す。圓形にして大ききんかんの如く、黄白色にして微毛あり。一枝に二三十簇、葡萄の如し。肉少く核大なり。食用に供せらる。樹久しきを歴ざれば實を結ばず。みは。

ひは

ひは(三)枇杷(名)葉の形、琵琶に似たれば名とす。高さ丈餘葉は長大たして鋸齒細かく背に褐毛あり。冬月、枝の梢毎に、二三寸の穂を出して小白花簇り生ず。實は夏の半に熟す。圓形にして大ききんかんの如く、黄白色にして微毛あり。一枝に二三十簇、葡萄の如し。肉少く核大なり。食用に供せらる。樹久しきを歴ざれば實を結ばず。みは。

ひは

ひは(一)枇把(名)葉の形、琵琶に似たれば名とす。高さ丈餘葉は長大たして鋸齒細かく背に褐毛あり。冬月、枝の梢毎に、二三寸の穂を出して小白花簇り生ず。實は夏の半に熟す。圓形にして大ききんかんの如く、黄白色にして微毛あり。一枝に二三十簇、葡萄の如し。肉少く核大なり。食用に供せらる。樹久しきを歴ざれば實を結ばず。みは。

ひは

ひは(二)枇杷(名)葉の形、琵琶に似たれば名とす。高さ丈餘葉は長大たして鋸齒細かく背に褐毛あり。冬月、枝の梢毎に、二三寸の穂を出して小白花簇り生ず。實は夏の半に熟す。圓形にして大ききんかんの如く、黄白色にして微毛あり。一枝に二三十簇、葡萄の如し。肉少く核大なり。食用に供せらる。樹久しきを歴ざれば實を結ばず。みは。

ひは

ひは(三)枇杷(名)葉の形、琵琶に似たれば名とす。高さ丈餘葉は長大たして鋸齒細かく背に褐毛あり。冬月、枝の梢毎に、二三寸の穂を出して小白花簇り生ず。實は夏の半に熟す。圓形にして大ききんかんの如く、黄白色にして微毛あり。一枝に二三十簇、葡萄の如し。肉少く核大なり。食用に供せらる。樹久しきを歴ざれば實を結ばず。みは。

顔。①づき／＼痛む。ひり／＼痛む。うづく。  
 ひびり「縛」名ひび。「疼痛」  
 ひびる「沖」自動ラ四ひら／＼と飛び上がる。高く飛び上がる。  
 ひびる「蛾」名動。①火取出。②蠶蛾。  
 ひふ「被風」名羽織に似て狂深く左右に合ひまるえりの製なるもの。もとは僧隠者の用なりしが今は老人又は女兒など着用す。  
 ひふ「皮膚」名身體をおほひ包む薄き膜。高等動物のは表皮と真皮とより成る。かは。はだ。  
 ひふ「鄙夫」名性質いやしき男。「はだへ」  
 ひふ「日歩」名金の利息を日割りにて定むること。①銀行などにて元金百圓に對する一日の利率。  
 ひふ「日賦」名借りたる金を日々に何程づか返却すること。又其借金。ひなし。  
 ひふ「匪武」名武事に長ぜざること。  
 ひふう「悲風」名ものかなしげに吹く風。「千里より來る」①秋の末の風。  
 ひふう「密封」名他に見せざるやうにかく封をなし置くこと。又其物。  
 ひふう「被覆」名おほひかぶること。  
 ひふう「微風」名そよよ風。すこしの風。  
 ひふう「美風」名うつくしきならはし。ほむべきならはし。  
 ひふき「だけ」火吹竹「名火を吹きおこすに用ゐる竹筒。一端の節を存して小き孔を穿つ。

ふきだけ。吹火筒。  
 ひふき「タルマ」火吹達磨「名火をおこす具。銅にて小き達磨の形を作り内を空にし小き口を穿ち水を貯へ火の傍に置く。水沸けば其口より蒸氣を吹きて火をおこす。  
 ひふく「被服」名きもの。きるもの。  
 ひふく「美服」名うつくしき衣服。  
 ひふく「微服」名服装をやつして注視せられざる如くすること。しのびのすがた。  
 ひふくれ「火脹」名火傷にて皮膚の腫れふくもの。火腫。  
 ひふこ「きふ」皮膚呼吸「名皮膚より炭酸瓦斯期及び水分を排出して酸素を攝取するをいふ。  
 ひふせ「火防」名火災を防ぐ神佛の通力。火除。火伏。  
 ひふた「火蓋」名火繩筒の火皿を被ふ蓋。「をさる。句」①鐵砲の火蓋をあけて點火する。②轉じてすべて物事に取にかゝるにいふ。  
 ひぶつ「秘佛」名ひめて大切にせる佛像。人に見せぬ佛像。  
 ひぶつ「微物」名さ／＼やかなるもの。  
 ひぶつ「皮膚病」名皮膚に異状を呈して腫物又は傷癩を生ずる病氣。ひぜんたむし。しらくも。なまづ等の總稱。  
 ひふみ「日文」名神代に使用せりといふ一種の文字。實は朝鮮の諺文より出でたるものか

或は後世の偽作なり。  
 ひぶん「悲憤」名かなしみいよほどはること。  
 ひぶん「非分」名分限不相應なること。理に當らひぶん「碑文」名石碑に彫る文章。「ぬと」  
 ひぶん「非文」名文事に通ぜざること。  
 ひぶん「美文」名うつくしき文章。普通文よりも一層修飾したる文章。  
 ひぶん「學」名美文をつくるにつきての學問  
 ひぶん「微分」名數或函數の極微の變差。  
 ひぶん「學」名數或變數の函數の微分とこれに相當する其變數の微分との比の極限なる價を求めて其函數の變化を研究する學。  
 ひぶん「微分子」名こまかなる分子。  
 ひぶん「日震」名毎日發するおこり病  
 ひへい「疲弊」名氣力の衰ふること。つかれ弱ること。①貯蓄の乏しくなると。罷蔽。罷弊  
 ひへぎ「引倍木」名ひきへぎに同じ。  
 ひべつ「Pipette」名兩端極めて細くして中部ふくれたるガラス管。液を入れて少しづつ點下せしむるに用ゐる。  
 ひへん「日偏」名漢字の偏の名。即ち明時暗暖などの左方にある日の字の稱。  
 ひへん「火偏」名漢字の偏の名。即ち煙焰燒燈などの左方にある火の字の稱。  
 ひほ「裨補」名助けとなること。たすけおきなふと  
 ひほ「紐」名ひもの紐。「なるはかりこと」  
 ひほう「秘謀」名秘密なるはかりこと。又奇妙

ひほう「彌縫」名一時しのぎにとりつくるふこと  
 おぎなひあははすること。  
 ひさく「策」名失敗又は缺點をとりつくるふはかりこと。  
 ひほく「婢僕」名下婢と下男と。  
 ひほけん「しや」被保險者「名法」保險せらるる當事者。保險者の對。  
 ひほし「日乾」名日にほすこと。又日にほしたるもの。火乾。  
 ひほし「火干」名火にほすこと。魚を炙りほしたるもの。火乾。  
 ひほし「干乾」名食なくして餓えおとるふこと。  
 ひほん「祕本」名他人にかくして容易に見せぬほどの大切な本。祕藏の書籍。  
 ひほん「非凡」名凡庸にこえてたること。普通より秀でたること。  
 ひほん「美木」名印刷紙質・裝釘等の美しき  
 ひぼろぎ「神籬」名ひもろぎに同じ。  
 ひま「障」名すき。すきあな。「壁の」①てすき。閑暇。②なかあしきと。不和。③時間。間光陰。「一を惜む」④主従・夫婦などの關係を絶つこと。いとま。「一をやる」⑤をり。機會。「一を伺ふ」  
 ひま「こま」隙駒「名ひまゆく。こまに同じ。  
 ひま「芭麻」名種「たうこまに同じ。  
 ひまいる「隙入」自動ラ四時間が長かかかか。おそくなる。ひまどる。  
 ひまご「曾孫」名孫の子。

ひまし「芭麻子」名たうこまの種子。  
 ひま「あぶら」油「名たうこまの實の皮を去り仁より搾取せる油。ひましゆ」  
 ひまし「日増」名食物などの製造後久しく日數を経たること。  
 ひまの「日増」名日増となりたる食物。  
 ひまし「日増」名日毎に加ははりて。日毎にまして。  
 ひます「こま」隙駒「名ひまゆく。こま  
 ひませ「日交」名一日づつ間を置くこと。隔日  
 ひまち「日待」名陰曆十月十五日の夜。寝ねずして日出をまつこと。  
 ひまつり「火祭」名火災のなきやうに祈禱をなす祭。  
 ひまどる「隙取」自動ラ四時間多くかかる。てまどる。ひまいる。  
 ひまはし「火廻」名火をつけたる線香をもち車座になりて順々に廻し、前人のいひたる語の末の音を頭におきたる語などをいひつぎて、其の語を考へ出でぬうちに線香の盡きたる者を負けとする小兒の遊戲。  
 ひまはり「火廻」名前に同じ。  
 ひまはり「日廻」名高き六七尺に至る葉は大形にして鋸齒をなす。花は菊花に似て黄色徑六七寸に及ぶ。常に日脚の移る方に向ふ。ひぐるま。日向葵。日輪草。  
 ひまら「草」名種「前に同じ。  
 ひまん「肥滿」名こえふとりたること。

ひまん「滿漫」名かぎりなくひろきこと。ひろがり  
 はびこること。  
 ひまゆく「こま」隙駒「名歲月の過ぎやすき  
 ひみ「謎」名ひびの古言。  
 ひみ「美味」名うまさあぢ。又うまさ食物。  
 ひみじか「日短」名晝間の短きこと。冬日の短きこと。短日。  
 ひみず「地鼠」名動「ぢねずみの」一名。  
 ひみつ「祕密」名一人に知られぬ様に内密にすること。①佛。法門の深淵にして餘人の容易に知り得ざるをいふ。②ひそかになすこと。③うちわ。内幕。  
 ひくわい「一會」名秘密になす集會。  
 ひくわいぎ「一結社」名秘密になす會議。  
 ひけし「結社」名存在又は組織等を祕密にして公に知らせざる結社。  
 ひじゆ「呪」名佛。眞言文をいふ。  
 ひユガだん「一瑜伽壇」名佛。直言密教の加持壇をいふ。  
 ひみつ「氷水」名氷をいれたる水。  
 ひみつ「火水」名火と水と。①轉じて仲の極めて悪しきこと。  
 ひの「あらそひ」争「名争」名前の②に同じ  
 ひみやく「皮脈」名皮膚と血脈と。  
 ひむ「他動マ下二隠して示さず。ないしよ  
 うにす。ひす。  
 ひむかし「東」名ひがしに同じ。

ひむろ(水室)名水貯蓄して置く室。  
 一ぐさ(草)名種草の異名。  
 一どの(殿)名ひむろの家。  
 一もり(守)名ひむろを守り居る番人。  
 ひん(殯)名死骸をいまだ葬らず假に棺に藏め置くこと。  
 ひん(貧)名まづしきこと。とほしきこと。財産少なきこと。まづしき者。貧乏人。  
 ひん(賓)名まらうど。客人。  
 ひん(嬪)名よめ。つま。婦。麗星之作。一君子室。女官の名目。一即ち後世の更衣。官女。宮女。女子の美稱。  
 ひん(牝)名めす。め。  
 ひん(品)名しな。くらぬ。  
 ひん(聾)名顔をしかむること。ひそむること。一にならふ。句ひそみにならふを見よ。  
 ひん(髪)名頭の左右の側面の髪。びんづら。  
 ひん(便)名たより。たのみ。おとづれ。音信。ついで。都合。つかしきこと。  
 ひん(敏)名はしきこと。するどきこと。さとしきこと。  
 ひん(瓶)名陶器鐵器のかめ。硝子製のビン(Hin)名とめばり。徳利。  
 ひん(骨)名骨牌などの一の數。轉じてはじめ第一。  
 ひん(遊)名畜類のしきりに交尾せんとひんか(貧家)名まづしきこと。  
 ひん(か)名(品)行名。お、なひ。みもち

操行。一方正。人品。品格。  
 ひん(か)名(貧巷)名貧民の住むまち。  
 ひん(か)名(鏡)名髪をてらし見るに用ゐる小鏡。  
 ひん(か)名(髪)名びんをつくるふ小鏡。  
 ひん(か)名(品)名ひとがら。しな。品。  
 ひん(か)名(賓客)名客人。きやく。位。  
 ひん(か)名(東)名ひむろの音便。ひがし。  
 ひん(か)名(貧寒)名貧しくいしきこと。  
 ひん(か)名(便宜)名たよりよきこと。たよりよきをり。  
 ひん(か)名(貧境)名まづしき境遇。  
 ひん(か)名(貧客)名ひんかくに同じ。  
 ひん(か)名(貧窮)名まづしきこと。貧乏。貧困。  
 ひん(か)名(殯宮)名御大葬の時まで姑く天皇の靈柩を置く御殿。あらしのみや。かりまがりの宮。もがりのみや。  
 ひん(か)名(貧居)名まづしきすまひ。  
 ひん(か)名(嬪御)名宮中に奉仕する女。天子のそば女。  
 ひん(か)名(貧苦)名まづしきしくくるしむこと。  
 ひん(か)名(髮莖)名髮の毛筋。  
 ひん(か)名(髮飾)名婦人のびんの毛を掻き上げるに用ゐる飾。黄楊又は梅の材などにて作りたる長くあらしの飾。  
 ひん(か)名(敏快)名すばやくこと。するどきこと。  
 ひん(か)名(敏活)名才能のすばやくこと。  
 ひん(か)名(牝雞)名めすのにはとり。

一長を司る。句婦人が勢力をふるひ萬事にさしづるをいふ。  
 ひん(けい)名(敏慧)名さかしきこと。かしきこと。  
 ひん(けい)名(貧血)名身體の血液のすくなきこと。  
 一せい(性)名貧血なる性質。  
 (ひん)名(備後)山陽道八國の一。等の疊表。  
 一おもて(表)名備後國より産出する上ひん(こう)名(賓真)名外國人の服従して貢物をさぐる。又一説に貢物をさぐげに來りて賓客の待遇をせらるること。  
 ひん(こん)名(貧困)名まづしきこと。貧に苦むこと。  
 ひん(さう)名(貧相)名貧しき人相。薄福の相。  
 ひん(さう)名(拍板)名古舞樂に用ゐられし一種の樂器。數十枚の小板を重ねて其の一端を綴合はせ相擊ちて音を發せしむるもの。拍子。  
 ひん(さし)名(髮差)名女の髪を脹らせんための具。細き鐵などを繞めて作れるもの。びんばり。  
 ひん(さつ)名(憫察)名あはれみおもひやること。  
 ひん(し)名(品詞)名(文法)すべての國語を其の性質職掌より數種に分類したるもの。即ち名詞。動詞など云ふ類。  
 ひん(し)名(貧士)名まづしき人士。  
 ひん(じ)名(貧兒)名まづしき家のこども。  
 ひん(じ)名(賓辭)名(命題)の主辭の意義を述ぶ辭。文法)かく(客語)に同じ。  
 ひん(し)名(髮絲)名髮の白髮。  
 ひん(し)名(品質)名その品のたち。たち。

ひん(し)名(髮)名(鬚)名こしもと。そばめ。  
 ひん(し)名(髮)名顔をしかむること。眉をしかむること。安んぜざるさまにいふ語。頻。頻。  
 ひん(し)名(便所)名休息する部屋。着物などを着る部屋。便宜なる場所。  
 ひん(し)名(貧商)名(畜動)脊椎動物の一。熱帯地方に棲息し齒は極めて不完全なり。四肢は強大にして、爪にて土を掘り昆蟲などを食す。性魯鈍なり。  
 ひん(せい)名(品性)名人々の眞の性質をいふ。品位ある性質。うまれつき。  
 一たうや(陶治)名品性を道德的につくりなすをいふ。  
 ひん(せい)名(貧生)名資力乏しき人。貧窮なるひん(せう)名(聲笑)名し。みわらひ。苦笑。  
 ひん(せう)名(憫笑)名あはれみわらふこと。さけすみわらふこと。  
 ひん(せき)名(擯斥)名いやしめしめとせんと。排斥。  
 ひん(せき)名(嬪妾)名そばめ。  
 ひん(せき)名(敏捷)名すばやくこと。すばしこ。  
 ひん(せん)名(貧賤)名まづしきいしきこと。  
 ひん(せん)名(便船)名ついでの船。たよりの船。をりよく出帆する船。  
 ひん(せん)名(憫然)名あはれむ顔にいふ語。  
 ひん(そぎ)名(髮削)名髪をすこしくせんと。かみそぎの類。  
 ひん(そく)名(敏速)名さとくはやくこと。

ピン(そろ)名(二端)名二つの采の目が共に一の出づること。單物を二枚重ねて着ると。  
 ひん(だい)名(品題)名品位の論定。しなだめ。  
 ひん(だう)名(貧道)名僧侶の自稱。  
 ひん(だう)名(髮道)名髪を結ぶに必要なる諸道具。櫛。簪などの類。  
 ひん(だら)名(髮盥)名髪水を盛る小さき盥ひん(ち)名(品致)名しな。ひん。  
 ひん(ち)名(備長)名紀伊國より産する最上の炭。火勢強し。  
 ひん(つけ)名(髮附)名髮附油の略。  
 一あぶら(油)名蠟と油とにて固くねりたる油の一種。髪を固むるに用ゐる。  
 ひん(づめ)名(瓶詰)名瓶詰めにしたるもの。  
 ひん(づら)名(髮類)名項髪を左右に分けて結びたるをいふ。鵝角。みづら。  
 ひん(づる)名(貧頭)名(佛)羅漢の一。白頭長眉の座像にて多く寺に安置す。俗人これを摩でて瘧疾を愈す。  
 ひん(てん)名(旻天)名秋のそら。そら。  
 ひん(ど)名(貧土)名財物とほしき土地。  
 ひん(とう)名(品等)名しな。くら。わかち。  
 ひん(なが)名(髮長)名動ひれながに同じ。  
 ひん(な)名(他動)名(捕)つよくなぐる。捕縛す。しはる。  
 ひん(なし)名(便無)名(た)よりわるし。都合

ひん(はつ)名(髮髮)名びんのかみ。  
 ひん(はぶ)名(貧乏)名まづしきこと。貧困。貧  
 一がみ(神)名人を貧ならしむるといふ神。相撲にて第二段の一番目の地位。  
 一くじ(圖)名最も不利なるくじ。  
 一はなを(鼻緒)名庭下駄等につくる棕櫚又は竹の皮にて造りたる鼻緒。  
 一ゆすり(揺)名座しながら體を絶えずふるんと揺ること。びんばり。  
 ひん(はん)名(頻繁)名それがはしきこと。物のしげ  
 ひん(ひん)名(頻)馬の嘶く聲にいふ。こと。  
 ひん(びん)名(頻)名調ひたる状にいふ語。語。文質。前後君子。  
 ひん(びん)名(頻)名調物事のしげく起るさまにいふ語。しきりに。  
 ひん(びん)名(頻)名活潑に働かさまにいふ語。  
 ひん(びん)名(品評)名これはよしあはれはわるしと評すること。品の善惡の評。しな。だめ。  
 ひん(ぶ)名(貧富)名まづしきこととめると。一の懸隔。  
 ひん(ぶ)名(貧服)名心服に同じ。外國の  
 ひん(ぶ)名(髮服)名古官女の髮飾。長さ四尺許。髪を油にてかためて額髪の下に廻し、兩方の前へ下げたるもの。

ひん

ひんべん(福勉)名つとめはけむこと。勤勉。
ひんぼ(牡牝)名めすとをす。
ひんぼかつら(貧乏蔓)名種。やぶからしに同じ。
ひんぼづる(貧乏蔓)名種。やぶからしに同じ。
ひんぼん(Pinpon)名一種の室内の遊戯。テニスの如くして臺上にて行ふもの。
ひんみづ(髪水)名髪を梳るるに用ゐる水。
ひんみん(貧民)名まづしき人民。
「がくかう」(カウ)「一學校」名貧民の子弟を無月謝にて教育する小學校。
「くつ」(一窟)名貧しき人民の多く集まり住める處。
「め」警察。
「けいさつ」(警察)名貧民を救護するたひんらう(カウ)「檳榔」名種。びんらうじに同じ。
「じ」(一子)名種。熱帯地方に産す。高さ六七丈、直立して枝なく葉は楕圓に生じ、實は房をなして葉間に簇生す。食用又は薬用とす。暗黒色の染色。
ひんりよ(賓旅)名おきやく。賓客。
ひんる(貧寒)名まづしくしてやつれたること。
ひんるる(品類)名しな。たぐひ。種類。
ひんれい(賓禮)名客に對する禮儀。賓客として手厚くもてなすこと。
ひんらん(敏腕)名うできき。腕前の敏捷な「か」(一家)名事務を處置することのすばやきひんる(品類)名しな。たぐひ。品類。「人」

ひめ

ひんる(品位)名しな。くらゐ。けだかきところ。優美なる點。
ひんる(賓位)名賓客の居るべき位地。「いふ」。
ひめ(姫)名女子の美稱。媛。貴人の娘をひめ(編様)名米を水を多くして煮たるもの。ひめのりの略。「語」(一垣)
ひめ(姫)名小くして愛らしき物に冠する。
ひめあさみ(姫薔)名種。薔の一種。花は山あさみに似て淡紫色をなし秋の末に開く。高さ六七寸。葉莖共に刺あり。かはあさみ。
ひめい(碑銘)名石碑に書きたる銘。
ひめい(非命)名天命にあらず災害などにて死すること。横死すること。「一の死」
ひめい(悲鳴)名悲しみ鳴くこと。悲しき泣聲。「一をあぐ」。「一を世に遺す」
ひめい(美名)名よき名聲。譽れる名。令名。
ひめい(微妙)名うすあかり。
ひめう(可)「微妙」名奥深くたへなること。幽玄ひめう(可)「美妙」名うつくしくしたへなること。「一なる音楽」
ひめうり(姫瓜)名種。瓜の一種。花葉共に白瓜に似て小さく、夏長さ二寸程の瓜を結ぶ。味苦くして食ふべからず。
ひびな(一籠)名姫瓜に目鼻を描き竹などにさし、紙又は布などの服を着せたるもの。
ひめうきやう(可)「姫商香」名種。のんのどの古名。

ひめ

ひめかがみ(姫鑑)名淑女の手本となるべきもの。「異名」。
ひめかがみ(姫鑑)名種。すずさいこのひめがき(姫鑑)名小さき低き垣。女牆。
ひめがき(可)「姫貝」名動。いがひに同じ。
ひめぎきやう(可)「姫桔梗」名種。ひなぎきやうに同じ。「公卿の長女。大君。
ひめぎみ(姫君)名貴人の女。古昔。
ひめごせ(姫御前)名姫君に同じ。「こと」。
ひめごと(祕事)名かくしごと。ないしよひめごまつ(姫小松)名種。小さき女松。ひめまつ。ふじまつ。五葉松の一種。葉は短くして細し。
ひめしをん(姫紫苑)名種。葉はをぐるまに似て小さく尖らず、夏莖を出すこと二三尺。莖頭にめどに似たる白色の花わらがり開く。
ひめたちばな(姫橘)名種。きんかんの一種「ひめぢ」(播磨國にある市。
「かは」(一草)名姫路より産出する紋形ある草。文庫など張るに用ゐる。「じ」。
ひめつばき(姫椿)名種。れすみもちに同じ。
ひめとね(姫刀禰)名種。六位以上の宮女。
ひめとらのを(姫虎尾)名種。葉は桃の如く鋸齒あり。花は淡紫色にして長き穗状花序に排列す。とらのをに似て細く夏開く。
ひめのり(姫糊)名飯にて製したる糊。

ひめ

ひめはぎ(姫萩)名種。山野に生じ高さ三四寸。葉は互生しつげの葉に似て小さく、春葉間に紫花を開く萩に似て小さし。遠志。
ひめはじめ(姫始)名正月ひめ(精練)の供へ始めに吉とする日。又馬の乗り初に吉なる日。飛馬始。「に同じ」。
ひめはせう(可)「姫芭蕉」名種。びんせうひめふぢ(姫藤)名種。いはふちの一名。
ひめまつ(姫松)名小さき松。めまつにひめみこ(姫御子)名内親王。皇女。同じ。
ひめみや(姫宮)名前に同じ。「こと」。
ひめもん(羅免)名免職すること。職をやめらるるひめもす(終日)名ひねもすに同じ。
ひめや(姫矢)名古木を割る時其の割目にさしはさみたる樹。
ひめゆき(姫雪)名檜にて造り表に錦裏に帛をつけ四處に緒をつけたるゆぎ。
ひめゆり(姫百合)名種。一根一莖にして、葉はおにゆりに似、夏の頃六瓣の深紅又は黄なる花を開く。
ひめよし(姫葦)名種。よしの一種。莖細し。
ひめよもぎ(姫艾)名種。よもぎの一種。原野に生ず。葉細く深き鋸齒あり。野艾蒿。
ひも(紐)名物を束ね又は結ぶに用ゐる太き紐。緒或は革。ひぼ。
ひもかがみ(水面鏡)名氷の異名。氷の面の鏡の如く光るより云ふ。

ひも

ひもかがみ(紐鏡)名紐のつきたる鏡。
ひもかがみ(紐鏡)枕のどかに冠らす詞。
ひもがたな(紐刀)名紐をつけたる小き刀。古懷中に帯ひしもの。「はうどんの略」。
ひもかは(可)「紐草」名草の紐。ひもか「うどん」(一饅飽)名紐草の如く平たく細く製したる饅飽。
ひもく(費目)名費用の細目。
ひもく(皮目)名樹木の表面の所々にある目。
ひもく(眉目)名まゆとめと。容貌。面目。ほまれ。みえ。體裁。
ひもく(美目)名うつくしき目と。
ひもくぎよ(比目魚)名動。ひらめに同じ。
ひもくのまくら(比目枕)名枕をならぶこと。同義。
ひもさす(紐差)自動サ四。紐を結ぶ。蓄未だ開かず。花未だふくむ。
ひもじ(饑)形二空腹にして食物欲し。うみたひ。ひだるし。
ひもすがら(終日)名副ひねもすに同じ。
ひもすどり(名動)からすの異稱。
ひもつき(紐附)名紐のつきてある小兒の衣服。なはつきに同じ。「こと」。
ひもつけ(紐附)名衣服調度等の紐をつくべひもと(火元)名火災をおこしたるものと家。
ひもとき(紐解)名ひもなほしに同じ。
ひもとく(紐解)他動カ四結はれたる紐を解

ひも

ひも(青物を一)自動カ四。花開き綻ぶ。古今「百草の花の秋の野におもひたはれむ人などめぞ」(下紐をとく)。「の」。
ひもとほし(可)「紐通」名紐を通すべき孔。箱ひもなほし(可)「紐直」名小兒七歳になりたる時、衣服のつけひもを去ること。此の日儀式を行ふ。ひもとき。
ひもの(干物)名鹽をひきて干したる魚。枯魚。
ひもの(楡物)名楡の薄き板にて造れるわけもの。すべてわけもの。楡。楡。
「し」(一師)名楡物を作る職人。楡物工。
「ぶね」(一船)名楡物に用ゐる木材を積み載せたる船。
ひもん(祕文)名祕密の呪文。
ひもろぎ(神龜)名神龜などを立てて假に神の御座として神を奉祭する所をいふ。ひぼろぎ。やしる。神社。
ひもろぎ(肝)名神に奉る米餅等の供物の稱。
ひや(火箭)名古。矢に火を仕掛けて射はなるしもの。「一」。後世には火薬を仕掛けたひや(火屋)名やきは。火葬場。「る火器」。
ひや(冷)名冷水又は冷酒の略。
ヒヤ(Hyat)感傾聴するに足る場合又は賛成の時等に及ぶ語。
ひや(接頭或語)冠してつめたき意を表す語。ビヤ(Beer)名ビールに同じ。「軽き酒店」。
「ホール」(Hall)名ビールを飲まする手

ひやあせ(冷汗)名冷やかなる汗。恥ぢたる時などに出づる汗。慚汗。  
ひやう(評)名物の善悪を論定すること。可否の判断。價値の論定。  
ひやう(兵)名将棋の駒の名。ふ。  
ひやう(平)名漢字の四聲の一。平聲に屬するもの。仄の對。  
ひやう(飛揚)名とびあがること。  
ひやう(飛鷹)名とびあがること。  
ひやう(鉄)名頭の大きい釘。金銀銅鐵等につく。  
ひやう(微恙)名すこしの病氣。  
ひやうあ(病痾)名病氣に同じ。「原因」  
ひやういん(病因)名病氣のもと。病氣のひやうか(評)名評議して代價を定むること。①法)賣買其他法律行為に於て當事者ならぬ第三者が其の當事者間に目的となる物件に對して評定したる相當價格をいふ。②善惡等の價値を論定すること。  
ひやうか(病家)名病人のある家。醫師の被治療家を云ふ語。  
ひやうかん(病間)名病氣にかかれる期間。  
ひやうぎ(評議)名さうだん。商議。  
ひやうん(一員)名評議にあづかる人。「病痾」  
ひやうき(病氣)名やまひ。わづらひ。  
ひやうきん(病菌)名病のもととなる微菌。  
ひやうぐ(兵具)名武器。①よろひ。

ひやうく(病苦)名病氣にかかりたる苦。病氣のくるしみ。  
ひやうく(病軀)名やまひがらのからだ。病ひやうくぎ(鉄釘)名びやうに同じ。  
ひやうくわん(病患)名やまひ。わづらひ。  
ひやうけつ(評決)名評議して決定すること。  
ひやうげん(評言)名批評のことば。  
ひやうげん(病源)名病氣のもと。病氣の原因。  
ひやうこ(兵庫)名兵器をさめおく蔵。  
ひやうこ(一察)名古。兵衛府に屬し儀仗兵器の出納を掌りし役所。  
ひやうこ(一監)名籙巻に似たる女の髪の方。攝津國兵庫の遊女の結びそめたるものなりと云ふ。  
ひやうご(評語)名品定め言葉。評言。  
ひやうこ(病故)名病氣といふ事故。  
ひやうご(病後)名病氣のなほりたるあとやみあがり。病餘。  
ひやうこん(病根)名病氣のもと。やまひのひやうざ(拍子)名音楽の節を助けて調子を取ることをいふ。とたん。  
ひやうき(木)名四角の木を長方形に削り二箇相打ちてなるもの。「のぬけたること。はりあひぬけ」一抜)名間のぬけたること。はりあひぬけたること。

ひやうじ(平字)名平聲に屬する漢字。  
ひやうし(病死)名やまひにかかりて死する。  
ひやうしつ(病室)名病人の部屋。「と」  
ひやうしん(病身)名やまひがらのからだ。多病なる身體。  
ひやうしや(病者)名病にかかれる人。病ひやうしやう(平聲)名漢字の四聲の一。上平下平の總稱。「のねどこ」  
ひやうしやう(病牀)名病のこ。病人に「し」一日誌)名病人の日々の経過をしろしたるもの。「性質」  
ひやうしやう(病症)名病のたち。病のひやうじやう(病狀)名病氣のありさま。病態。  
ひやうしやく(評釋)名批評し且つ釋義ひやうじやく(病弱)名やみて弱りおとろへたること。  
ひやうしよ(病所)名病人のゐる所。  
ひやうす(評)名能動サ變價値を論評す。  
ひやうす(病状)名やみておとろふること。  
ひやうせい(病勢)名病氣のいきほひ。病氣の模様。  
ひやうせい(病性)名病氣の性質。  
ひやうせつ(評説)名「うはさ。風評。①批評し説明すること。  
ひやうせん(兵船)名いくさぶね。軍艦。  
ひやうそく(平仄)名漢字は音の末の

ひやまきによりて平韻と仄韻とに分つ。韻は古は廣韻とて二百七韻に分ちしが、今は合して百六韻に分つ。即ち平上去入の總稱なり。其中、上去入の三聲を合して仄聲と云ふ。①つちつま。順序。「一のあはぬ點」  
ひやうそく(秉燭)名油皿の一種。壺やかなる皿の中央に臍の如きものありて、それに燈心をさして火をとす。  
ひやうたい(病體)名病にかかりたるからだ。病身。  
ひやうたい(病態)名病氣のありさま。病ひやうちやう(兵仗)名太刀。弓箭の類。隨身などの持つ儀衛の武器。  
ひやうせんげ(宣下)名古。文官に隨身を許されたる宣下。  
ひやうちやう(評定)名評議決定すること。「くわん」一官)名行政裁判所に置く。恰も司法裁判所の判事と同様の職務をなす官「しゆう」一衆)名鎌倉幕府の頃、政所に列りて政事に參與せし役の者。  
ひやうしよ(一所)名徳川幕府の制に、寺社町。勘定の三奉行集會して、政刑訟獄を議決せし所。留役。組頭。政方。書物方などの役々あり。江戸城の和田倉門外にありき。  
ひやうちゆう(評註)名評を加へ註を入るること。  
ひやうちゆう(病中)名病氣にかかりて居

る間。病氣のうら。  
ひやうてい(評定)名善惡を批評し論定ひやうてい(病體)名病氣の容態。  
ひやうてう(評調)名十二律の一。「と」  
ひやうてき(病的)名物事の健全ならざるひやうてん(評點)名批評して點をつくること。點をさめつくること。「たるもの」  
ひやうてん(評傳)名傳記の評論を加へひやうと(評調)名音のさまにいふ語。  
ひやうとう(平等)名ひとしきと。平均。  
ひやうどう(一界)名萬有の差別なき世界。「しゆぎ」一主義)名彼此の差別を立てず平等に處する主義。  
ひやう(一王)名佛。閻魔王の異稱。  
ひやうどく(病毒)名病の毒氣。傳染病の微菌などを指して云ふこともあり。  
ひやうなん(病難)名病氣の災難。  
ひやうにん(病人)名やまひにかかりたる人。病者。  
ひやうはふ(兵法)名戦の方法。用兵のひやうぼん(評判)名「うはさ。世評」  
ひやうぼん(評判)名「うはさ。世評」  
ひやうぼん(屏風)名室内に立てまはして風をふせぎ遮る具。襖の如きものを二枚四枚六枚等つがひ合せて折り疊むやうに作れるもの。  
ひやうぶきやう(兵部卿)名兵部省の長官。

ひやうぶしやう(兵部省)名古の八省の一。諸國の兵事に關することを司りし所。維新後一時設置せられたる陸海軍に關する政務を取扱ひし官府。「ること。病死」  
ひやうぼつ(病疫)名病氣にかかりて死ぬひやうま(病魔)名ものけ。病氣。  
ひやうめい(病名)名病氣の名。  
ひやうやなぎ(未央柳)名種高さ二三尺。葉は柳の如く、花は黄色にして梅雨の頃開く。りやうやなぎ。金絲桃。  
ひやうらう(兵糧)名戦時に於ける軍隊の食料。①活動力を支持するもの。  
ひやうらう(一攻)名敵の糧道をたち飲食物をつくさしめて降服せしむること。  
ひやうらん(兵亂)名戦争のみだれ。戦ひやうり(病理)名病氣の原理。  
ひやうり(一學)名疾病の性質を理論的に研究する學問。  
ひやうりん(評林)名批評をあつめたる冊ひやうる(病羸)名やみて弱ること。  
ひやうろん(評論)名批評し議論すること。「か」一家)名よく評論する人。批評家。  
ひやうるん(病院)名病人を收容して治療するために設けたる家。「武官」  
ひやうるん(兵衛)名古。兵衛府に屬せし「一府)名古。車駕の警衛。宮中の守衛を掌りし役所。左右にわかる。









ひりん(部)名(部)は賤むべきと、吝は食るとい  
ひり(部)名(部)は賤むべきと、吝は食るとい  
ひり(部)名(部)は賤むべきと、吝は食るとい  
ひり(部)名(部)は賤むべきと、吝は食るとい  
ひり(部)名(部)は賤むべきと、吝は食るとい  
ひり(部)名(部)は賤むべきと、吝は食るとい  
ひり(部)名(部)は賤むべきと、吝は食るとい  
ひり(部)名(部)は賤むべきと、吝は食るとい

して臭氣強し。夏淡紫色の花を開き黒き實を  
結ぶ。春其の根を食ふ。  
ひろ(放)他動上。四體外に排泄す。「屁を」  
ひろ(嘘)他動上。くさめす。はなひる。  
ひろ(干)自動上。一。温氣散散す。かわく。  
ひろ(湖)ひく。一。つく。なくなる。  
ひろ(籠)他動上。一。箕にて穀類等をふるひて屑  
をあふり去る。  
ひろ(い)し(蛭石)名。雲母の一種。黒色を呈  
し多量の水含有するが故に火中に投ずれば  
直に延長す。  
ひろ(い)ひ(飯)名。飯名。ひるげに同じ。  
ひろ(か)き(蛭)名。鉤の中ぶとなるもの。  
ひろ(が)へす(ア)名。他動サ四。表を裏にかへ  
す。うらがへす。一。ひっくりかへす。主張を一。  
をどらし飛ばす。一。身を一。ひらひらせす。  
ひろ(が)へ(二)名。二。自動上。四。うらむ。へる  
一。反對にひっくりかへる。一。ひらめきあがる  
一。とど。とど。  
ひろ(が)ほ(カ)書。顔(名)種。野に生ず。花は半  
牛花に似て小く、午前開きて暮に萎む。色は  
淡紅色又は白色なり。「かざるものを云ふ。  
ひろ(き)つ(ね)書。狐(名)種。きよらよるして落着  
ひろ(け)書。食(名)中食。正午食。  
ひろ(こ)蛭子(名)伊非諾尊の御子。然るに俗に  
惠比須又は夷三郎と稱する神をもいへるは  
何時の頃よりか誤り傳へたるなり。其像は鈎

竿を持ち綱を脇にかかへたる様をかけり。  
ひろ(さが)り(書)下(名)古の末の刻。今の午後  
ひろ(さ)き(蒜頭)名。蒜の根の玉。「二時頭」  
ひろ(シ)ヤ(ノ)鬼盧遮那(名)佛。梵。大日蓮照  
又は光明遍照と譯す。大日如来の別稱。  
ひろ(つか)た(書)方(名)ひるごる。ひるの時。  
ひろ(つき)蒜搗(名)蒜を搗きてあへものとし  
したるもの。  
ひろ(と)び(書)馬(名)書問盗みをする人。ひる  
ひろ(と)ん(び)書。馬(名)書前に同じ。「中」  
ひろ(な)か(書)中(名)ひるま。一。まひる。日  
ひろ(ぬ)す(び)と(書)盗(名)ひるとびに同じ。  
ひろ(ね)書。寐(名)書問寐ること。午睡。  
ひろ(ひ)な(か)書。日中(名)ひるま。日中。  
ひろ(ブル)ブ(ロー)カー(Bill Broker)名。手形を割  
引にて買取り之を他へ轉賣することを業とす  
るもの。手形の仲買人。  
ひろ(べ)ん(た)う(シ)書。辨當(名)書食。書の辨  
ひろ(ま)書。問(名)朝より晩までの問。書の間。  
ひろ(ま)き(蛭)名。薙刀槍等の柄などを篠  
又は銀などに問を隔てて巻きたるもの。  
ひろ(ま)す(他)動サ四。ひるむやうに。  
ひろ(ま)へ(シ)書。前(名)正午前の時刻。午前  
ひろ(む)自動マ四。癡癡。しびる。一。くじけ  
ちむ。よわる。  
ひろ(む)しろ(蛭)床(子)名。種。一。ばまにんじん  
に同じ。一。ひるもに同じ。

ひろめし(書)飯(名)眞畫の食。ひろげ。  
ひろ(も)書。藻(名)種。水中に生ずる草。水上に  
浮べる葉は綠色橢圓形にして光澤を有し長  
き葉柄あり。眼子葉。  
ひろ(やす)み(書)休(名)書食の休息。一。書寐  
ること。ひるね。  
ひろ(わり)こ(書)被(子)名。ひるべんたうに  
ひろ(る)書。比(類)名。くらぶべきもの。たぐひ。  
ひろ(る)書。匪(類)名。等類にあらざるもの。  
ひろ(れ)領(巾)名。婦人の項より肩にかけて飾りと  
なしし布帛。「れりしを云ふ。  
一。ふる。句古。婦人の人を招く時に領巾をふ  
ひろ(れ)書。鰯(名)魚類の背胸・腹・尾にある水中  
游泳の器官。其の運動を助く。一。鰭のえらの  
稱。一。一。身体を肥えてははあること。  
ひろ(れ)書。比(例)名。例をとりてくらぶること。一。  
(數)二つの量の比が他の二つの量に等しきと。  
一。しき(一)式(名)比例を表はす式。「同じ」  
一。しやく(一)尺(名)しゆくしやく(縮尺)に  
一。ちゆう(か)う(一)中(項)名。數。比例の内  
項の等しきもの。  
一。ちゆう(さう)一(中)數(名)數。前に同じ。  
一。はい(ぶん)一(配)分(名)數。與へられたる數を  
與へられたる割合に比例するやう配分する法。  
一。ぶ(ぶん)一(部)分(名)數。對數表に掲げたる  
數より尙一桁だけ多き數を求め得るやう表の  
側傍に掲げたる數。

一。りやう(一)量(名)數。比例をなす四つ  
の各量の稱。  
ひろ(れ)書。非(禮)名。禮儀にあらざること。禮にそむ  
くこと。  
ひろ(れ)書。美(麗)名。うつくしくうるはしきこと。  
ひろ(れ)う(一)肥(料)名。こやし。肥料となるもの。  
こえ。こやし。「なまきを云ふ。  
ひろ(れ)き(披)蓋(名)其の心中を披き出して腹臍  
ひろ(れ)つ(卑)劣(名)心又は行のいやしくおとろ。  
鄙劣。「一なる所行」一なる根性。  
ひろ(れ)な(が)書。長(名)動。まぐろの一種。左右の  
鰭長くして桃色なり。びんが。びんが。  
ひろ(れ)ふ(す)平(伏)自動サ四。ひらく伏しかがむ。  
伏しかがむ。「羽毛紅色を帯ぶ。  
ひろ(れ)ん(じ)やく(緋)連(雀)名。連雀の一種。  
ひろ(れ)お(ぼ)し(平)鳥(前)子(名)項を折りてかぶる  
鳥帽子。「又八尺とも云ふ。  
ひろ(一)書。繩(名)長。又は水の深さに六尺の稱。  
ひろ(一)日(名)一。ひに同じ。  
ひろ(い)書。從(名)古。位階を二つに分つて、おほ  
いに對し低き方に云ふ。廣。  
ひろ(う)書。披(露)名。一。文書をひらきて見すること。  
一。公に發表すること。吹聴。廣告。「しよ。  
一。じ(や)う(一)狀(名)つけじやう。そへ  
ひろ(う)書。尾(籠)名。一。禮を失ふこと。失禮。無禮  
きたなくけがらはしきこと。  
ひろ(ウ)ド(天)鷲(絨)名。絨物の名。銅線を緯とし

て織りたる後、その銅線を抜き去り、わなをな  
せる経緯を切りはなちたるもの。  
一。せ(き)し(や)う(一)石(葛)名。種。岩石に着  
生す。葉長さ二三寸細くして密生して天鵝絨  
の如し。雀舌。  
ひろ(が)す(廣)他動サ四。ひろがるやうにす。ひろ  
ひろ(が)る(廣)自動サ四。ひろくなる。のび  
ひろ(がる)書。一。あまねく行きわたる。一。はびこ  
る。多くなる。繁殖す。「酸の解。  
ひろ(ガ)ロ(ル)Pyrogall)名。化。焦性没食子  
ひろ(く)書。廣(名)動。力下二のべひろくす。ひろくたす  
ひろ(く)書。他動カ下二。人を罵るとき、する。おこ  
なふの義にひる。一。邪魔。一。  
ひろ(く)書。微(錄)名。一。わづかの俸祿。小祿。薄給  
一。おちふる。こと。零落。  
ひろ(こ)う(ち)廣(小路)名。道幅の廣き街路。大  
ひろ(さ)書。廣(名)廣(名)廣(名)度合。  
ひろ(さ)き(弘)前(名)陸奥國にある市。  
ひろ(し)書。面(形)一。面積多し。範圍大なり。一。普  
くわたる。あまねし。博。學問。一。一。度量大なり。  
ゆたかなり。寛。一。心。一。一。ひろくひらけてあり。闊。  
ひろ(し)書。廣(數)名。大名の臺所向及奥向の稱。  
ひろ(し)書。廣(島)安藝國にある市。  
ひろ(せ)ん(じ)や(廣)瀬(神社)大和國にある  
官幣大社。若字迎賢神を祀る。  
ひろ(た)ん(じ)や(廣)田(神社)攝津國にある

ひろ

官幣大社。天照大神を祀る。  
 ひろ て「唐袖名袖口の下方を縫合せざるもの。けんね、こどてらの類。」  
 ひろ に「は ワ「廣庭」名ひろき庭。  
 ひろ の「廣野」名廣き野原。  
 ひろ は「廣場」名ひろき場所。  
 ひろ ひ「拾」名ひろふこと。●貴人の徒歩ひろひもの任「拾物」名ひろひたるもの。拾得物。●意外のまうけもの。  
 ひろ ひ「よみ」任「拾遺」名主要なる箇所又は読み得るところだけを讀むこと。  
 ひろ ひろ「廣」名即廣きまにいふ語。  
 ひろ ひろ「拾」他動ハ四●下に落ちたるを取上ぐ。●遺したるものを収む。●諸所よりえらびとる。●徒歩にて歩む。  
 ひろ ひろ「た」廣蓋名●衣服を藏むる唐置衣箱などの蓋の稱。賜與の服など載せて授けしもの後其の蓋の如き器を作り食物などを盛る。  
 ひろ ひろ「ま」廣間名廣き座敷。  
 ひろ ひろ「ま」廣前名神殿の前庭。大前。  
 ひろ ひろ「まる」廣「自動」ラ四●廣く行きわたる。廣く行はる。●廣くなる。  
 ひろ ひろ「み」廣「名」廣き場所。「へ出づ」  
 ひろ ひろ「む」廣「他動」マ下二●廣くならす。ひろく行はる。やうに。あまなくゆきわたるやうに。●ひろく告ぐ。吹聴す。披露す。  
 ひろ ひろ「め」廣「名」吹聴すること。披露。廣告。

ひわ

ひろ め「廣布」名昆布の異稱。海藻中幅最も廣ければ祝賀に用ゐる。  
 ひろ め「かす」閃「自動」サ四ひらめかすに同じ  
 ひろ め「く」廣「自動」カ四ひろがるに同じ。  
 ひろ わか「廣」名ひろくしてあること。  
 ひろ ろ「か」廣「名」ひろやかに同じ。  
 ひろ ろ「く」自動カ四ひろろつくに同じ。  
 ひろ ろ「ん」比論「名」彼我を比較して論ずること。類似點をあけて研究すること。  
 ひわ わ「瀧」名「動」形雀より小さく、全身青黄色なり。金翅雀。●ひわいろの略。「野狼」  
 ひわ わ「い」卑猥「名」いやしくみだりがはしきこと。  
 ひわ わ「いろ」瀧色「名」次に同じ。 「る瀧色」  
 ひわ わ「ちや」瀧茶「名」もえぎに黄味のかかりたひわづ「瀧弱」名ひわやりに同じ。  
 ひわ わ「ぼそ」瀧弱「名」ほそくかよわさと。しなやひわやか「瀧弱」名ひわやかよわさと。「かたんと」  
 ひわ わり「日割」名●給金など日にわりあつること。●課目など日に割らるる。●試験の「」  
 ひわ わり「り」槓破子「名」破子の槓物作なるもの。  
 ひわ わる「干割」自動ラ下二●乾きて裂け破る。●裂目生ず。  
 ひわ われ「干割」名ひわるること。  
 ひわ ひ「非違」名法則に違反すること。非法。  
 ひわ ひ「氷魚」名動「琵琶湖又は山城宇治川に産する小魚。形白魚に似て白くして氷の如し。秋の末より冬の間に多く捕ふ。」

ひき

ひき く「比屋」名門なみ。軒なみ。漢書「魏甌世一可封也」  
 ひき け「火桶」名木製の圓き火鉢。  
 ひき む「し」鱒「名」朝に生じ夕に死すといふ蟲ひきん「微温」名なまぬるきこと。  
 ひき り「折」名古、大内の馬場にて五月三日に左、四日に右近のあらてつがひを終りて、眞手番の當日射手盛装して復た試みてそのまゝ大内へ乗り入る。即ち此の日を云ふ。ひきりのひ。  
 ひき り「ひ」一日「名」前に同じ。

ふ



ふ 上 上の如く舌の後部を少し高く軟口蓋の後部との間に一の狭窄門をつくりて急に氣息を通過せしむるによりて生ずる兩唇間の摩擦音と母韻「う」との緩音。五十音圖中「は」一行の第三に位置す。他の音の下にある時は「う」の如く轉呼することあり。いふ「言ひ」ふべ「タ」の如し。

ふ「節」名●ふし。むすびめ。「俵の一の」二のふ「生」名草木の多く生ひたること。「蓬」  
 ふ「斑」名地の色の中に他の色のまばらに雜れるもの。ふち。マダラ。「白」の羽  
 ふ「麸」名●小麦粉のふすま。「洗粉に用ゐる」むぎかす。●ふすまと小麦粉とを水に和し、鹽を少し加へて、捏ねて製したるもの。その生なるを生麸といひ、焼きたるを焼麸といふ。煮て食ふ。麵筋。●専ら焼麸の稱。  
 ふ「府」名●文書貨財等を藏むるくら。●やくしよ。官廳。近衛「鎮守」●みや、。都邑。●事物のあつまる處。「福の」●支那にて縣の上に位置する行政區劃。漢書地理志「州一三百五十八」●政務の機關。「議政の」  
 ●地方行政區劃の一。縣と共に地方自治

體の最上級たるものにして、郡及び市を以て組織せらる。東京・京都・大阪の三あり。  
 一の「かみ」一頭「名」近衛府の長官。  
 ふ「譜」名●一家の系統を記したるもの。系圖。●音樂の曲節の次第を符號にて記したるもの。●同類の物語を次第を立てて書きたるもの。百鬼の「」  
 ふ「賦」名●みつぎもの。とりたてもの。●政府が人民に命ずる勞役。ふやく。公役。●ふやく「大役の代りに上納する料金。●わりあて。わりつけ。●詩の六義の一。心に感じたるまゝを陳述すること。●漢以後に創始せる文章の一體。古詩の遺體に韻を踐みたるもの。亦賦「惜」替蠅「」  
 ふ「歩」名將棋の駒の名。一格づつ前へのみ進むを得るもの。なりて金は將のはたらきをなす。  
 ふ「傳」名かしづき。もりやく。  
 ふ「輔」名●古の官名。すけ。  
 ふ「腑」名●漢方醫にて、膽胃大腸小腸膀胱三焦の六つの總稱。はらわた。内臓。●ころ。心衷。  
 ふ「夫」名●をとこ。をのこ。●をたと。良人。  
 ふ「婦」名●をんな。女子。●女子の己に嫁きたる者。つま。妻。●よめ。子の妻。  
 ふ「符」名●わりふ。木片。竹筒にて作り、之に文字標記を記し分ちて兩片となし、各一を持し合して以て信となすもの。篇「一者袖也、以

輔「信」又驗也。證也。合也。●瑞祥。禮記註「萬物之一長」●神明佛陀の守護札。まほり。  
 ふ「頁」名●數「頁號」正の對。●借りて未だ償はざること。おひめ。●老母の稱。  
 ふ「計」名●死去のしらせ。  
 ふ「經」名●他動ハ下二次第に過ぎ行く。移り行く。たつ。經過す。「年月を」●「官を」  
 ふ「綜」他動ハ下二機に經絲を引きはらへる。「我が祈る願ひの絲の年をへて」  
 ふ「不」接頭●他語に冠して其意義を打消す語「丁分明」●他語に冠して其からず。悪しき等の意を表す語。「丁逆」●他語に冠して拙き醜き等の意を表す語。「丁手際」●器量「ふ」一の濁音。「ふ」音を發せんとするとき聲帯を振動せしむるによりて生ずる音。  
 ふ「分」名●尺度の名目。一寸の十分の一。●舊貨に一兩の四分の一。●錢一文の十分の一。●全數の百分の一又は十分の一の稱。●すべて全數を若干に分くるに「いふ語」三「二五」一  
 一「一」  
 ふ「歩」名●地積の單位。曲尺六尺四方の稱。坪。●わりあひ。ぶあひ  
 ぶ「部」名●事物の區分。こわけ。●事物の一方の處。一始の「終の」●書物を始終の一體にて數ふる語。書物の全體。「一五卷」  
 一「大」名ぶやく「大役」の人夫。役夫。  
 一「武」名●たけきこと。いきはひつよきこと。●い